

令和2年度  
障害者のスポーツに関する意識調査  
報告書

東京都オリンピック・パラリンピック準備局



# 目次

1 調査概要	1
1.1 調査目的	1
1.2 調査方法及び回答結果	1
(1) 調査方法	1
(2) 調査内容	1
(3) 調査対象及び回答結果	1
(4) 調査期間	2
(5) 利用上の注意	2
2 調査結果	3
2.1 障害者の属性	3
(1) 本人あるいは同居する家族における障害者の有無	3
(2) 年齢	4
(3) 性別	4
(4) 障害の種類	5
(5) 車いすの必要性の有無	6
(6) 障害者手帳の保有状況	7
(7) 障害が発生した年齢	13
(8) 過去1年間の就業状況	15
(9) 過去1年間の平日・日中の居場所	18
2.2 スポーツ・運動に関する情報源	21
2.3 スポーツ・運動の実施	24
(1) 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無	24
(2) 過去1年間にスポーツ・運動を行った日数	31
(3) 過去1年間にを行ったスポーツ・運動	36
(4) 過去1年間（新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前後の期間）にスポーツ・ 運動を行った日数（種目別）	45
(5) スポーツ・運動を実施する場所	47
(6) スポーツ・運動を一緒に実施する人	54
(7) スポーツ・運動を実施する理由	61
(8) スポーツ・運動を実施しない理由	68
(9) 現在のスポーツ・運動への取組	72
(10) スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援	77
(11) スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援	85
2.4 新型コロナウイルス感染症による影響	92
(1) 影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数	92
(2) 影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数（種目別）	99
(3) 影響を受ける前後での実施日数増減別のスポーツ・運動の実施状況	100
(4) 新型コロナウイルス感染症によるスポーツ・運動活動への影響・変化	102
(5) 新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援	107
3 まとめ（調査結果の概要）	112
○ 参考文献・付録	

注)「しょうがい」の用語は、「障がい」「障碍」などがあるが、本報告書では、法令等における表記である「障害」を使用した。



## 1 調査概要

### 1.1 調査目的

今後の東京都における障害者スポーツ振興に向け、都内に居住する障害のある方のスポーツに関する意識を調査し、「東京都スポーツ推進総合計画」（平成30年3月策定）における政策目標の達成状況等を把握する。

### 1.2 調査方法及び回答結果

#### (1) 調査方法

無記名式のインターネット調査

#### (2) 調査内容

- ・ 回答者本人および同居する家族の障害の有無
- ・ 障害者手帳の保有状況
- ・ 障害が発生した年齢
- ・ 過去1年間の収入を伴う仕事の従事状況
- ・ 過去1年間の平日日中の所在
- ・ スポーツや運動についての情報源
- ・ 過去1年間に行ったスポーツや運動の種目
- ・ 過去1年間に行ったスポーツや運動の種目別実施頻度
- ・ 過去1年間に行ったスポーツや運動の実施頻度
- ・ スポーツや運動を実施した場所
- ・ スポーツや運動を一緒にする人
- ・ スポーツや運動を実施した理由
- ・ スポーツや運動を実施していない理由
- ・ スポーツや運動を行う際に必要と考える支援
- ・ スポーツや運動への取組の満足度とその理由
- ・ 新型コロナウイルス感染症による影響を受ける前後に行ったスポーツや運動の実施頻度
- ・ 新型コロナウイルス感染症によるスポーツ・運動活動への影響・変化
- ・ 新型コロナウイルス感染症影響下でスポーツや運動を行う際に必要と考える支援

#### (3) 調査対象及び回答結果

インターネット市場でモニター登録している方のうち、以下に該当する方を調査対象とした。

- ・ 都内に居住する18歳以上の障害者本人あるいは同居する家族に障害者がいる方

該当する回答者は1,030人であり、その属性は以下のとおり。【図表 1】 【図表 2】 【図表 3】

なお、同居する家族として、障害者の兄弟、姉妹、子供が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上のものについてのみ、回答を依頼した結果、回答者本人及び同居する家族内の障害者を含めた障害者の総数は、1,321人であった。

【図表 1】回答者の居住地

居住地	回収数	比率(%)
23区	708	68.7
多摩	322	31.3
島しょ	0	0.0
合計	1,030	

【図表 2】回答者の年齢

年代	回収数	比率(%)
18～19歳	7	0.7
20歳代	117	11.4
30歳代	216	21.0
40歳代	185	18.0
50歳代	233	22.6
60歳代	167	16.2
70歳代以上	105	10.2
合計	1,030	

【図表 3】回答者の性別

性別	回収数	比率(%)
男性	545	52.9
女性	485	47.1
合計	1,030	

#### (4) 調査期間

2020年9月18日(金)～2020年9月28日(月)

#### (5) 利用上の注意

(ア) 比率の単位は「%」、実数の単位は「人」である。

(イ) 百分率は、小数点以下第2位を四捨五入したため、内訳の合計が100%とならない場合がある。

(ウ) 障害程度分類〔軽度／重度〕については、以下のとおり分類を行った。

- ・ 軽度：身体障害者手帳3～6級、療育手帳3～4度、精神障害者保健福祉手帳2～3級の保持者
- ・ 重度：上記以外の障害者手帳保持者

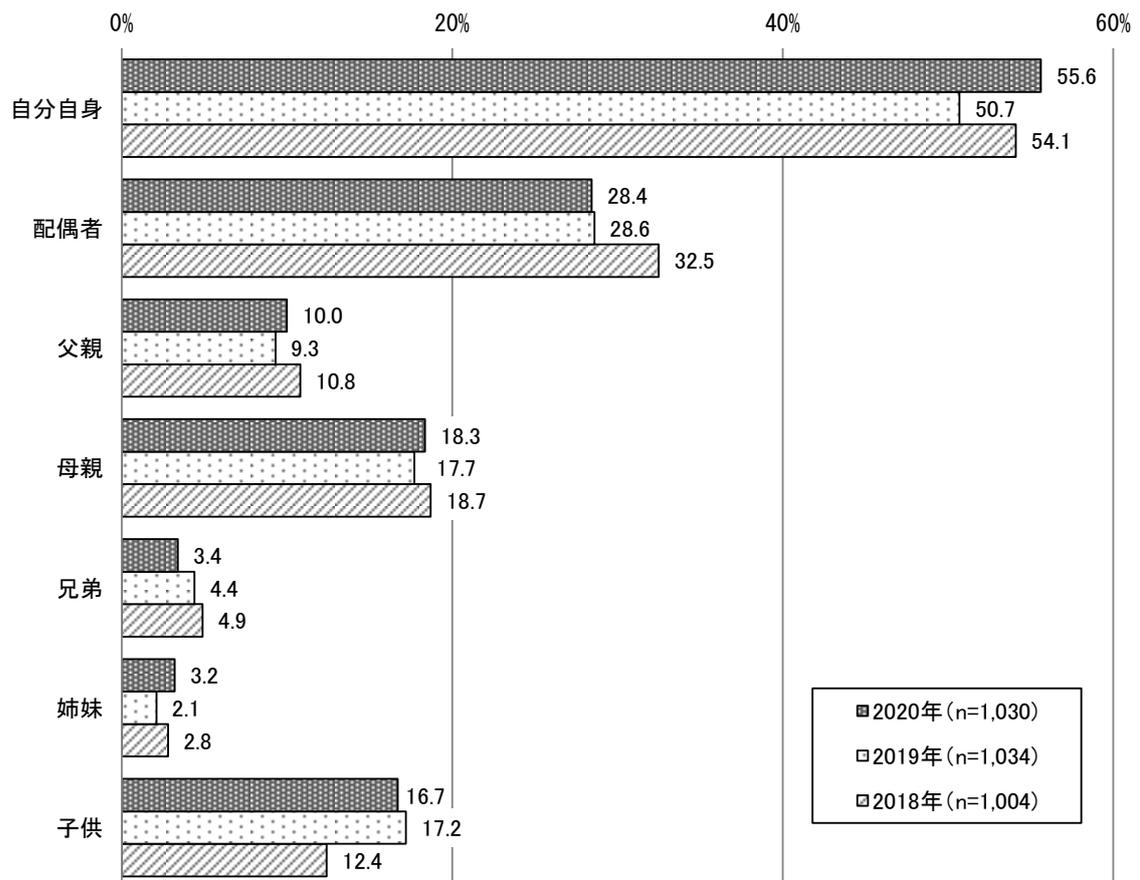
## 2 調査結果

### 2.1 障害者の属性

#### (1) 本人あるいは同居する家族における障害者の有無

本人あるいは同居する家族における障害者の有無については、「回答者自身」(55.6%)が最も多く、次いで「配偶者」(28.4%)、「母親」(18.3%)であった。【図表 4】

【図表 4】本人及び同居する家族における障害者の有無[複数回答]

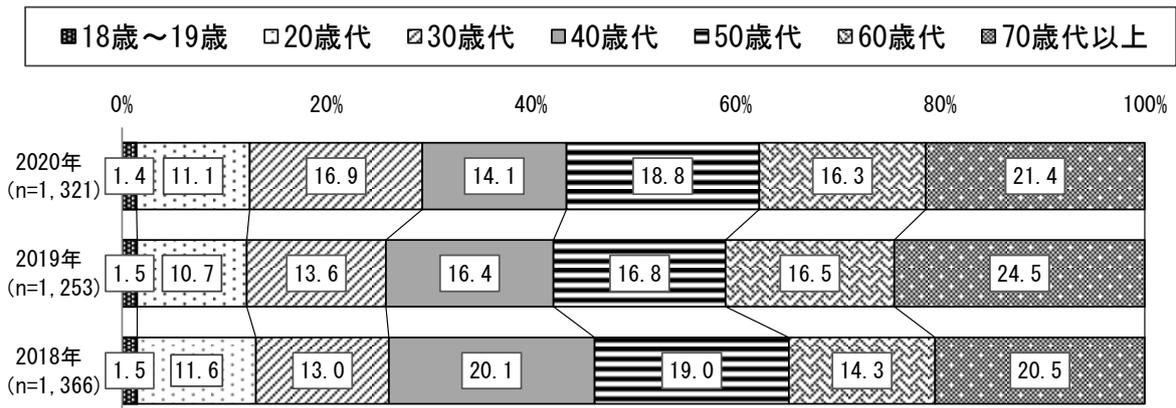


以降の報告では、障害者本人及び同居する障害者 1,321 人に関する回答結果を示している。

## (2) 年齢

総務省の平成 27 年国勢調査では、東京都の 18 歳以上の人口の内、18～19 歳が 2.2%、20 歳代が 14.2%、30 歳代が 17.6%、40 歳代が 19.3%、50 歳代が 14.1%、60 歳代が 13.8%、70 歳代以上が 18.8%であり、都民全体と比べて年齢構成に大きな差はなかった。【図表 5】

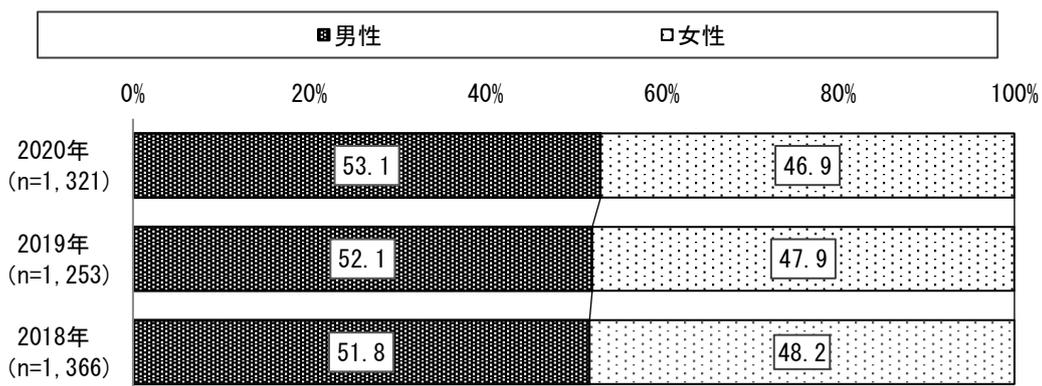
【図表 5】年齢



## (3) 性別

総務省の平成 27 年国勢調査では、東京都の人口の内、男性が 49.3%、女性が 50.7%であるが、都民全体と比べて男性の比率の方が(53.1%)、女性(46.9%)よりも高くなった。【図表 6】

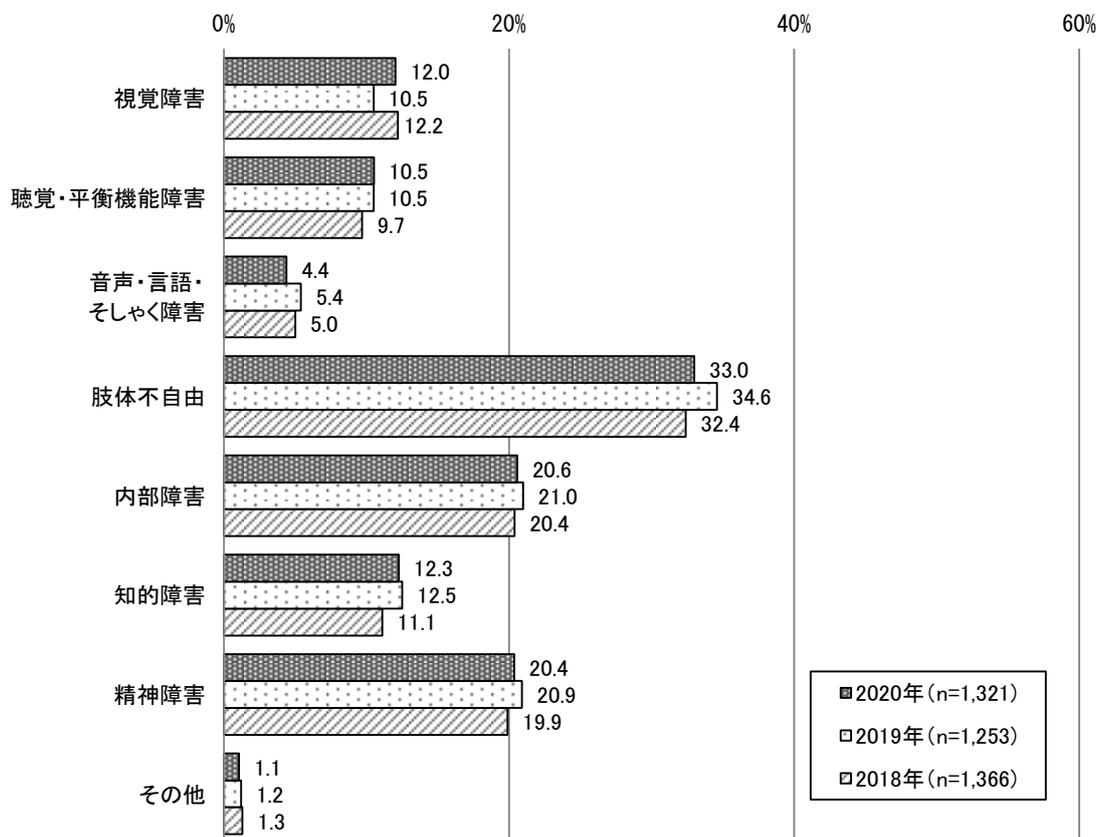
【図表 6】性別



#### (4) 障害の種類

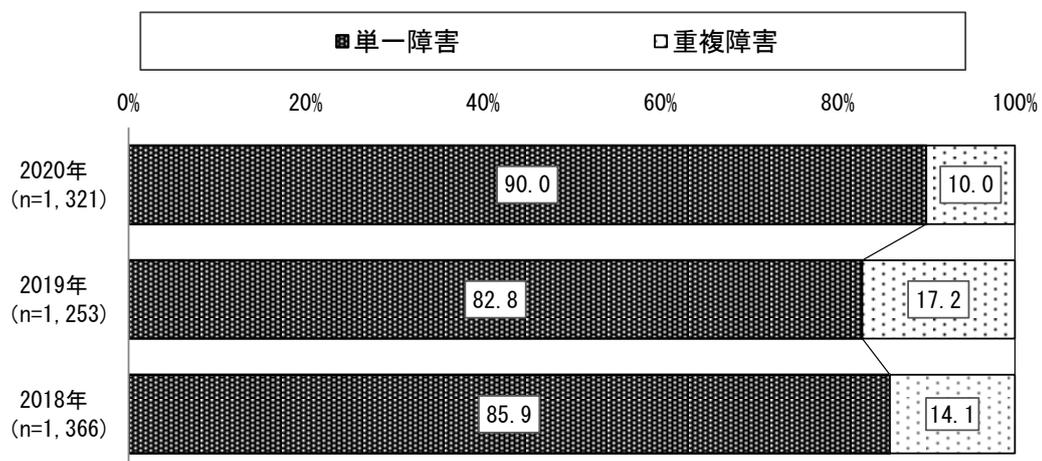
障害の種類は、「肢体不自由」(33.0%)の割合が最も高く、次いで「内部障害」(20.6%)、「精神障害」(20.4%)の順であった。【図表 7】

【図表 7】障害の種類[複数回答]



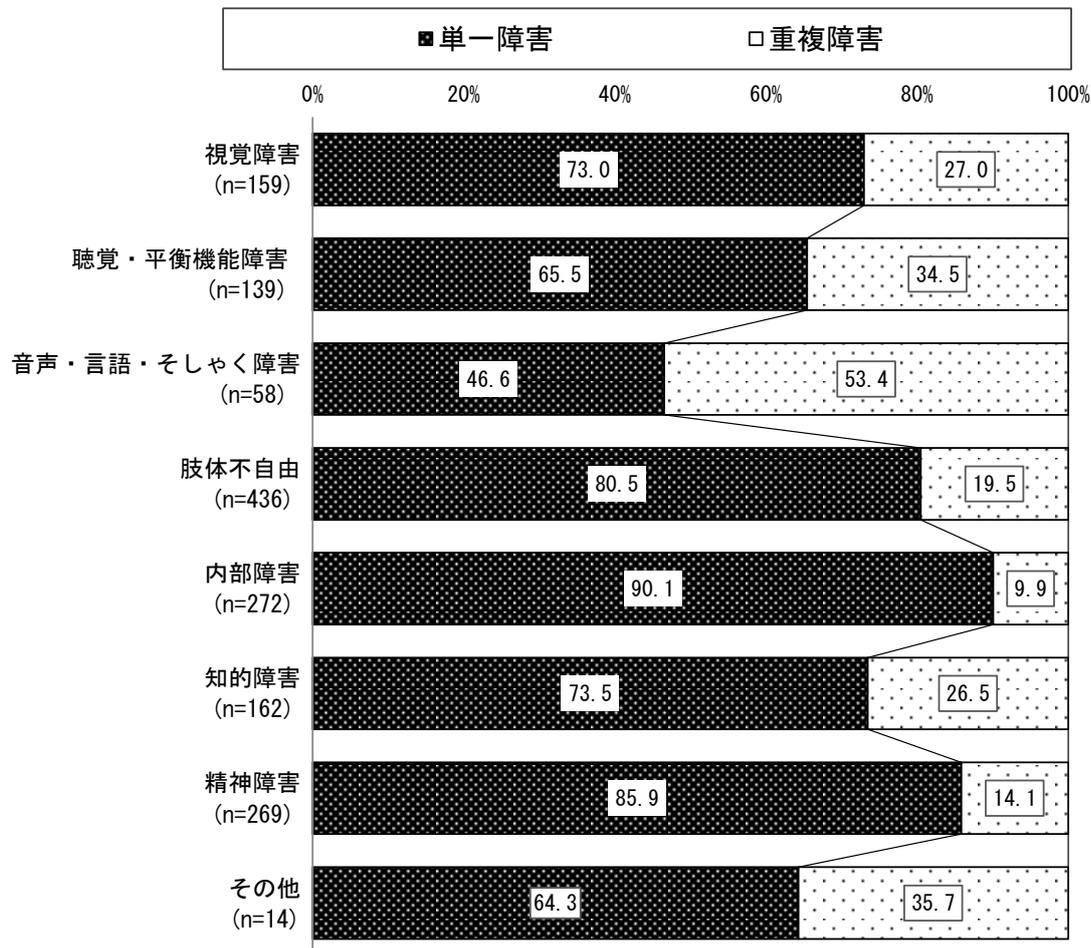
単一障害・重複障害の比率をみると、重複障害の比率は10.0%であった。【図表 8】

【図表 8】単一障害・重複障害の比率



障害種別にみると、重複障害の割合は、「その他」を除くと、「音声・言語・そしゃく機能障害」が53.4%、「聴覚・平衡機能障害」が34.5%と、他の障害に比べて高かった。【図表 9】

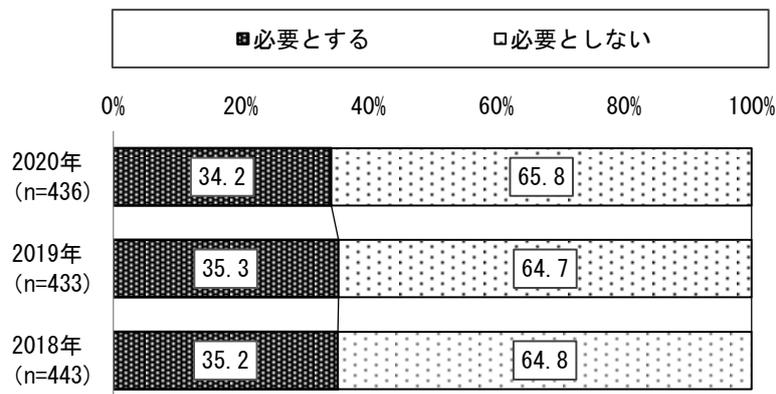
【図表 9】単一障害・重複障害の比率(障害種別)



### (5) 車いすの必要性の有無

車いすの必要性については、肢体不自由と回答のあった方 436 名のうち、「日常生活で車いすを必要とする」が 34.2%、「日常生活で車いすを必要としない」が 65.8%で、昨年度とほぼ同様であった。【図表 10】

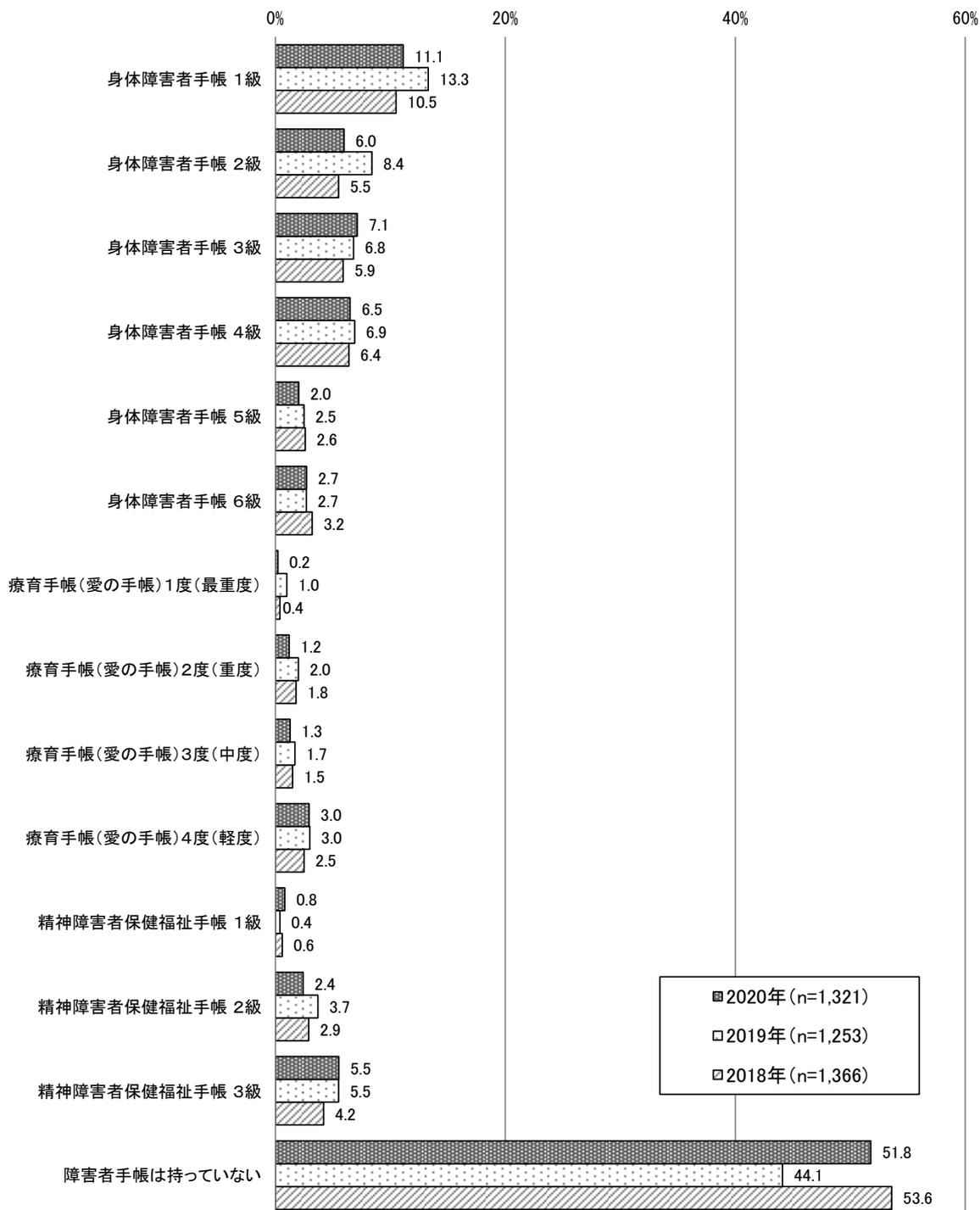
【図表 10】日常生活での車いすの必要性の有無



## (6) 障害者手帳の保有状況

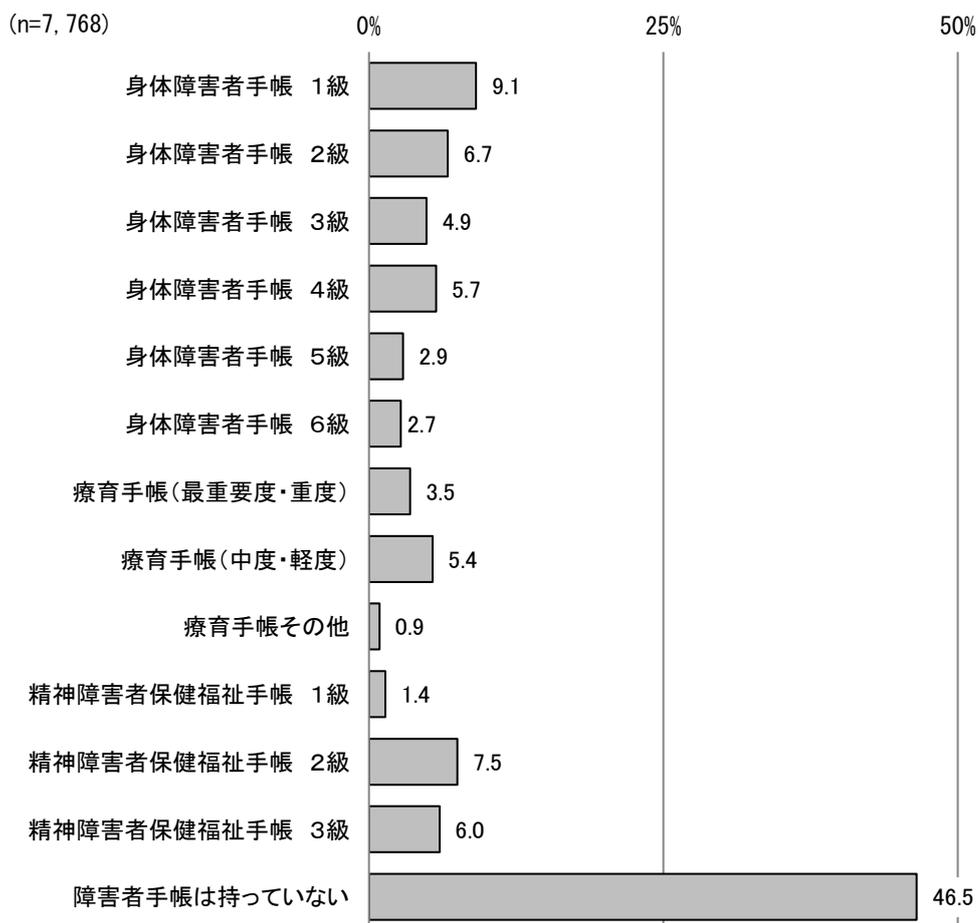
障害者手帳の保有状況については、「障害者手帳は持っていない」が51.8%であった。障害者手帳を持っている人の中では、「身体障害者手帳1級」(11.1%)の割合が最も高く、次いで「身体障害者手帳3級」(7.1%)、「身体障害者手帳4級」(6.5%)であった。【図表 11】

【図表 11】障害者手帳の保有状況<<手帳の種類>> [複数回答]



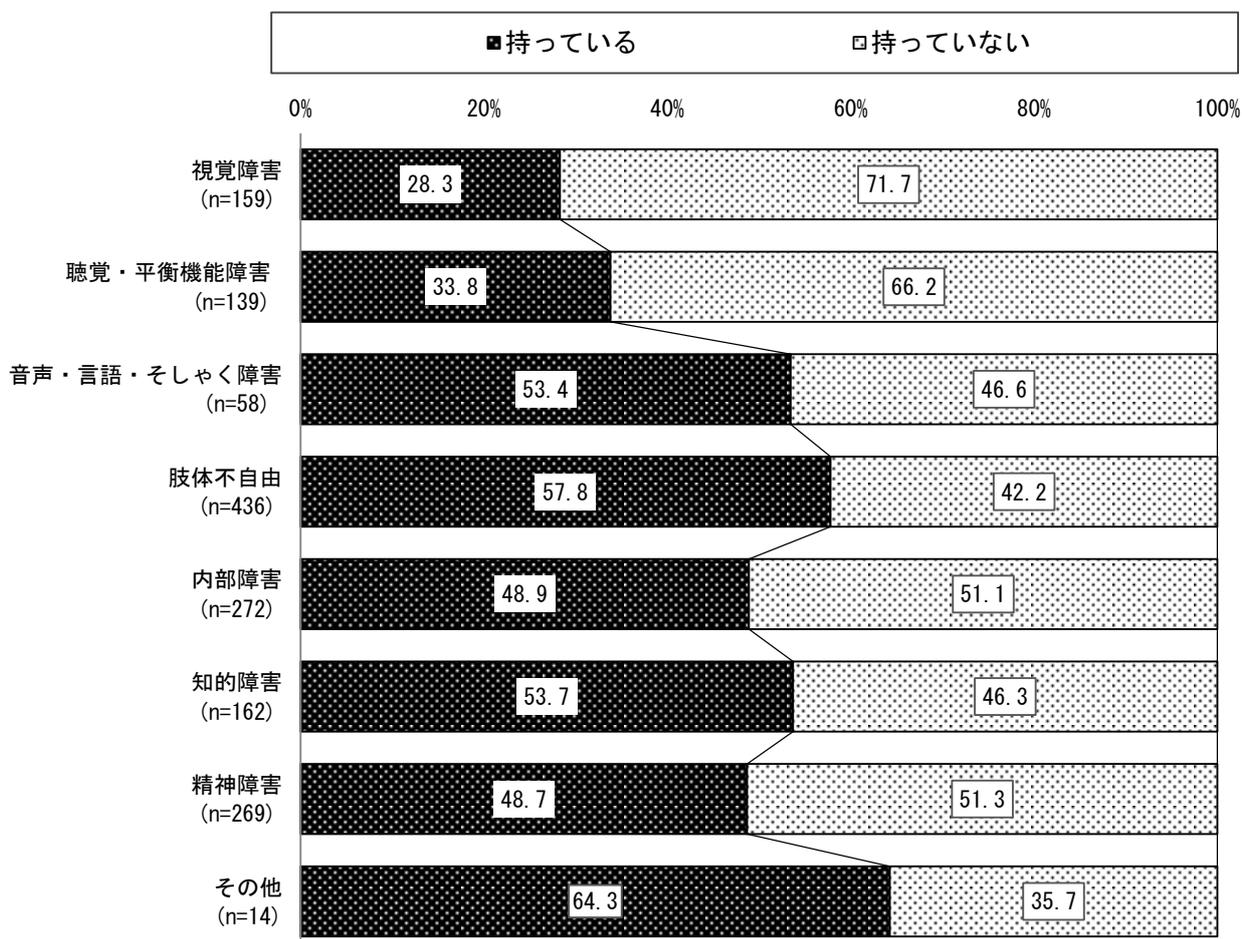
スポーツ庁が全国の障害児・者を対象に実施している『障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』(スポーツ庁：令和2年3月)と比べ、それぞれの手帳の保有率や「障害者手帳は持っていない」非保持者の割合に大きな差はなかった。【図表 12】

【図表 12】障害者手帳の保有状況<<手帳の種類>>[複数回答]  
『障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』  
(スポーツ庁：令和2年3月)



障害種別にみると、障害者手帳の保有率は、「その他」以外では「肢体不自由」(57.8%)の割合が最も高く、次いで「知的障害」(53.7%)、「音声・言語・そしゃく障害」(53.4%)であった。「視覚障害」は28.3%と低かった。【図表 13】

【図表 13】障害者手帳の保有状況<<保有の有無>>(障害種別)



また、障害種別の障害者手帳の保有状況をみると、重複して手帳を保持している方もいた。

【図表 14】

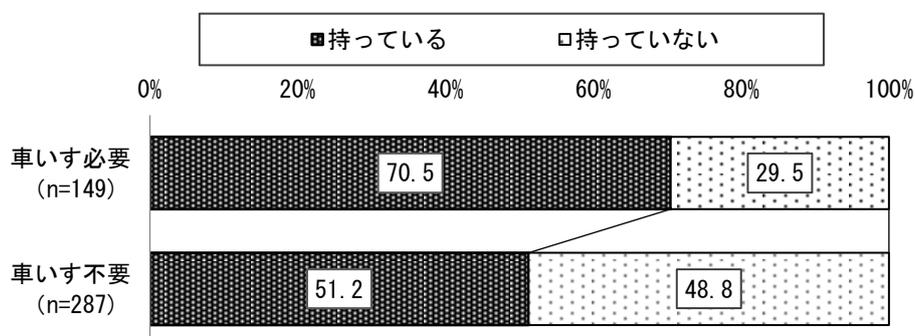
【図表 14】障害者手帳の保有状況《手帳の種類》(障害種別)[複数回答]

(単位:%)

	n	身体障害者手帳 1級	身体障害者手帳 2級	身体障害者手帳 3級	身体障害者手帳 4級	身体障害者手帳 5級	身体障害者手帳 6級	療育手帳(愛の手帳) 1度(最重度)	療育手帳(愛の手帳) 2度(重度)	療育手帳(愛の手帳) 3度(中度)	療育手帳(愛の手帳) 4度(軽度)	精神障害者保健福祉手帳 1級	精神障害者保健福祉手帳 2級	精神障害者保健福祉手帳 3級	障害者手帳は持っていない
視覚障害	159	6.3	3.1	4.4	3.8	1.3	4.4	0.0	0.0	1.3	2.5	1.3	0.6	1.3	71.7
聴覚・平衡機能障害	139	10.1	5.0	7.9	4.3	2.2	1.4	0.0	0.0	0.7	0.7	2.2	0.7	1.4	66.2
音声・言語・そしゃく機能障害	58	20.7	6.9	6.9	6.9	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	1.7	3.4	3.4	3.4	46.6
肢体不自由	436	11.9	11.9	11.9	11.2	4.4	4.4	0.5	0.2	0.5	0.7	0.2	0.5	1.1	42.2
内部障害	272	27.6	4.4	5.9	7.7	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	1.1	0.0	51.1
知的障害	162	1.2	1.2	4.3	3.7	1.2	2.5	1.2	8.6	7.4	19.1	3.1	0.6	5.6	46.3
精神障害	269	1.9	3.0	4.8	1.5	0.7	0.7	0.0	0.4	0.4	2.6	1.9	10.8	23.4	51.3
その他	14	28.6	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	28.6	35.7

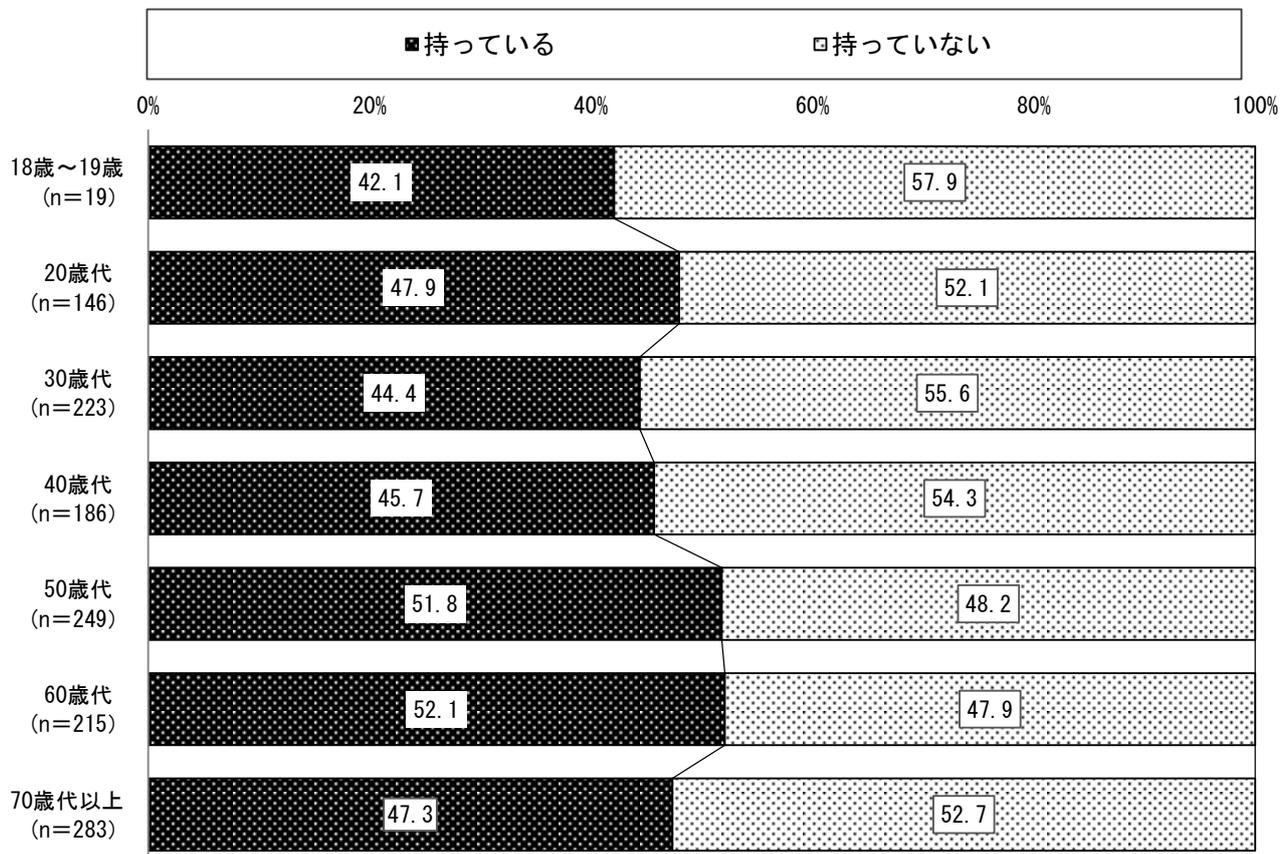
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」の保有率が70.5%であったのに対し、「日常生活で車いすを必要としない」の保有率は51.2%であった。【図表 15】

【図表 15】障害者手帳の保有状況《保有の有無》(日常生活で車いす必要／不要)



年齢別でみると、障害者手帳の保有率は、「60歳代」（52.1%）と「50歳代」（51.8%）で5割を超えた。【図表 16】

【図表 16】障害者手帳の保有状況《保有の有無》（年齢別）



また、身体障害者手帳は、年齢が上がるにつれて保有率が高くなる傾向であった。【図表 17】

【図表 17】障害者手帳の保有状況≪手帳の種類≫(年齢別)[複数回答]

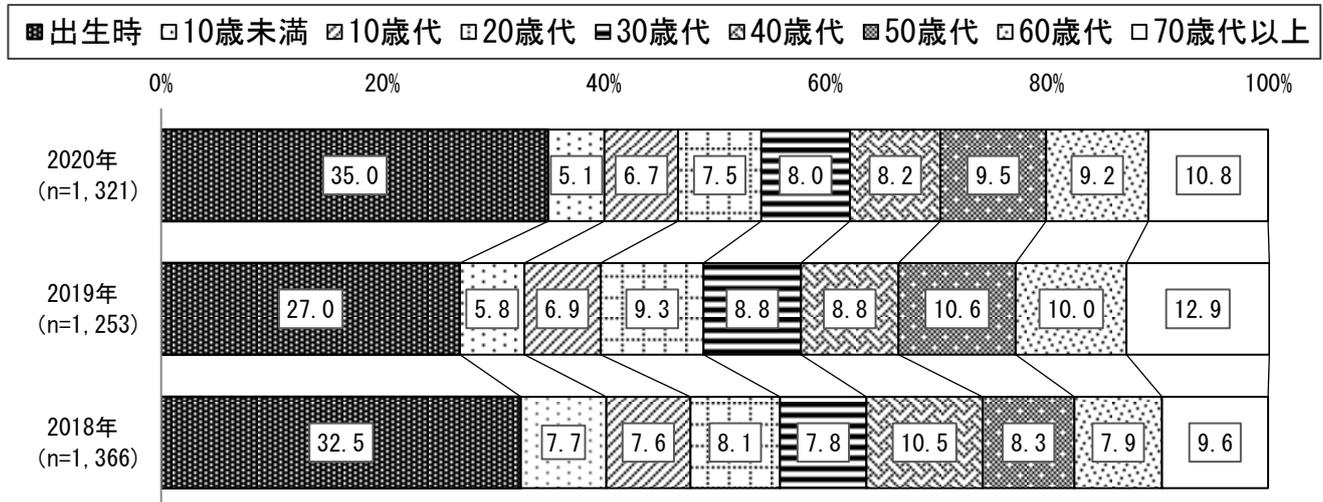
(単位:%)

	n	身体障害者手帳 1級	身体障害者手帳 2級	身体障害者手帳 3級	身体障害者手帳 4級	身体障害者手帳 5級	身体障害者手帳 6級	療育手帳(愛の手帳) 1度(最重度)	療育手帳(愛の手帳) 2度(重度)	療育手帳(愛の手帳) 3度(中度)	療育手帳(愛の手帳) 4度(軽度)	精神障害者保健福祉手帳 1級	精神障害者保健福祉手帳 2級	精神障害者保健福祉手帳 3級	障害者手帳は持っていない
18歳～19歳	19	0.0	0.0	10.5	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	15.8	5.3	0.0	10.5	57.9
20歳代	146	6.8	2.7	7.5	4.1	0.7	1.4	0.0	3.4	7.5	5.5	0.0	1.4	8.9	52.1
30歳代	223	5.8	4.9	4.5	4.5	2.2	2.2	0.4	2.7	1.8	4.5	2.7	4.9	6.3	55.6
40歳代	186	8.1	5.9	4.8	4.3	1.1	3.8	0.0	1.1	0.5	5.9	0.5	3.8	8.6	54.3
50歳代	249	14.1	7.6	4.4	6.8	1.6	4.0	0.8	0.8	0.0	2.0	0.4	2.0	8.4	48.2
60歳代	215	13.5	8.4	9.8	10.7	2.8	1.9	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	2.8	1.9	47.9
70歳代以上	283	15.9	5.7	10.6	7.8	2.8	2.8	0.0	0.0	0.4	0.4	0.7	0.4	1.1	52.7

## (7) 障害が発生した年齢

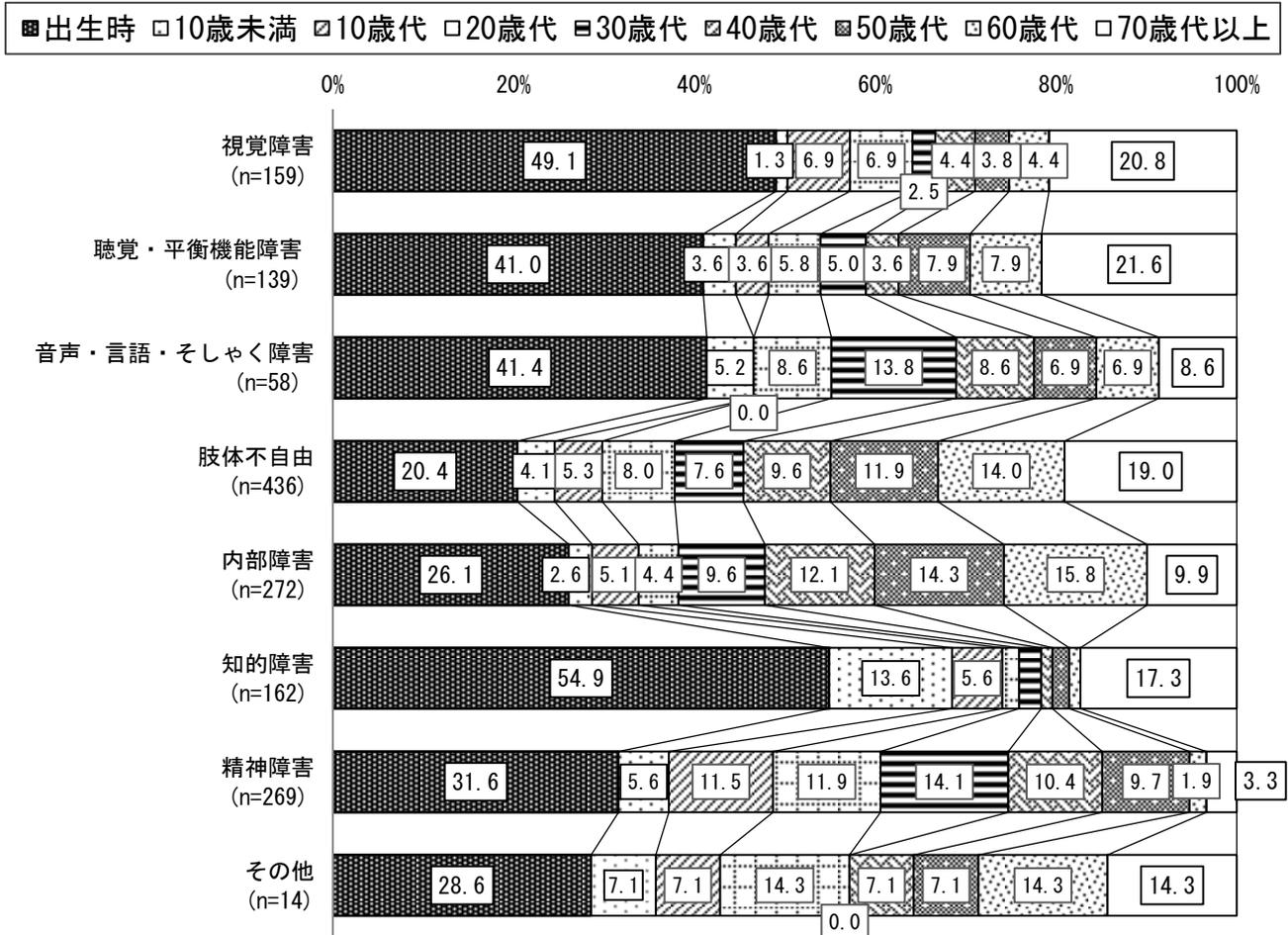
障害が発生した年齢については、「出生時」が35.0%である一方、「40歳代以降」に障害が発生した人も37.8%おり、障害が発生した年齢は多様であった。【図表 18】

【図表 18】障害が発生した年齢



障害種別にみると、他の障害と比べて、「知的障害」(54.9%)と「視覚障害」(49.1%)は、「出生時」の割合が高かった。また、「知的障害」は、低年齢時の発生の割合が他の障害に比べて高く、「肢体不自由」「内部障害」は「50歳代」以上の発生の割合が他の障害に比べて高かった。【図表 19】

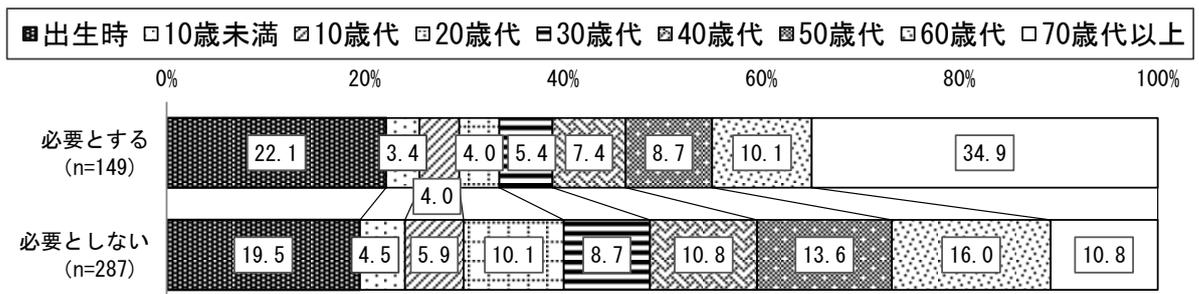
【図表 19】障害が発生した年齢(障害種別)



日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」では「70歳代以上」(34.9%)が最も高かった。【図表 20】

【図表 20】障害が発生した年齢(日常生活で車いす必要／不要)

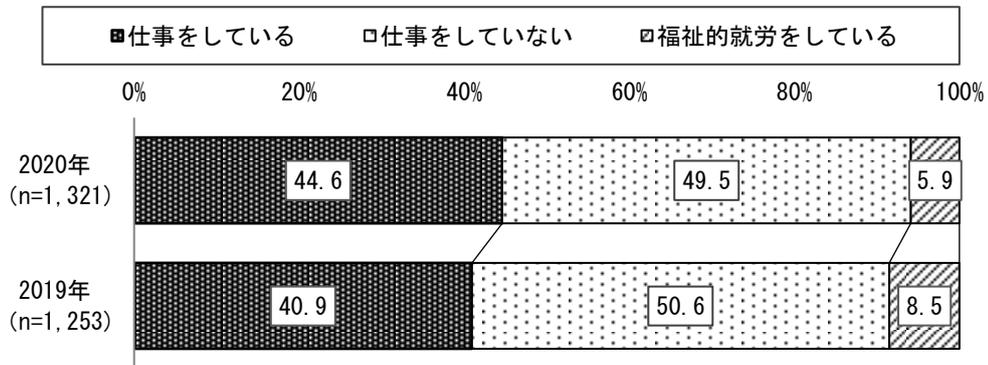
n=436(肢体不自由)



## (8) 過去 1 年間の就業状況

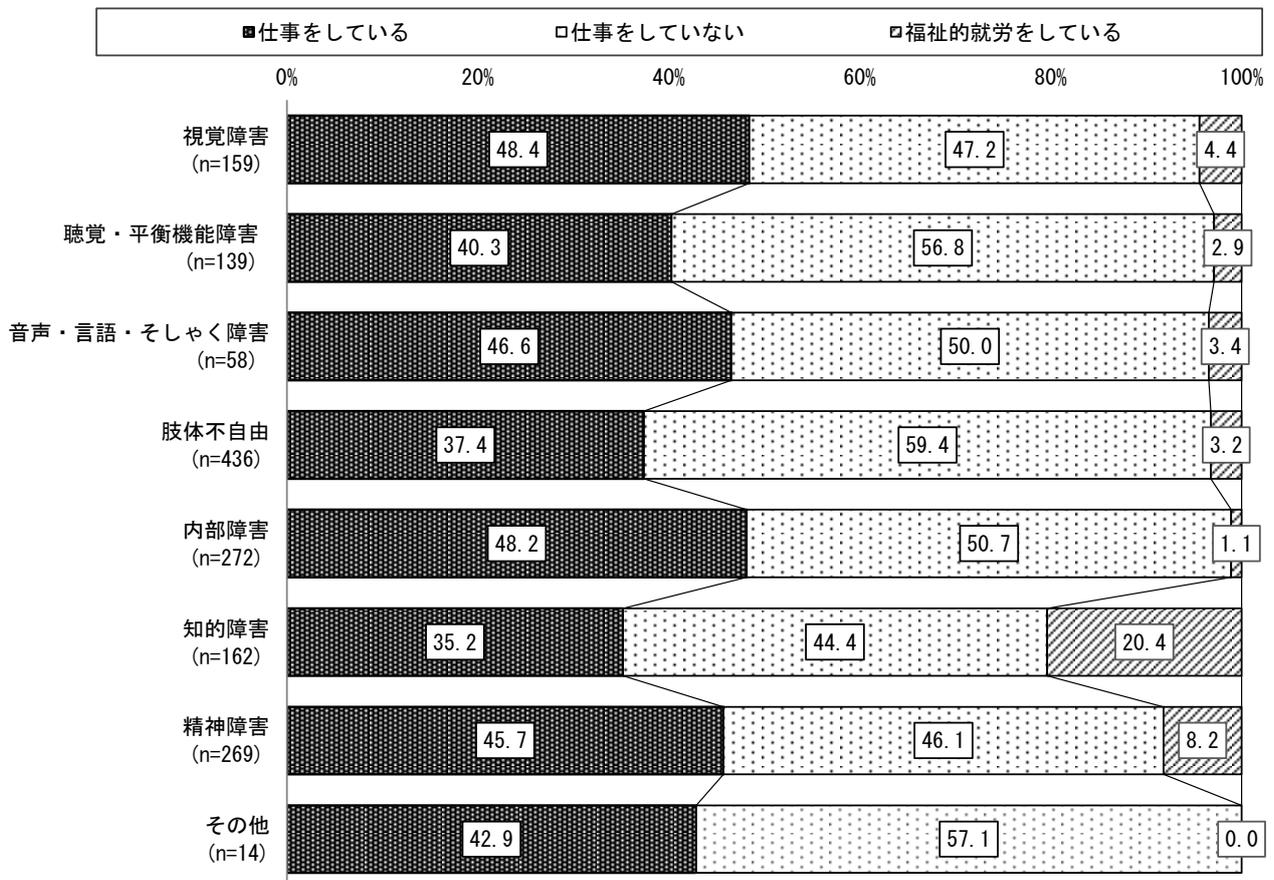
過去 1 年間の就業状況については、「仕事をしている」が 44.6%で、「福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型、就労定着支援)」(5.9%)と合わせて、約半数が何らかの就労をしていた。【図表 21】

【図表 21】過去 1 年間の就業状況



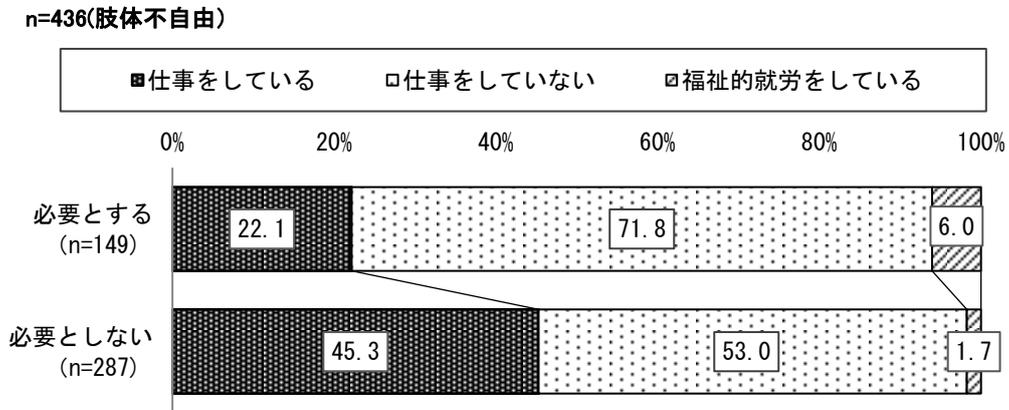
障害種別にみると、「仕事をしている」割合は、「視覚障害」(48.4%)、「内部障害」(48.2%)、「音声・言語・そしゃく機能障害」(46.6%)の順で高かった。【図表 22】

【図表 22】過去 1 年間の就業状況(障害種別)



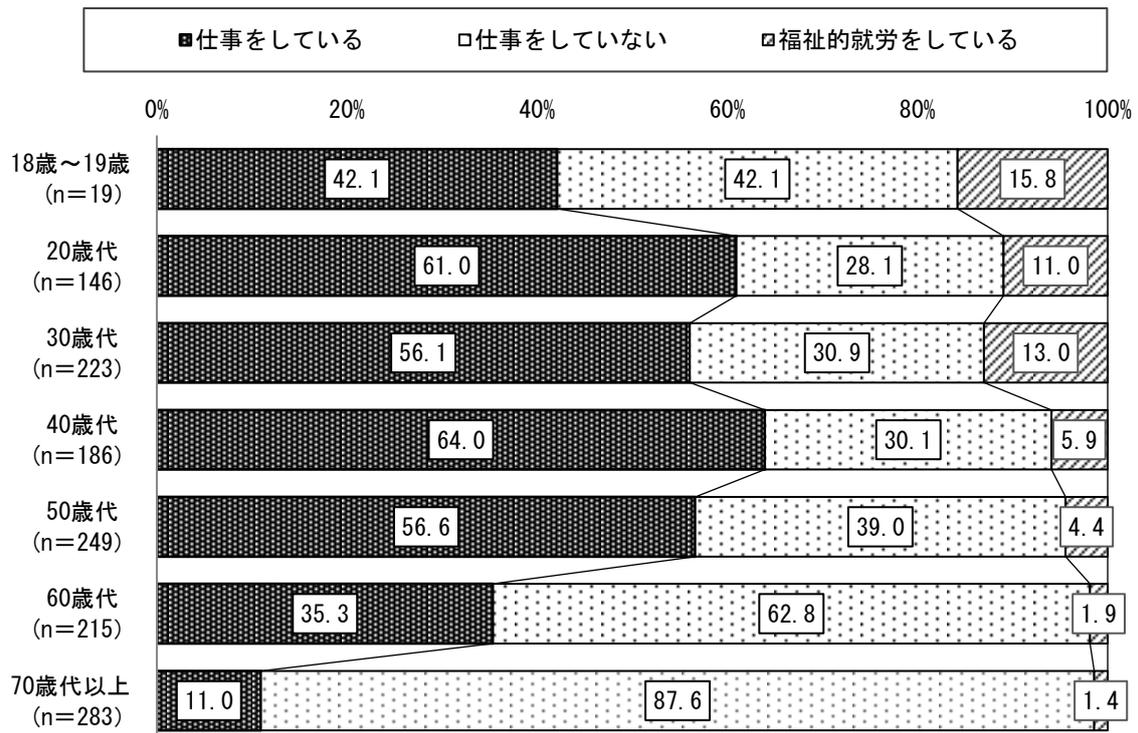
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「仕事をしている」割合は、「日常生活で車いすを必要としない」で45.3%、「日常生活で車いすを必要とする」では22.1%であった。【図表 23】

【図表 23】過去1年間の就業状況(日常生活で車いす必要／不要)



年齢別でみると、「仕事をしている」割合は、20歳代～50歳代で5割を超えた。【図表 24】

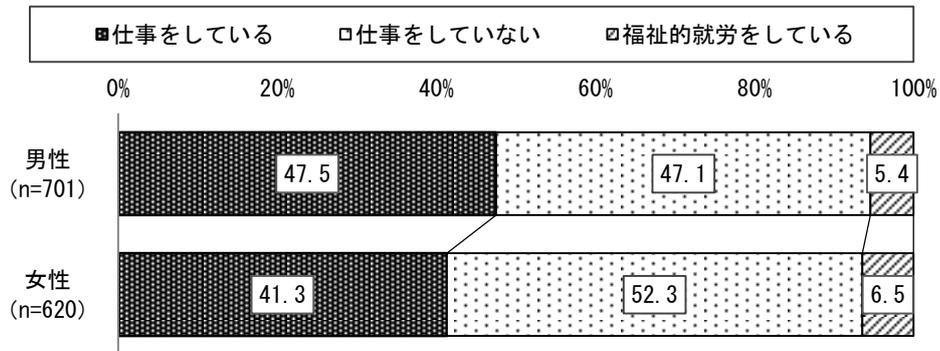
【図表 24】過去1年間の就業状況(年齢別)



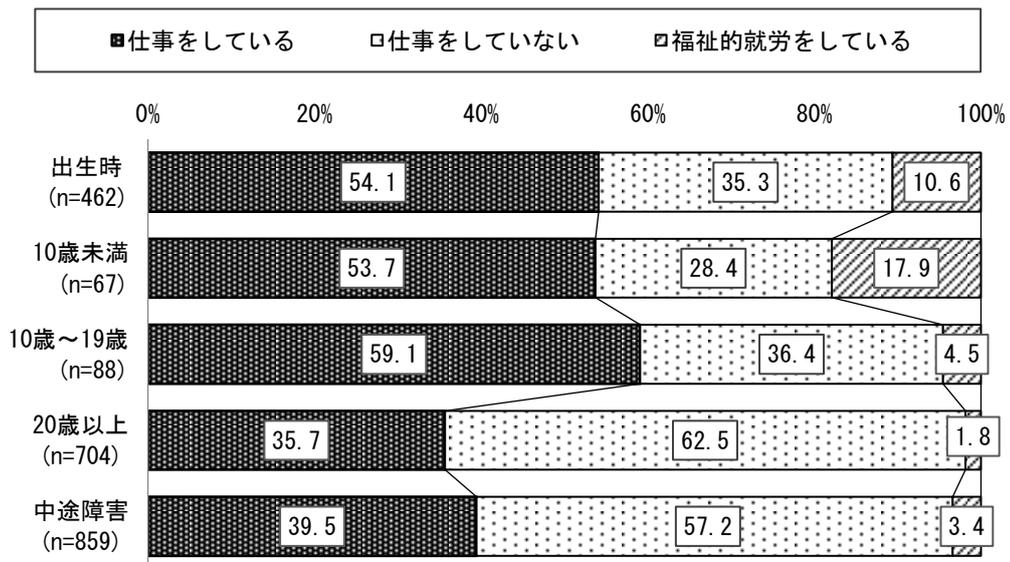
性別で見ると、「仕事をしている」割合は、「男性」(47.5%)の方が「女性」(41.3%)よりも高かった。障害が発生した年齢別で見ると、「仕事をしている」割合は、「出生時」(54.1%)の方が「中途障害」(39.5%)よりも高かった。「仕事をしている」割合を障害者手帳の保有状況別にみると、「障害者手帳を持っていない」(47.8%)の方が「障害者手帳を持っている」(41.1%)よりも高かった。

【図表 25】 【図表 26】 【図表 27】

【図表 25】過去1年間の就業状況(性別)

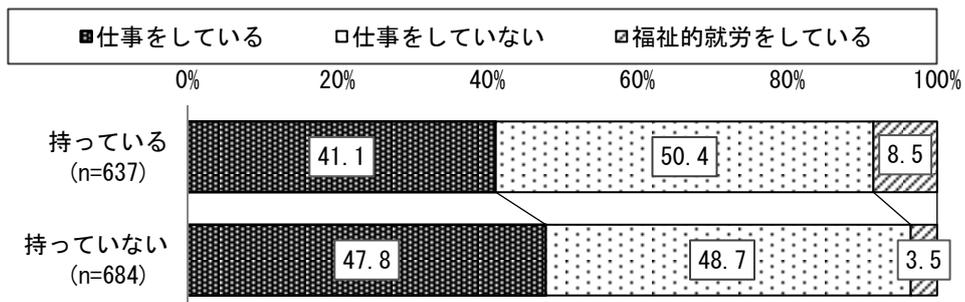


【図表 26】過去1年間の就業状況(障害が発生した年齢別)



※「中途障害」は「10歳未満」、「10歳～19歳」、「20歳以上」の総和です。

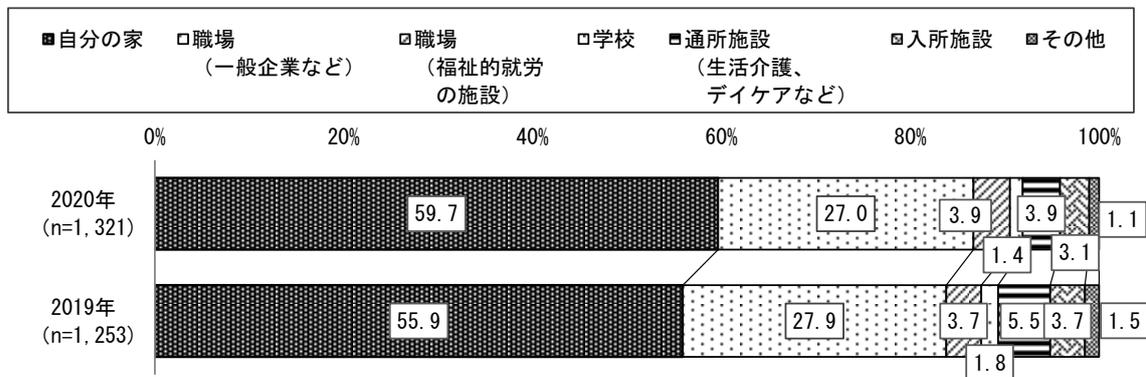
【図表 27】過去1年間の就業状況(障害者手帳の保有状況別)



### (9) 過去 1 年間の平日・日中の居場所

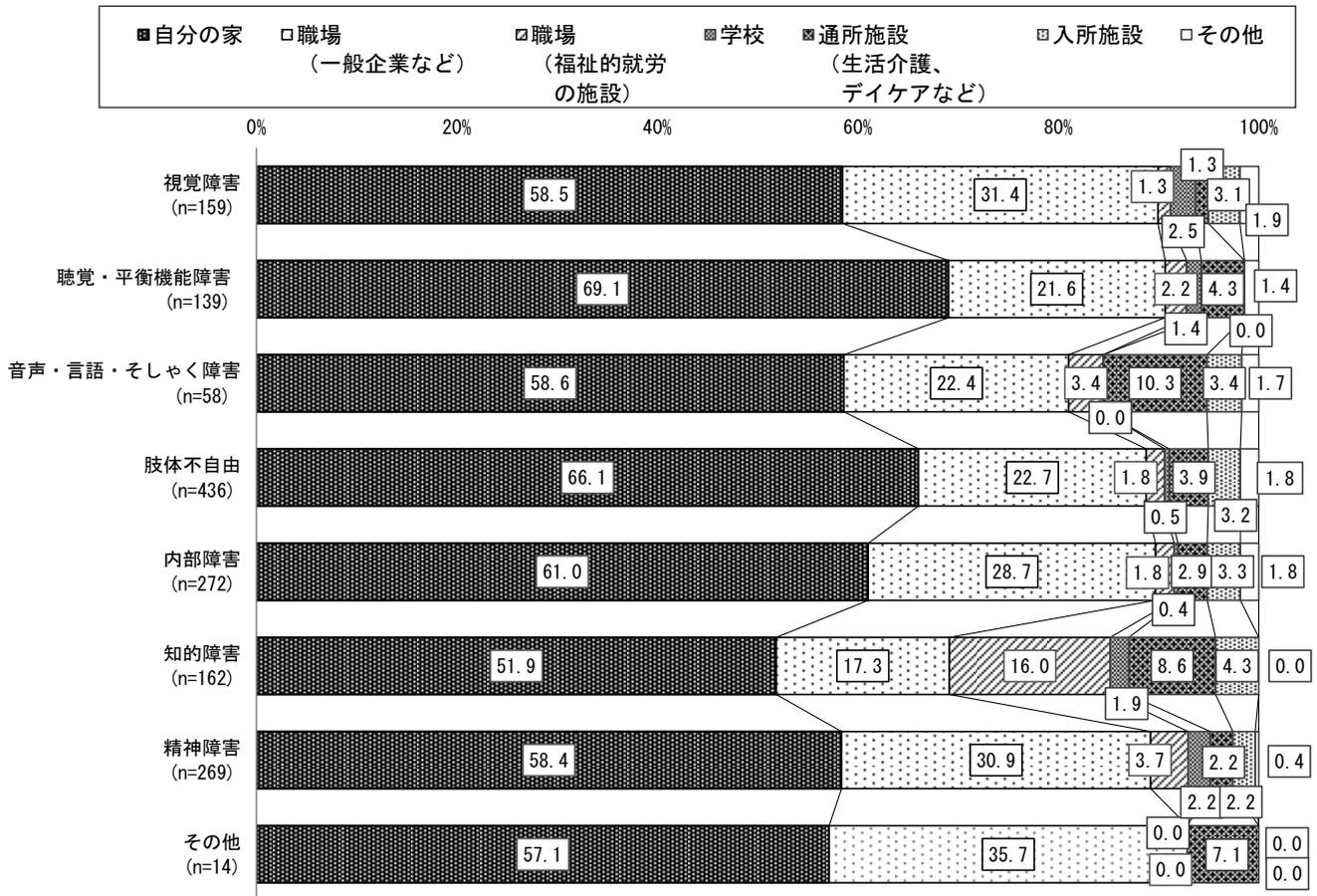
過去 1 年間の平日・日中の居場所については、「自分の家」が 59.7%で、「職場(一般企業など)」(27.0%)と「職場(福祉的就労(就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型、就労定着支援)の施設)」(3.9%)を合わせた「職場」が 30.9%であった。【図表 28】

【図表 28】過去 1 年間の平日・日中の居場所



障害種別にみると、「聴覚・平衡機能障害」、「肢体不自由」、「内部障害」では平日の日中に「自分の家」にいる割合が6割を超え、「視覚障害」と「精神障害」では「職場（一般企業など）」にいる割合が3割を超えた。【図表 29】

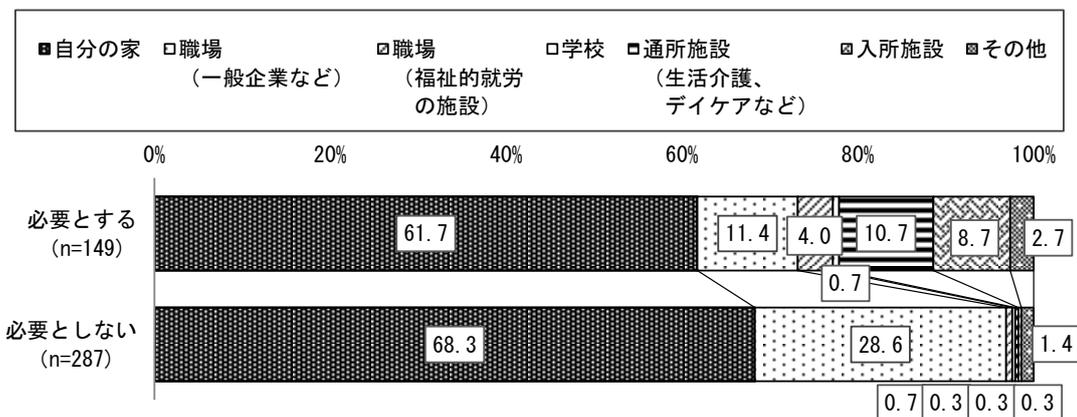
【図表 29】過去1年間の平日・日中の居場所(障害種別)



日常生活で車いす必要／不要別にみると、いずれも「自分の家」が最も高かった。また、「日常生活で車いすを必要としない」では「職場(一般企業など)」も28.6%であった。【図表 30】

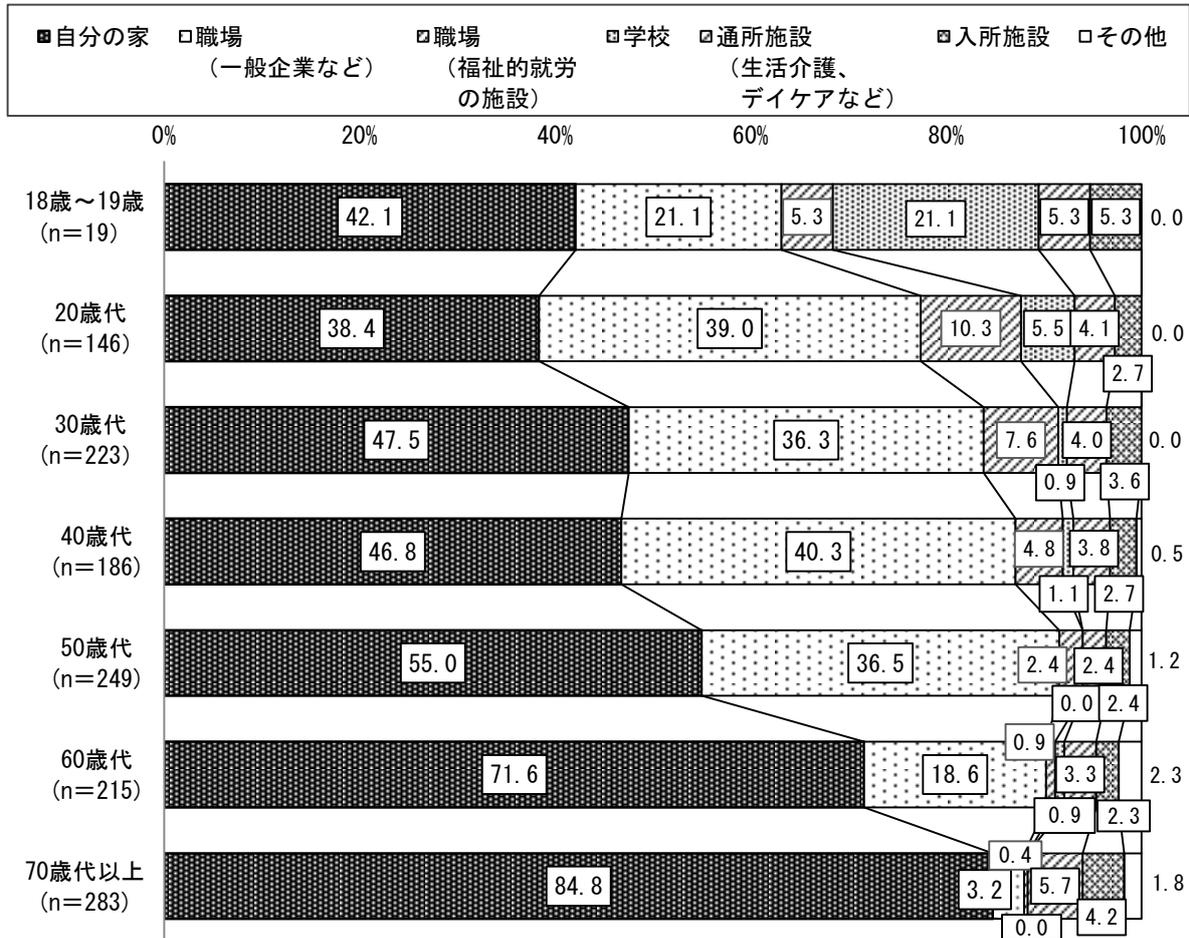
【図表 30】過去1年間の平日・日中の居場所(日常生活で車いす必要／不要)

n=436(肢体不自由)



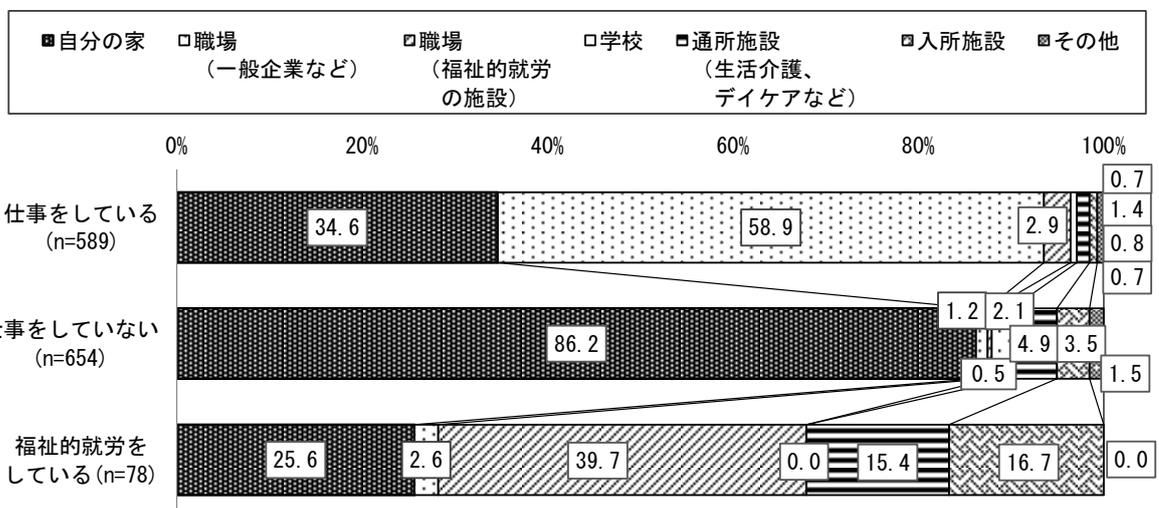
年齢別で見ると、年齢が上がるにつれて、平日の日中に「自分の家」にいる割合が高くなる傾向であった。【図表 31】

【図表 31】過去1年間の平日・日中の居場所(年齢別)



就業状況別にみると、「仕事をしている」では「職場 (一般企業など)」が最も高く、「仕事をしていない」では「自分の家」が最も高く 86.2%に上った。【図表 32】

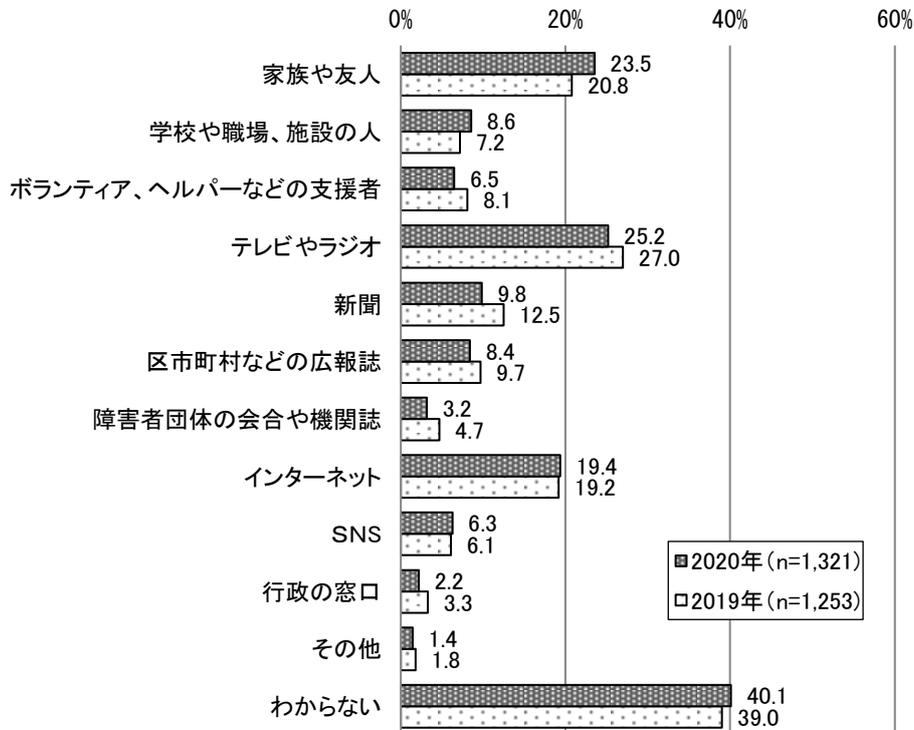
【図表 32】過去1年間の平日・日中の居場所(就業状況別)



## 2.2 スポーツ・運動に関する情報源

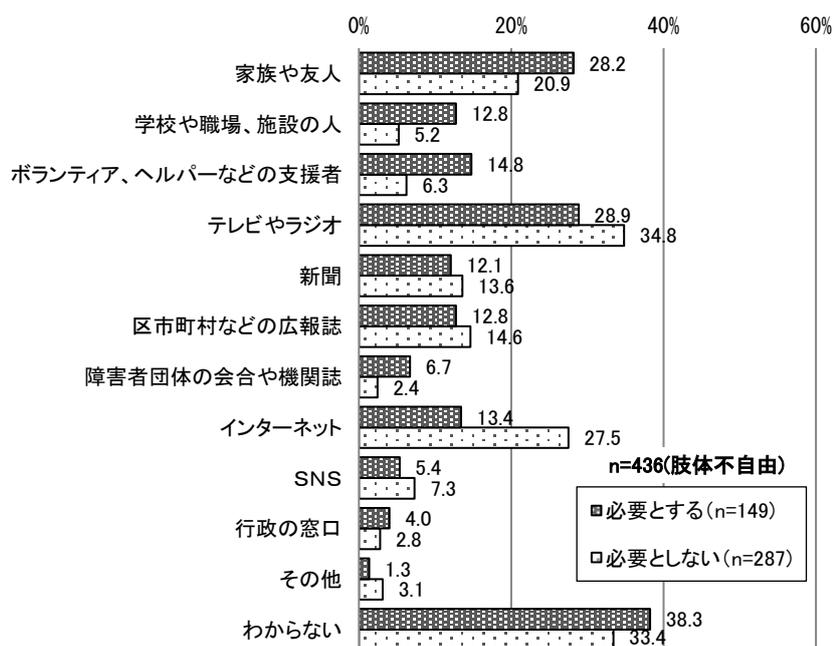
スポーツや運動に関する情報源としては、「テレビやラジオ」の割合が 25.2%で最も高く、次いで「家族や友人」(23.5%)、「インターネット」(19.4%)の順であった。【図表 33】

【図表 33】スポーツ・運動に関する情報源[複数回答]



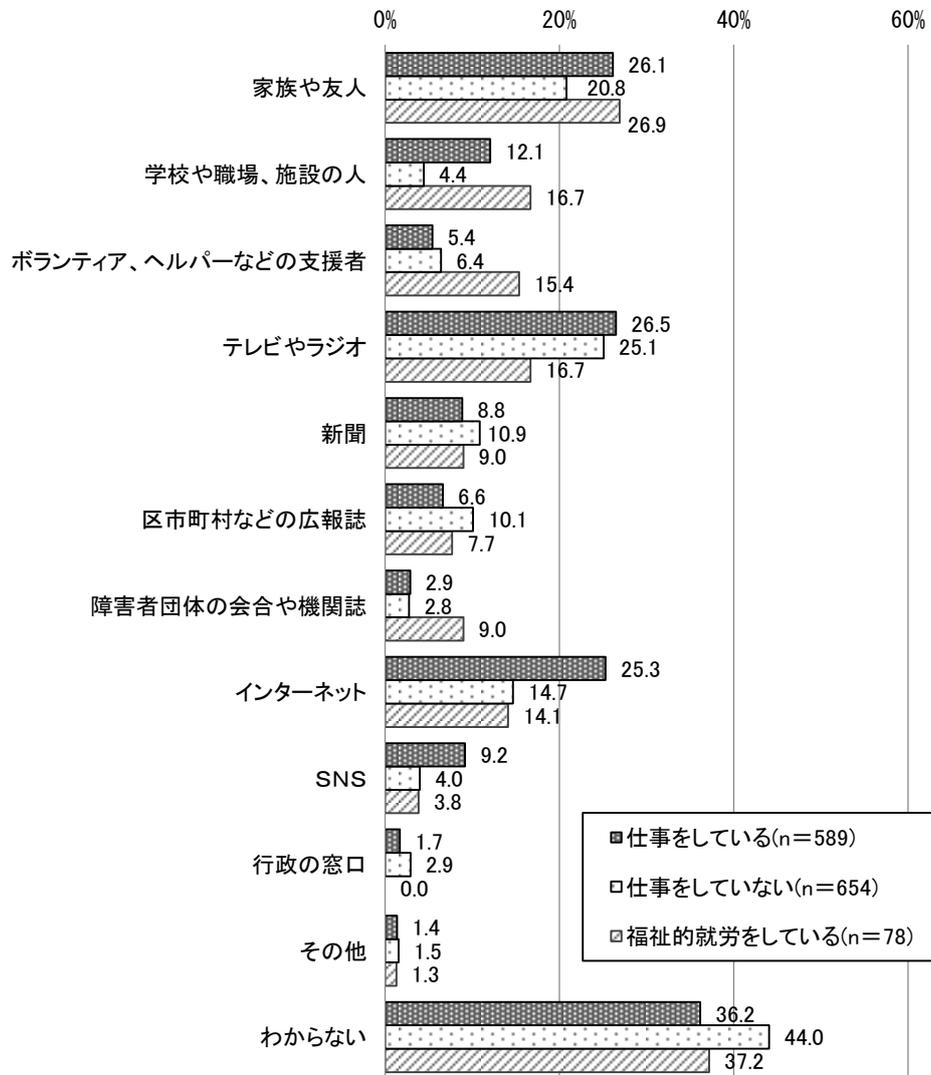
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」は、「テレビやラジオ」(28.9%)、「家族や友人」(28.2%)の順で高く、「日常生活で車いすを必要としない」は「テレビやラジオ」(34.8%)、「インターネット」(27.5%)の順で高かった。【図表 34】

【図表 34】スポーツ・運動に関する情報源(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



就業状況別にみると、「仕事をしている」人では、「仕事をしていない」人に比べて、「インターネット」「学校や職場、施設の人」「SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど)」を情報源とする割合が高かった。【図表 35】

【図表 35】スポーツ・運動に関する情報源(就業状況別)[複数回答]



平日・日中の居場所別にみると、「職場（一般企業など）」にいる人は「インターネット」の割合が高く、「自分の家」にいる人は「テレビやラジオ」と「家族や友人」の割合が高かった。【図表 36】

【図表 36】スポーツ・運動に関する情報源(平日・日中の居場所別)[複数回答]

(単位:%)

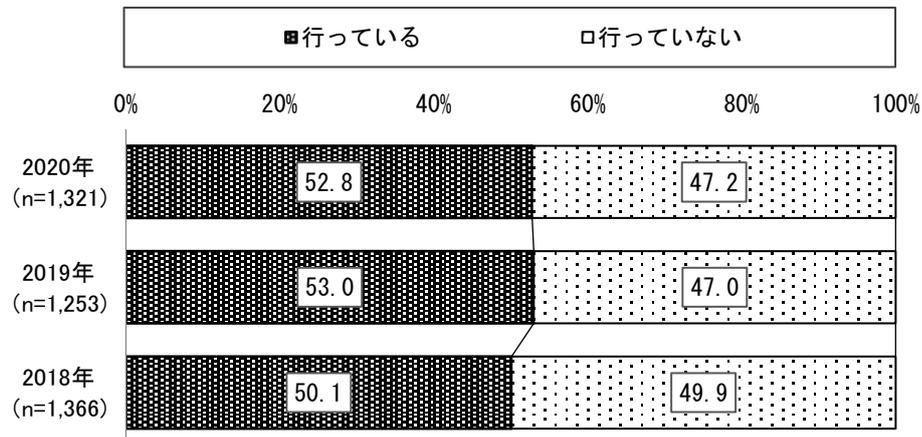
	n	家族や友人	学校や職場、施設の人	ボランティア、ヘルパーなどの支援者	テレビやラジオ	新聞	区市町村などの広報誌	障害者団体の会合や機関誌	インターネット	SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど）	行政の窓口	その他	わからない
自分の家	788	24.5	3.9	5.8	24.6	10.7	9.0	2.8	15.9	4.3	2.4	1.5	41.2
職場 (一般企業など)	357	20.7	14.0	4.5	29.1	9.2	6.7	3.1	29.4	11.5	1.4	1.4	37.8
職場 (福祉的就労の施設)	51	29.4	29.4	19.6	17.6	9.8	9.8	11.8	15.7	5.9	0.0	2.0	27.5
学校	18	33.3	16.7	0.0	27.8	5.6	5.6	0.0	16.7	5.6	0.0	0.0	38.9
通所施設 (生活介護、デイケアなど)	52	32.7	26.9	19.2	23.1	9.6	5.8	3.8	19.2	3.8	3.8	0.0	28.8
入所施設	41	12.2	0.0	7.3	19.5	2.4	7.3	2.4	7.3	0.0	7.3	0.0	58.5
その他	14	7.1	0.0	7.1	7.1	7.1	28.6	0.0	14.3	14.3	0.0	7.1	71.4

## 2.3 スポーツ・運動の実施

### (1) 過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無

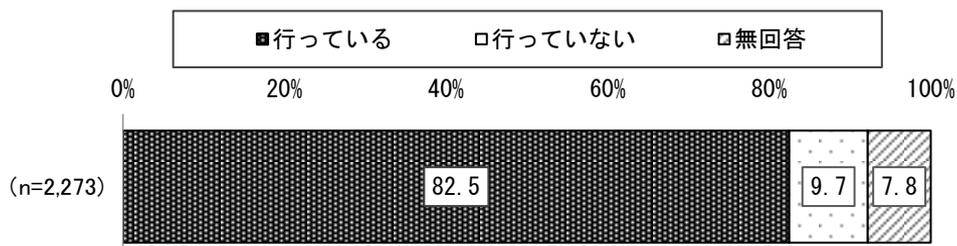
過去1年間のスポーツや運動の実施の有無については、「行っている」が52.8%であり、昨年度とほぼ同様であった。【図表 37】

【図表 37】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無



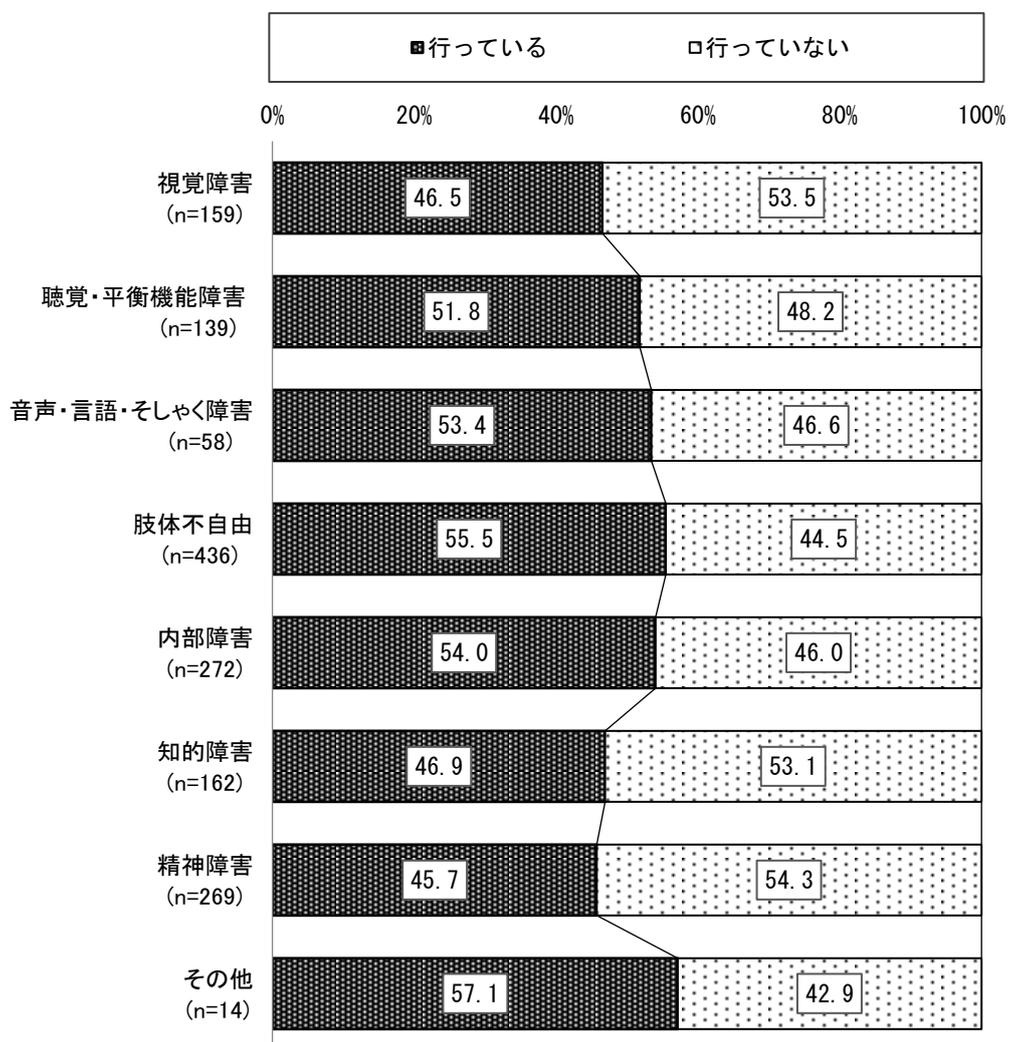
なお、18歳以上の都民全般を対象に実施している『都民生活に関する世論調査』(東京都生活文化局：令和3年1月)では、年1日以上スポーツ・運動実施者の割合は82.5%であった。【図表 38】

【図表 38】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無  
『都民生活に関する世論調査』(東京都生活文化局：令和3年1月)



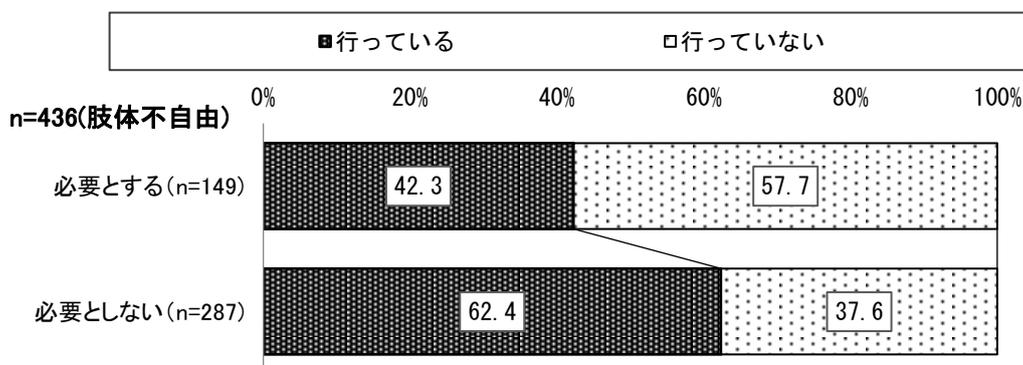
障害種別にみると、「肢体不自由」(55.5%)、「内部障害」(54.0%)、「音声・言語・そしゃく機能障害」(53.4%)、「聴覚・平衡機能障害」(51.8%)のスポーツ・運動実施率は5割を超えた。【図表 39】

【図表 39】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害種別)



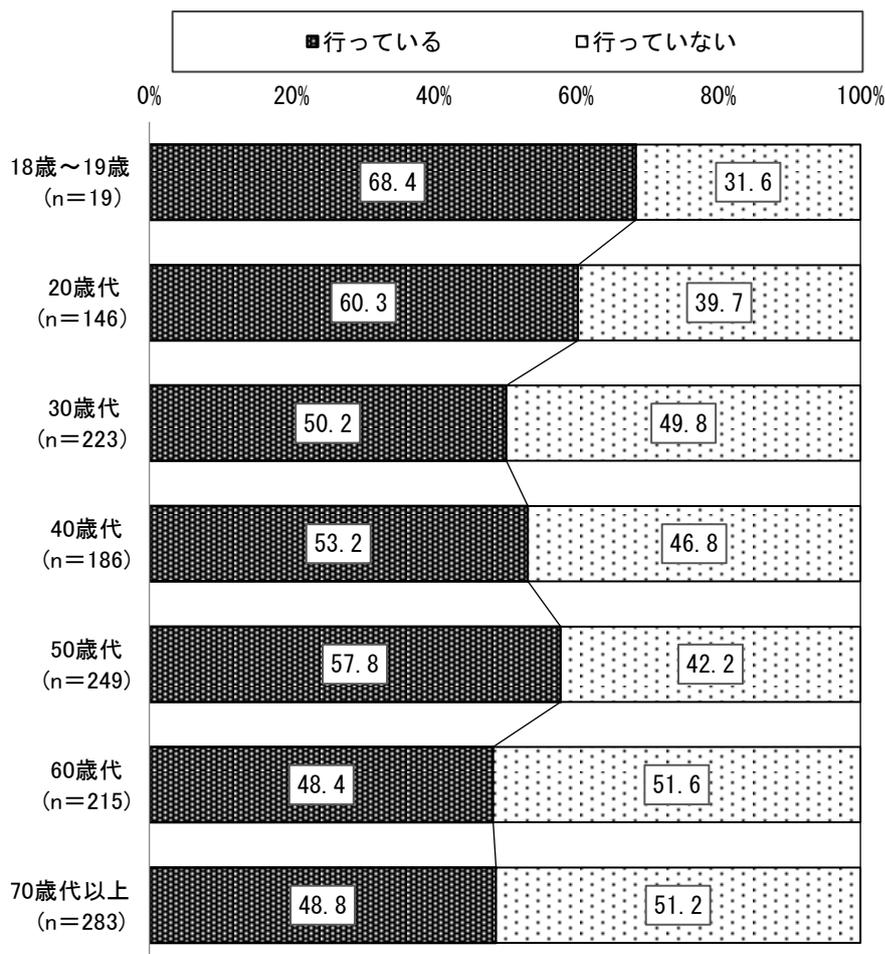
日常生活で車いす必要／不要別にみると、スポーツ・運動の実施率は、「日常生活で車いすを必要とする」で42.3%、「日常生活で車いすを必要としない」で62.4%となった。【図表 40】

【図表 40】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(日常生活で車いす必要／不要)



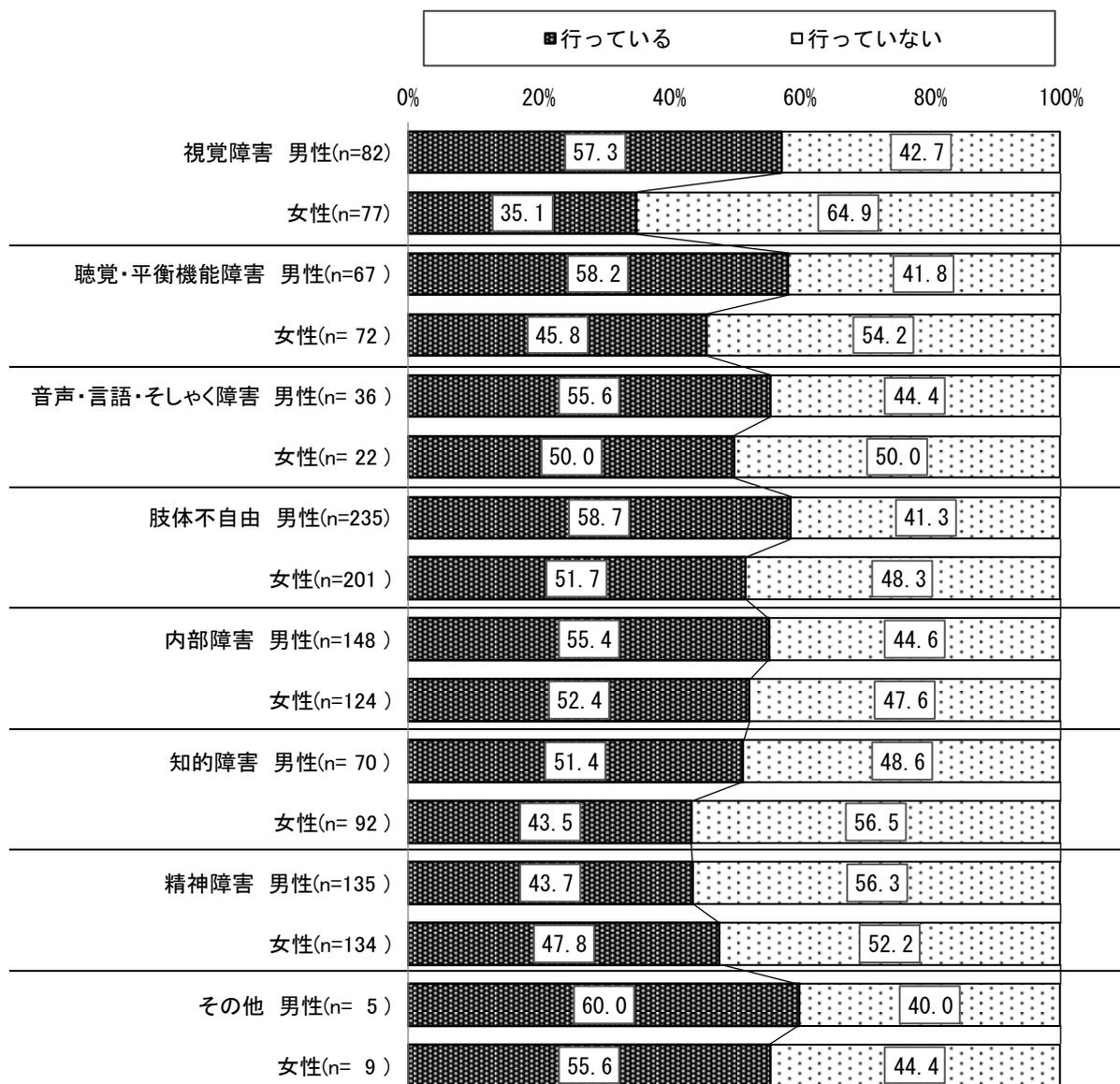
年齢別でみると、スポーツ・運動の実施率は、「60歳代」と「70歳代以上」で5割に満たなかったが、他の年代では5割を超えた。【図表 41】

【図表 41】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(年齢別)



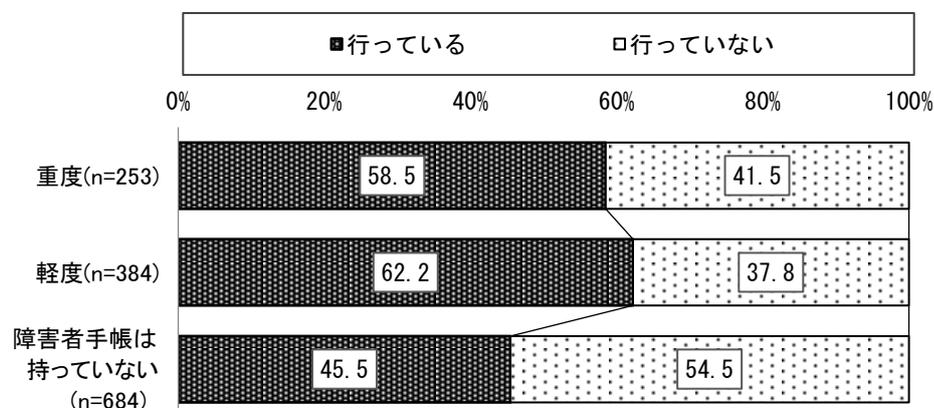
障害種別ごとに性別でみると、「精神障害」を除く区分で、女性よりも男性の実施率が高く、「視覚障害」では 22.2 ポイントの差があった。【図表 42】

【図表 42】過去 1 年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害種別・性別)



障害の程度別にみると、「重度」が 58.5%、「軽度」が 62.2%の実施率であった。また、「障害者手帳の非保持者」の実施率は 45.5%であった。【図表 43】

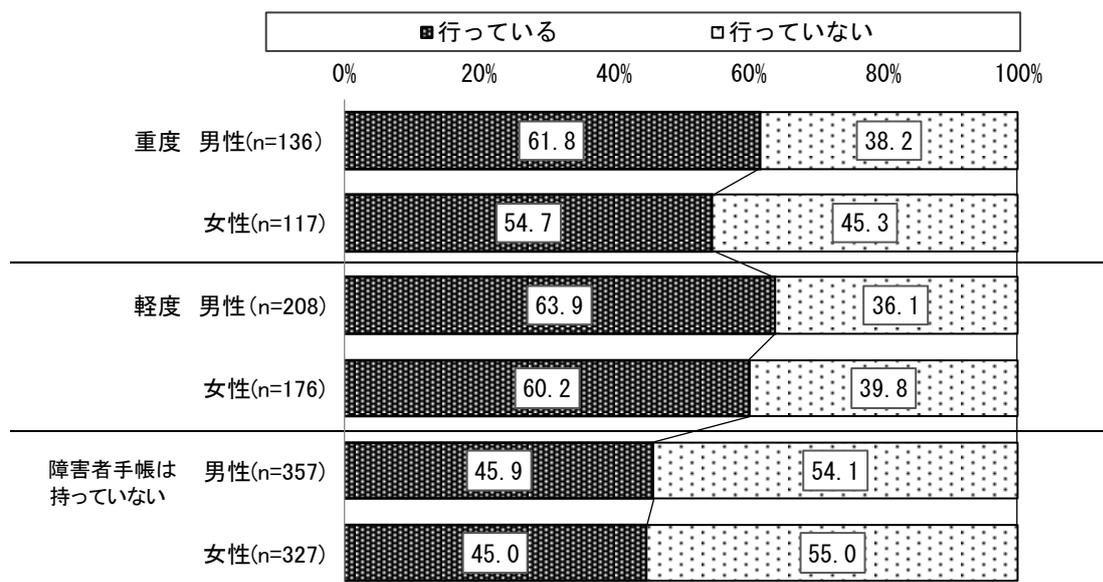
【図表 43】過去 1 年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害の程度別)



障害の程度ごとに性別で比較すると、いずれの区分も男性の実施率の方が高かった。

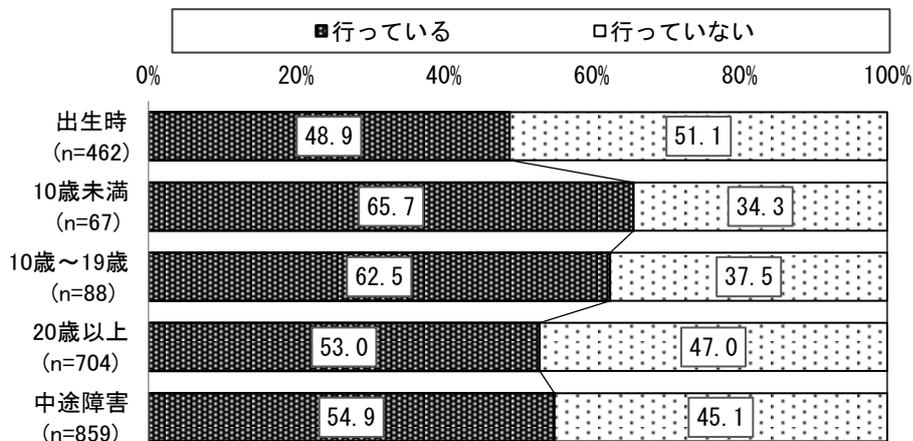
【図表 44】

【図表 44】過去 1 年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害の程度別・性別)



障害の発生年齢別で見ると、「出生時」(48.9%)より「中途障害」(54.9%)の実施率の方が高かった。  
【図表 45】

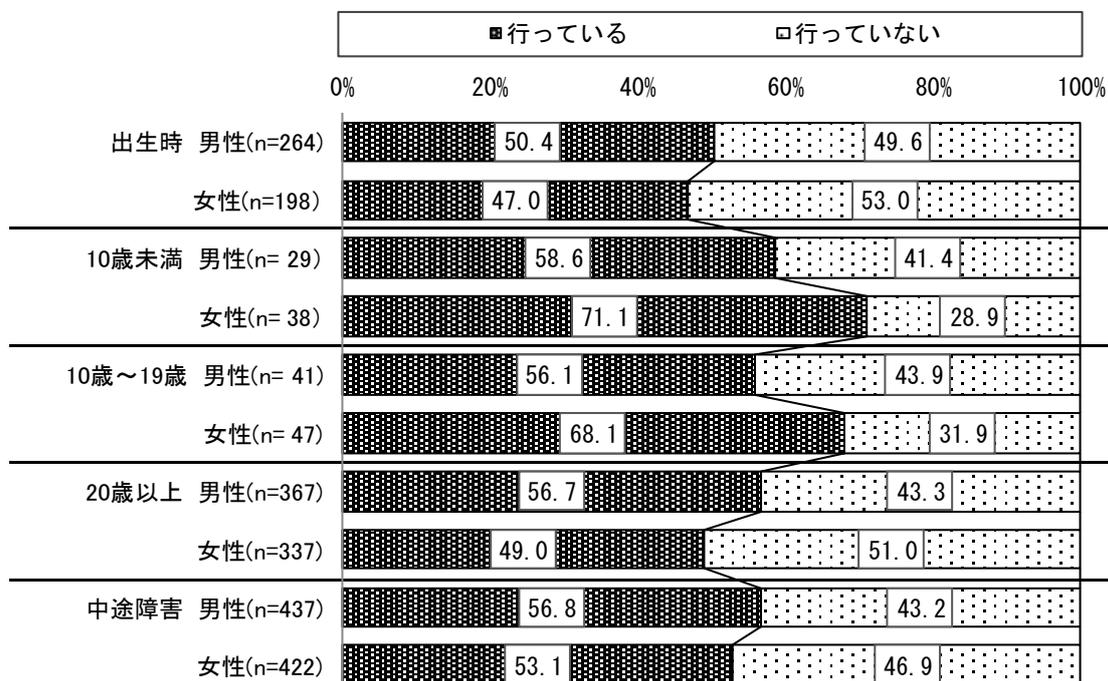
【図表 45】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害発生時の年齢別)



※「中途障害」は「10歳未満」、「10歳～19歳」、「20歳以上」の総和です。

障害の発生年齢ごとに性別で比較すると、「出生時」「中途障害」ともに、男性の方が実施率が高かった。  
【図表 46】

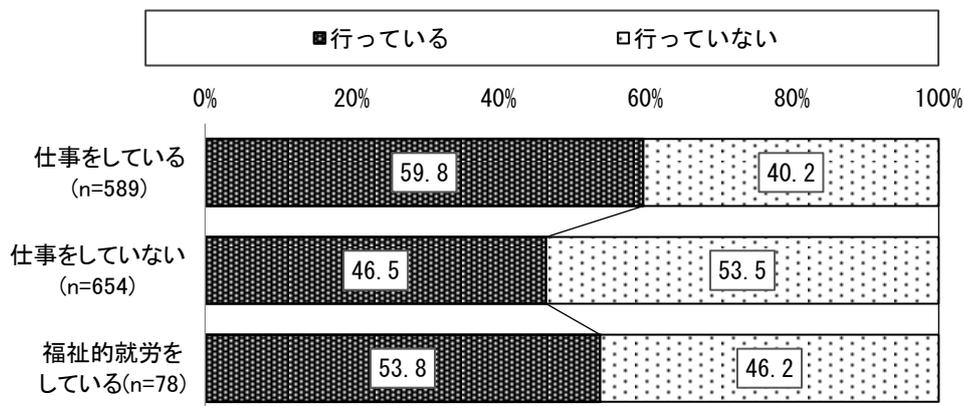
【図表 46】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(障害発生時の年齢別・性別)



※「中途障害」は「10歳未満」、「10歳～19歳」、「20歳以上」の総和です。

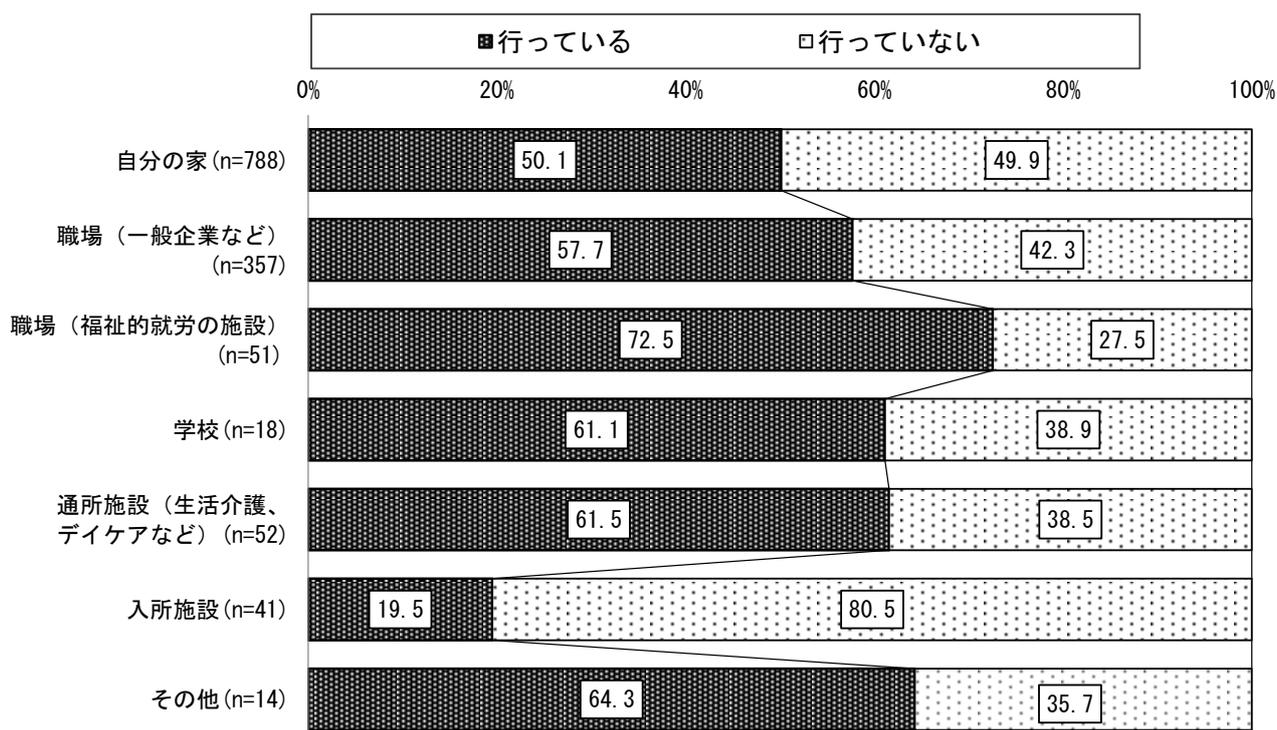
就業状況別にみると、スポーツ・運動の実施率は「仕事をしている」(59.8%)、「福祉的就労をしている」(53.8%)、「仕事をしていない」(46.5%)の順であった。【図表 47】

【図表 47】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(就業状況別)



平日・日中の居場所別にみると、スポーツ・運動の実施率は「職場（福祉的就労の施設）」で最も高く(72.5%)、最も低いのが「入所施設」(19.5%)であった。【図表 48】

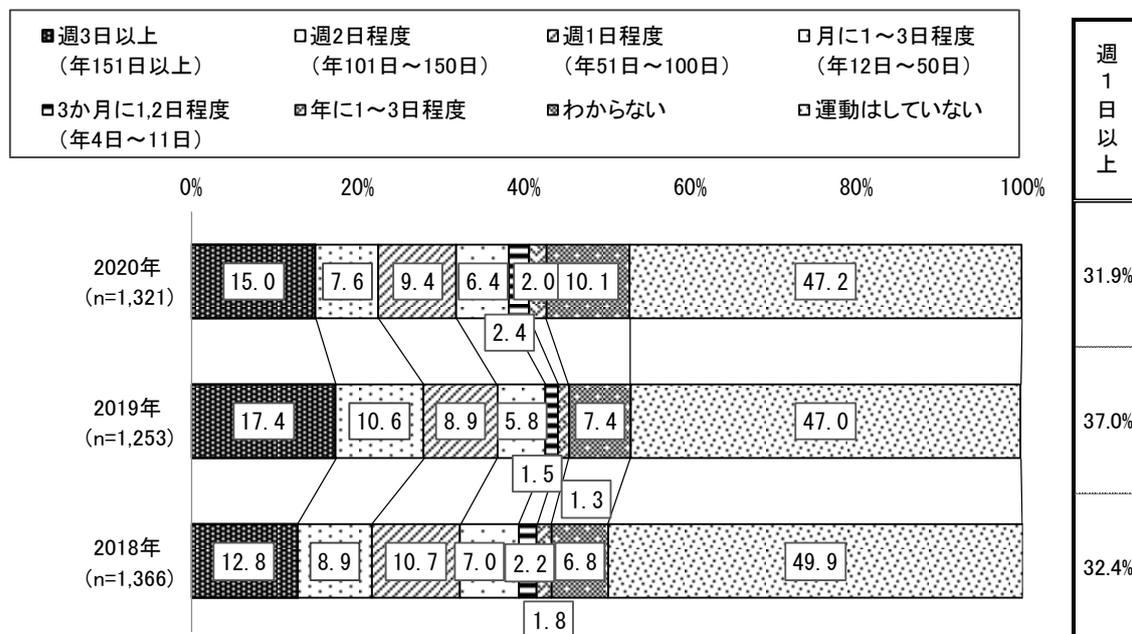
【図表 48】過去1年間のスポーツ・運動の実施の有無(平日・日中の居場所別)



## (2) 過去 1 年間にスポーツ・運動を行った日数

過去 1 年間にスポーツや運動を行った日数について、「週 3 日以上」が 15.0%、「週 2 日程度」が 7.6%、「週 1 日程度」が 9.4%と、週 1 日以上の実施者は 31.9%であり、昨年度に比べ 5.1 ポイント低く、一昨年度に比べ 0.5 ポイント低かった。なお、「運動はしていない」は 47.2%であった。【図表 49】

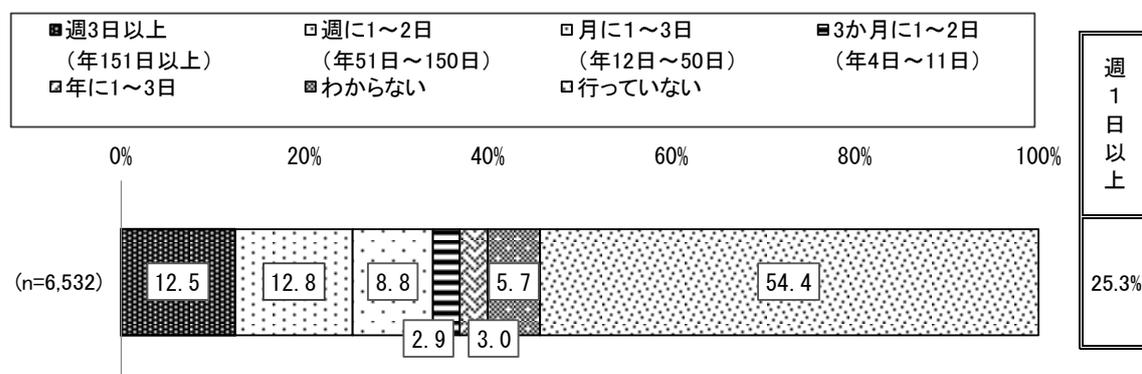
【図表 49】過去 1 年間にスポーツ・運動を行った日数



※ 本調査の設問 6-2-3 に「運動はしていない」との選択肢はないが、設問 6 において、過去 1 年間に実施したスポーツ・運動は「特になし」と回答のあった数値を「運動はしていない」と整理している(以下、同様)。

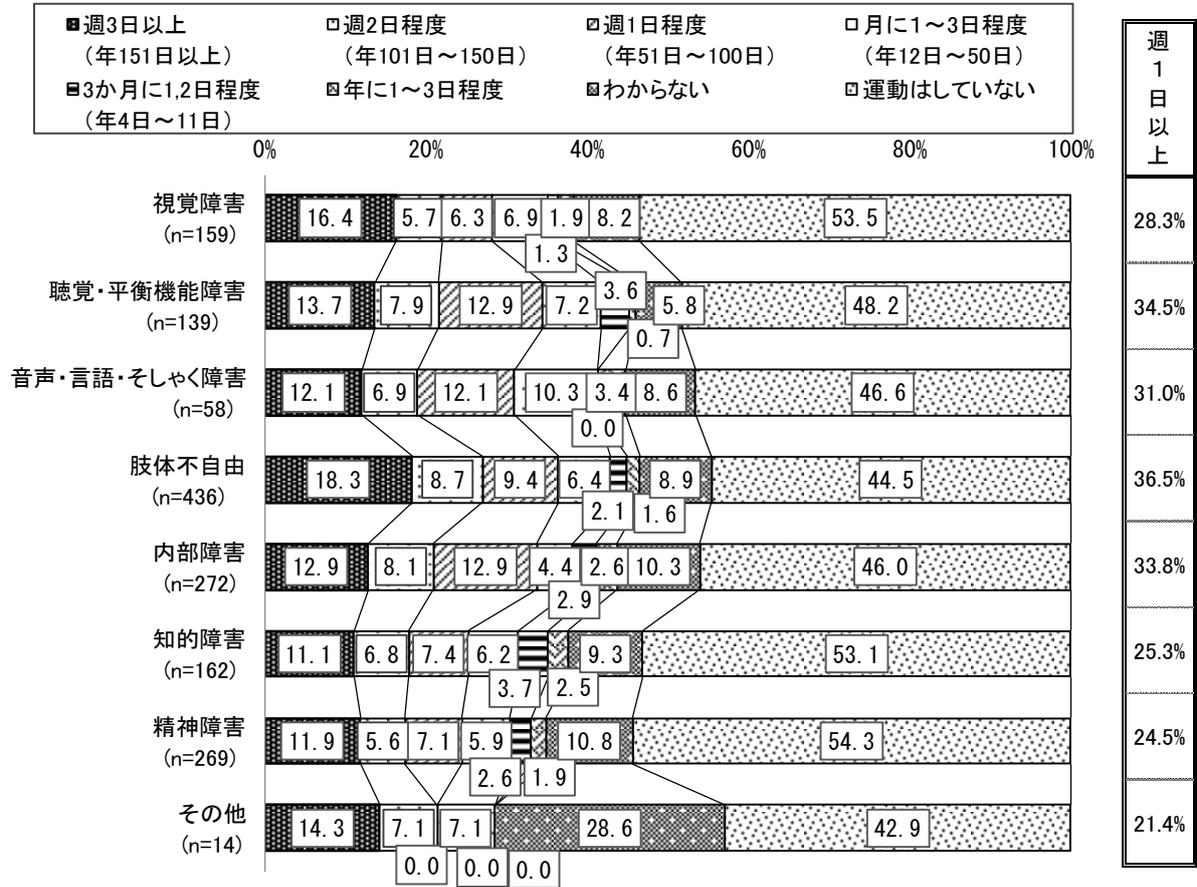
スポーツ庁が全国の障害児・者を対象に実施している『障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』(スポーツ庁：令和 2 年 3 月)では、成人の週 1 日以上の実施者は 25.3%であった。【図表 50】

【図表 50】過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数  
『障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』  
(スポーツ庁：令和 2 年 3 月)



障害種別にみると、週 1 日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「肢体不自由」が 36.5%、「聴覚・平衡機能障害」が 34.5%、「内部障害」が 33.8%であったのに対して、「知的障害」は 25.3%、「精神障害」は 24.5%であった。【図表 51】

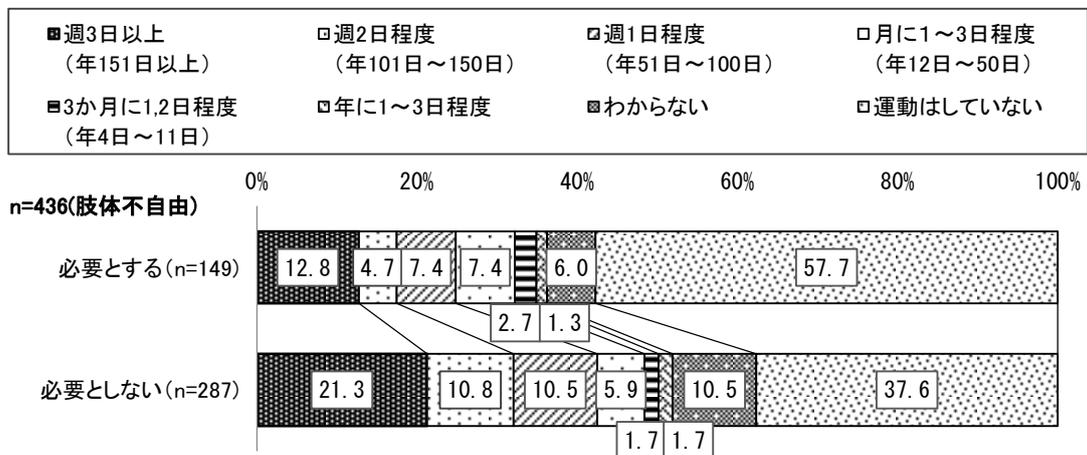
【図表 51】過去 1 年間にスポーツ・運動を行った日数(障害種別)



日常生活で車いす必要／不要別にみると、週 1 日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「日常生活で車いすを必要とする」で 24.8%、「日常生活で車いすを必要としていない」で 42.5%となった。

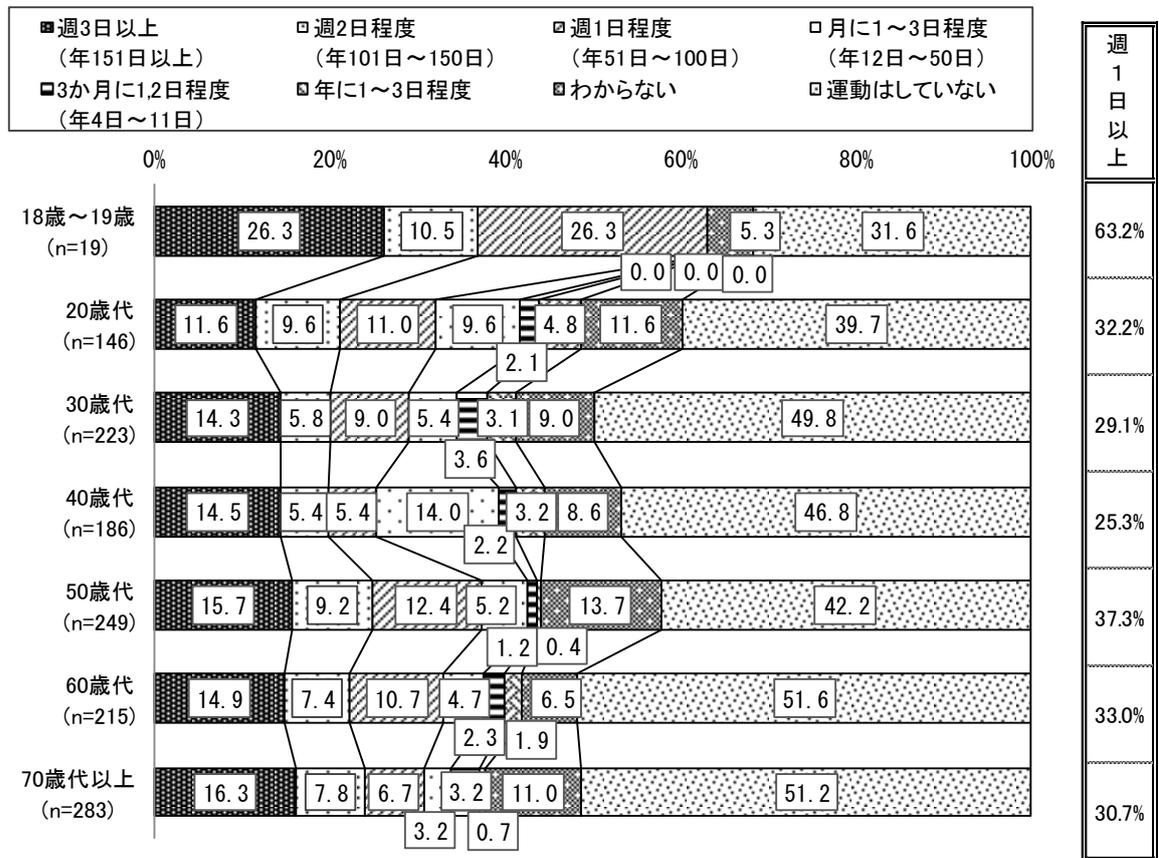
【図表 52】

【図表 52】過去 1 年間にスポーツ・運動を行った日数(日常生活で車いす必要／不要)



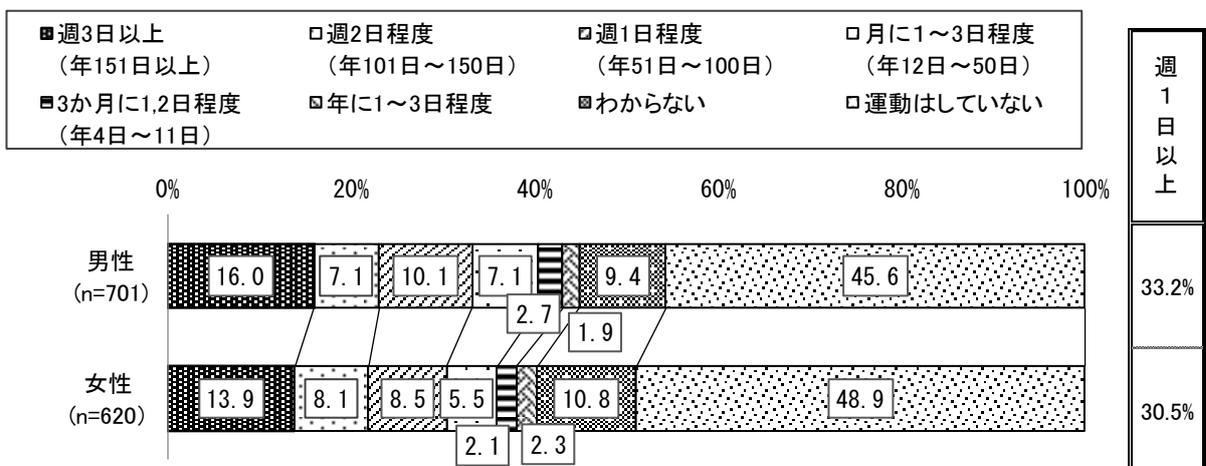
年齢別で見ると、「30歳代」と「40歳代」を除く年代において、週1日以上スポーツ・運動を実施している割合が3割を超えた。「30歳代」と「40歳代」では3割を下回った。【図表 53】

【図表 53】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(年齢別)



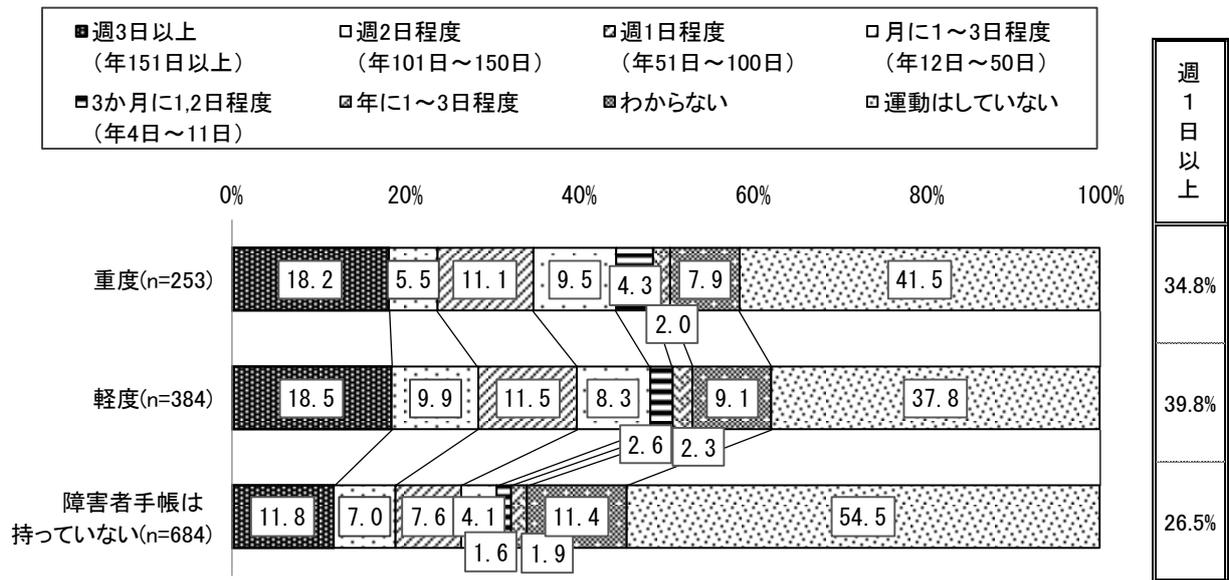
性別で見ると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「男性」が33.2%、「女性」が30.5%であった。【図表 54】

【図表 54】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(性別)



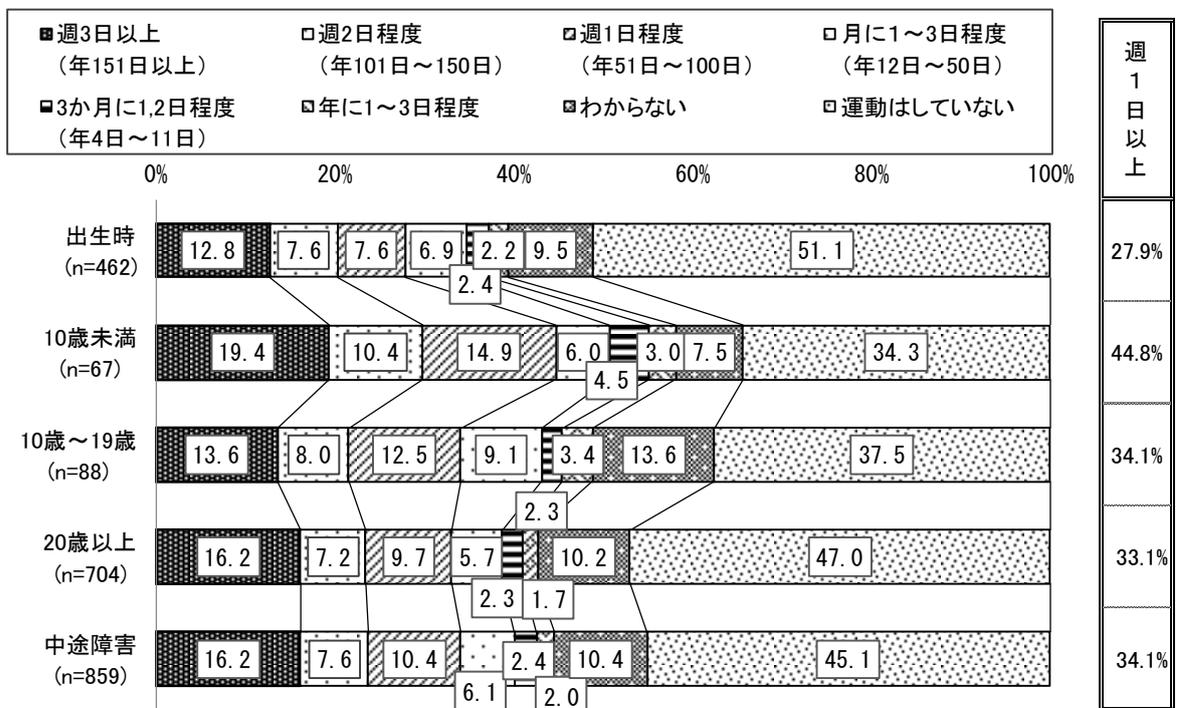
障害の程度でみると、週 1 日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「重度」が 34.8%、「軽度」が 39.8%であった。なお、「障害者手帳の非保持者」は 26.5%であった。【図表 55】

【図表 55】過去 1 年間にスポーツ・運動を行った日数(障害の程度別)



障害発生年齢別でみると、週 1 日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「中途障害」が 34.1%、「出生時」が 27.9%であった。【図表 56】

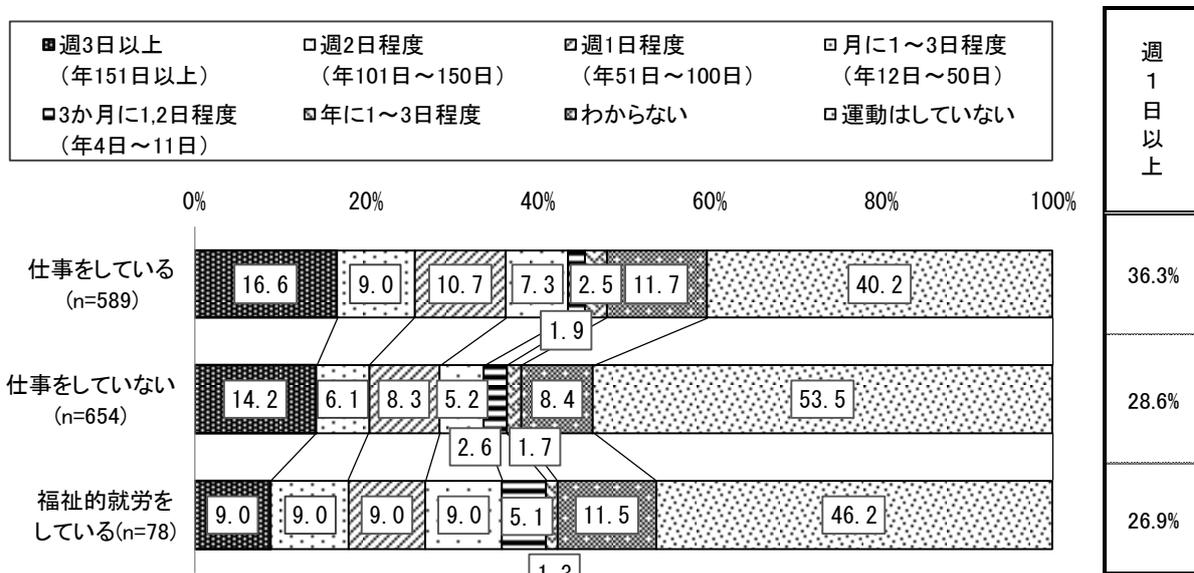
【図表 56】過去 1 年間にスポーツ・運動を行った日数(障害発生時の年齢別)



※「中途障害」は「10歳未満」、「10歳~19歳」、「20歳以上」の総和です。

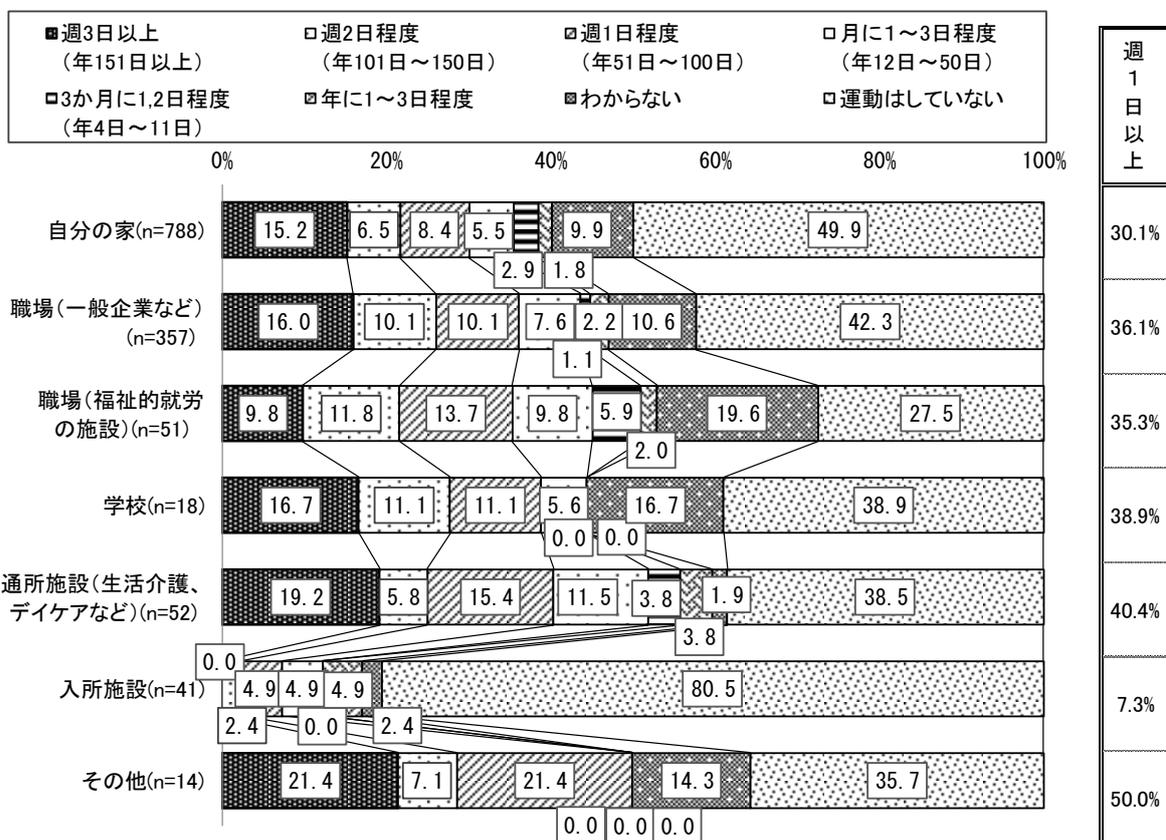
就業状況別にみると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「仕事をしている」が36.3%、「仕事をしていない」が28.6%、「福祉的就労をしている」が26.9%であった。【図表 57】

【図表 57】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(就業状況別)



平日・日中の居場所別にみると、週1日以上スポーツ・運動を実施しているのは、「通所施設(生活介護、デイケアなど)」が40.4%で、次いで「学校」が38.9%であった。【図表 58】

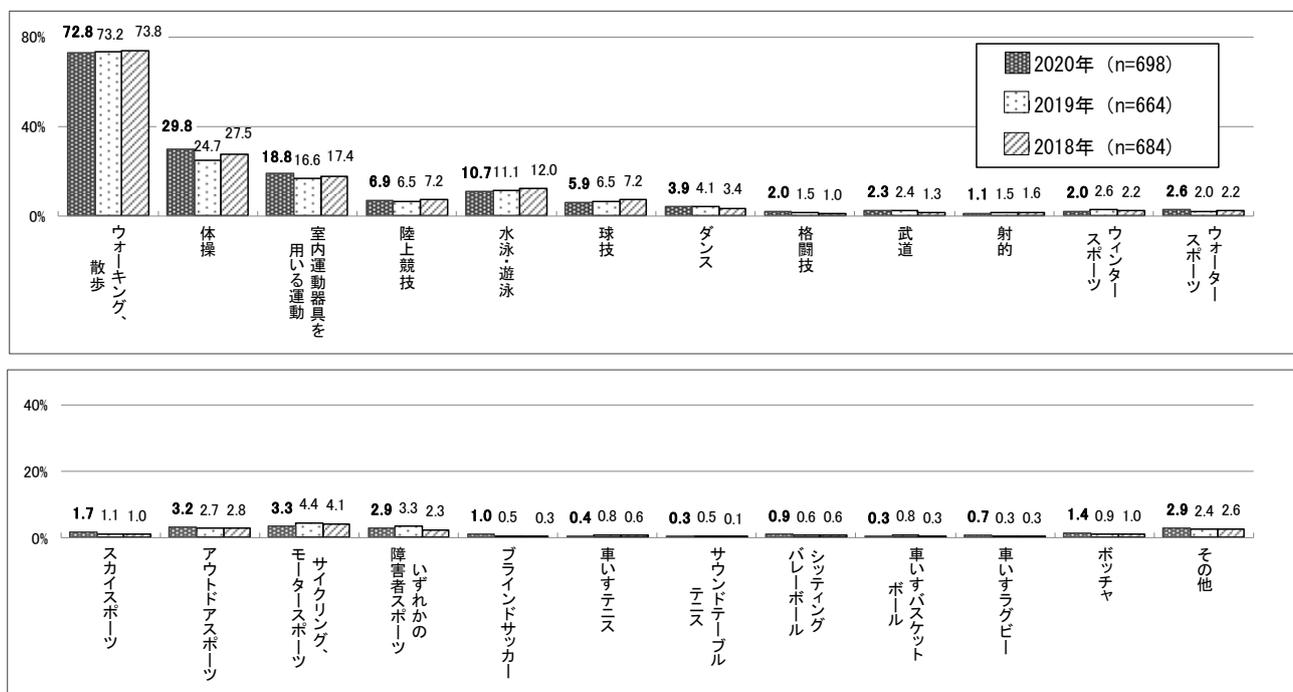
【図表 58】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数(平日・日中の居場所別)



### (3) 過去 1 年間に行ったスポーツ・運動

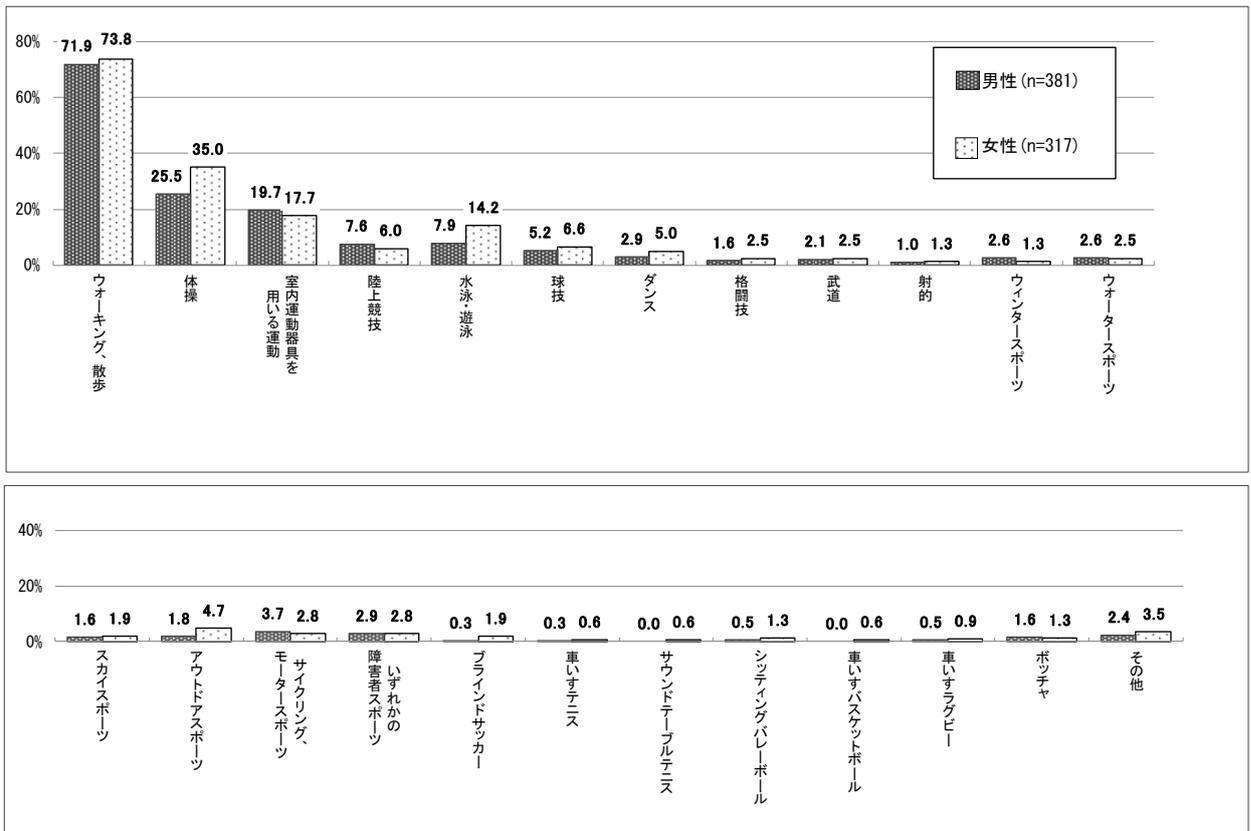
過去 1 年間にスポーツや運動を「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・運動を行ったかについてみると、実施率の高かったものから順に、「ウォーキング、散歩」(72.8%)、「体操」(29.8%)、「室内運動器具を用いる運動」(18.8%)、「水泳・遊泳」(10.7%)、「陸上競技」(6.9%)、「球技」(5.9%)であった。これら上位種目の順位は昨年度と同様であった。【図表 59】

【図表 59】過去 1 年間に行ったスポーツ・運動[複数回答]<スポーツ・運動実施者>

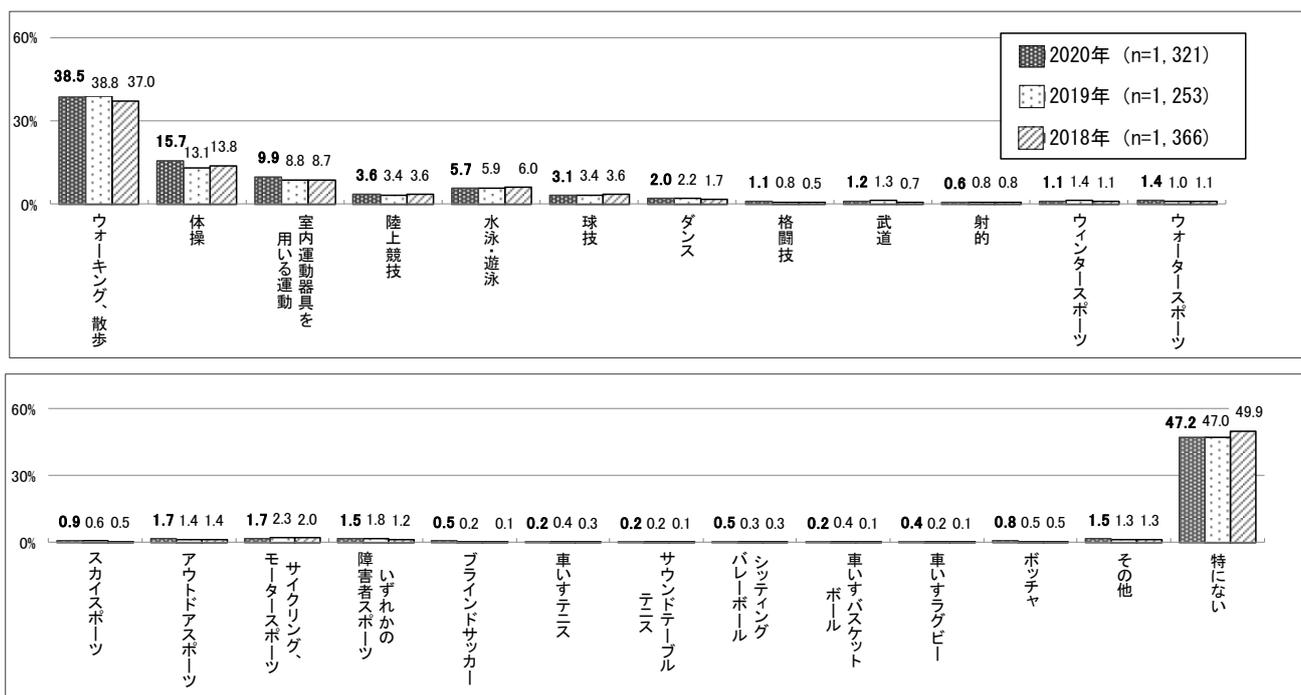


※実際の調査では、この設問に「障害者スポーツ」という単語での選択肢は設定されていない。以降、当報告書内における「障害者スポーツ」の分類は、「ブラインドサッカー」「車いすテニス」「サウンドテーブルテニス」「シッティングバレーボール」「車いすバスケットボール」「車いすラグビー」「ボッチャ」の選択肢の回答を合計した数値である。

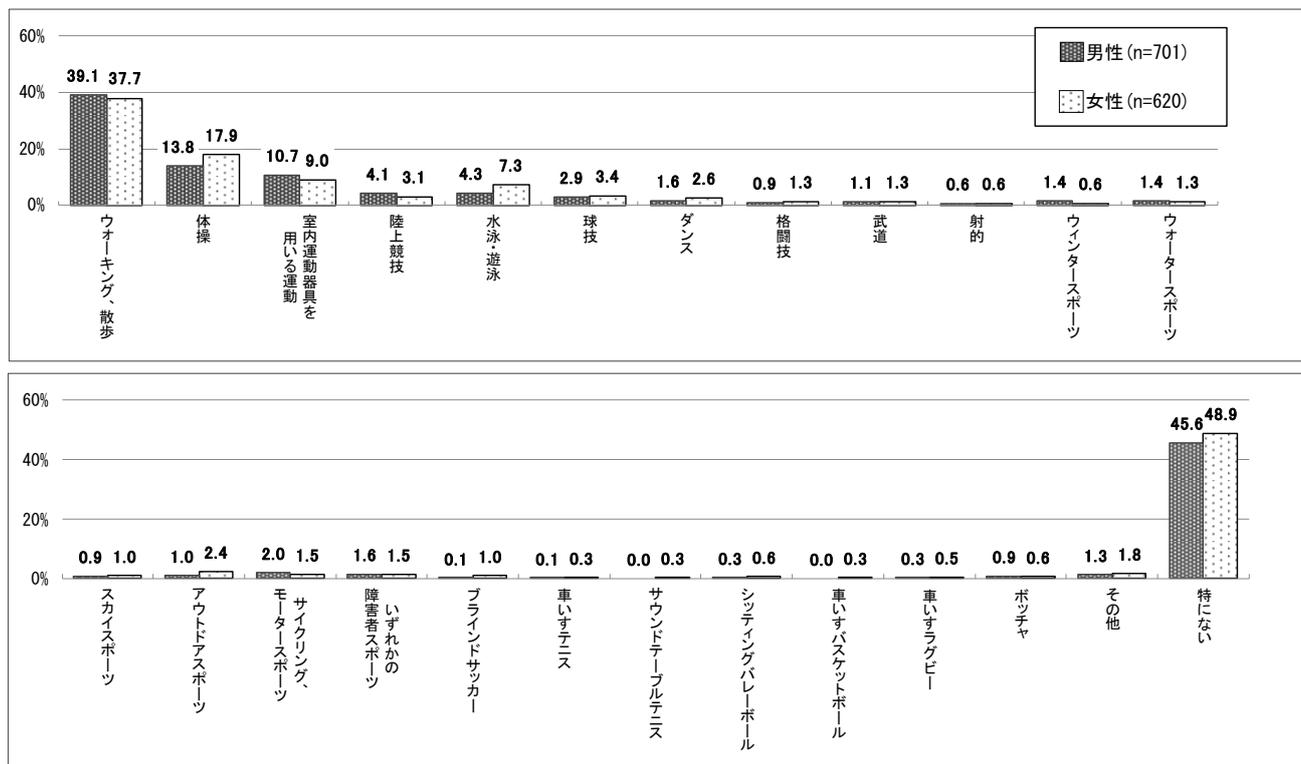
【図表 60】過去1年間に行ったスポーツ・運動(性別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



【図表 61】過去1年間に行ったスポーツ・運動[複数回答]<全対象者>



【図表 62】過去1年間に行ったスポーツ・運動(性別)[複数回答]<全対象者>



障害種別にみると、どの障害種別でも「ウォーキング、散歩」が最も高く、「体操」、「室内運動器具を用いる運動」も3位までに入った。「音声・言語・そしゃく機能障害」「視覚障害」は、他の障害と比べて「陸上競技」(それぞれ19.4%、14.9%)の割合が高かった。また、「聴覚・平衡機能障害」「知的障害」は、他の障害と比べて「水泳・遊泳」(それぞれ16.7%、15.8%)の割合が高かった。【図表 63】

【図表 63】過去1年間に行ったスポーツ・運動(障害種別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>

(その1)

(単位: %)

	n	ウォーキング、散歩	体操	室内運動器具を用いる運動	陸上競技	水泳・遊泳	球技	ダンス	格闘技	武道	射的	ウィンタースポーツ	ウォータースポーツ
視覚障害	74	74.3	32.4	20.3	14.9	10.8	6.8	8.1	5.4	4.1	2.7	2.7	2.7
聴覚・平衡機能障害	72	72.2	31.9	16.7	8.3	16.7	4.2	6.9	5.6	5.6	1.4	1.4	1.4
音声・言語・そしゃく機能障害	31	74.2	32.3	29.0	19.4	6.5	9.7	3.2	3.2	6.5	3.2	3.2	3.2
肢体不自由	242	72.7	33.5	23.6	4.1	7.9	6.6	3.3	0.8	2.1	1.7	2.9	2.1
内部障害	147	75.5	29.3	17.7	6.8	9.5	4.8	0.0	1.4	1.4	0.0	2.0	2.0
知的障害	76	69.7	22.4	15.8	7.9	15.8	5.3	9.2	1.3	0.0	1.3	3.9	2.6
精神障害	123	71.5	33.3	15.4	6.5	9.8	6.5	3.3	1.6	1.6	0.8	2.4	3.3
その他	8	37.5	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5

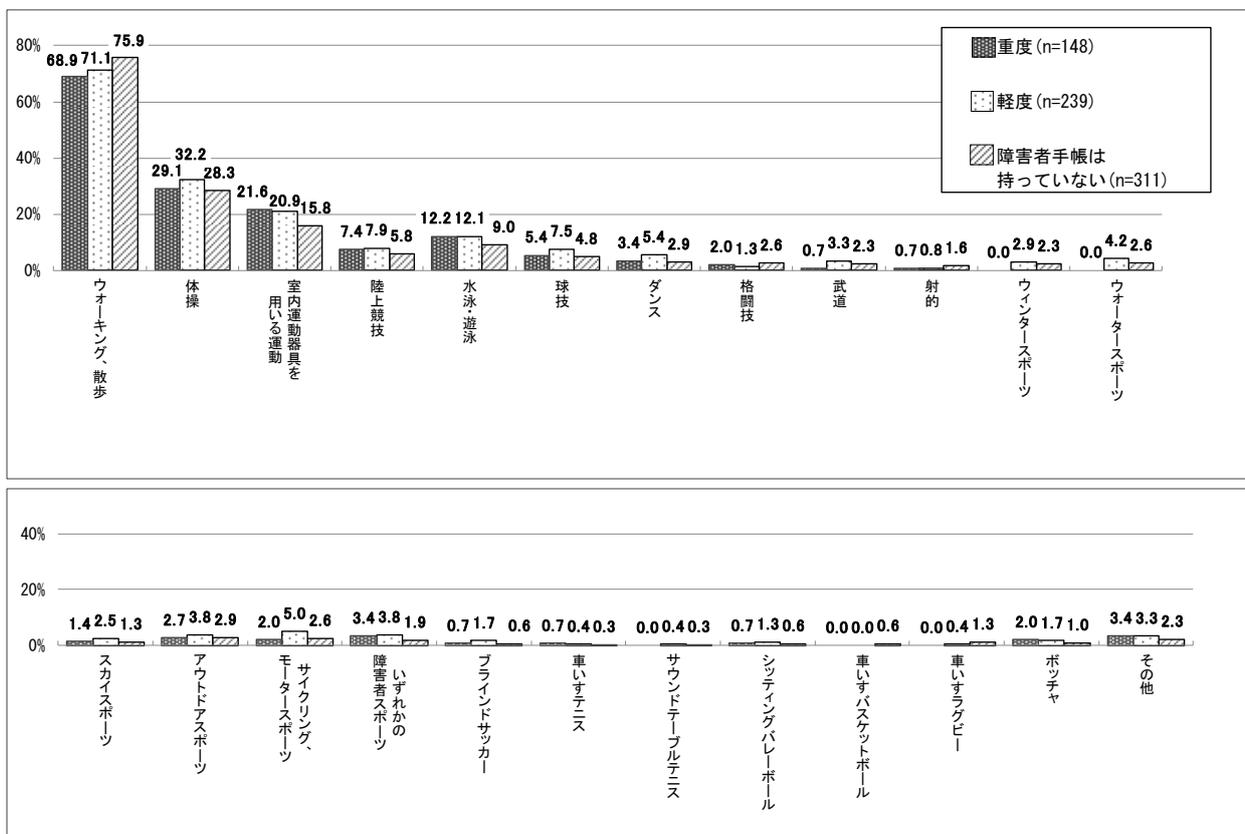
(その2)

(単位: %)

	n	スカイスポーツ	アウトドラスポーツ	モータースポーツ	サイクリング	障害者スポーツ	いずれかのスポーツ	ブラインドサッカー	車いすテニス	テーブルテニス	サウンド	バスケットボール	車いすラグビー	ポッチャ	その他
視覚障害	74	2.7	4.1	4.1	5.4	2.7	1.4	0.0	1.4	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡機能障害	72	2.8	1.4	2.8	4.2	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	1.4	1.4
音声・言語・そしゃく機能障害	31	0.0	3.2	0.0	6.5	3.2	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2
肢体不自由	242	2.5	3.3	2.9	3.3	0.8	0.8	0.4	1.2	0.4	0.4	2.1	3.7	2.1	3.7
内部障害	147	0.7	1.4	3.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	0.7
知的障害	76	2.6	3.9	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	1.3	7.9	1.3	7.9
精神障害	123	0.8	4.1	4.1	1.6	0.8	0.0	0.8	1.6	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
その他	8	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0

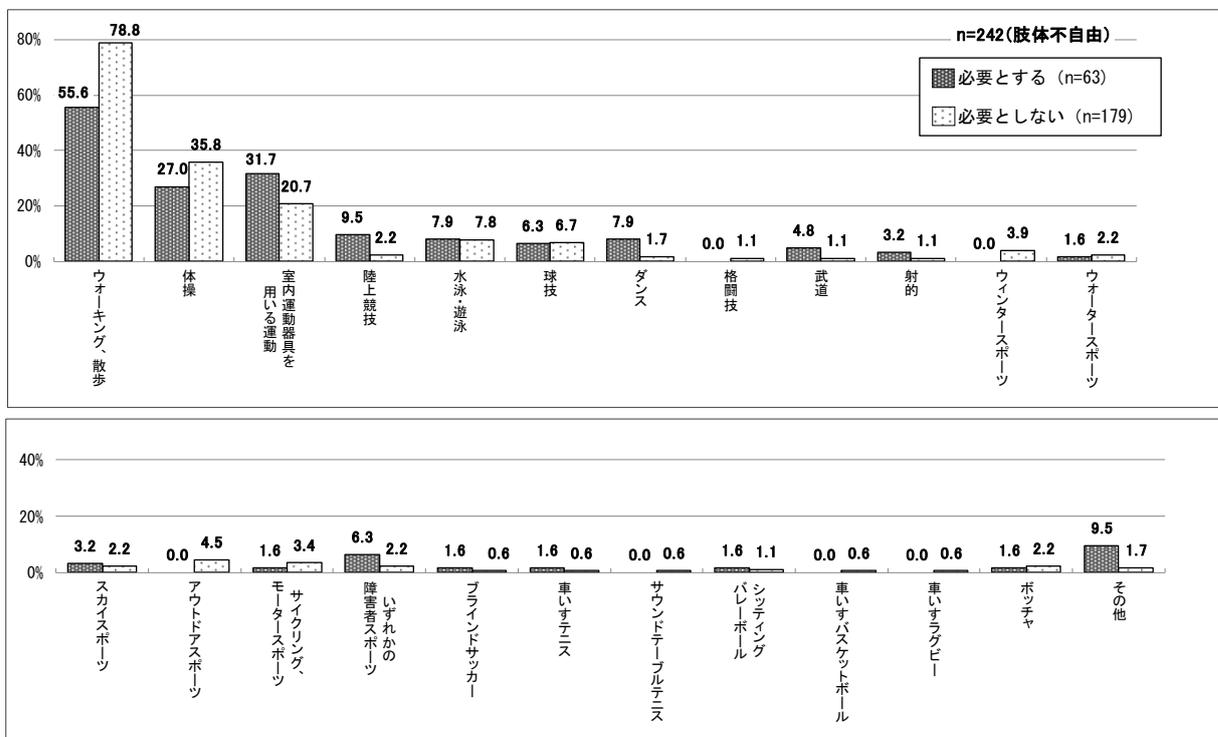
障害の程度別にみると、いずれの区分も実施率が高いものから順に、「ウォーキング、散歩」「体操」「室内運動器具を用いる運動」「水泳・遊泳」であった。【図表 64】

【図表 64】過去1年間に行ったスポーツ・運動(障害の程度別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



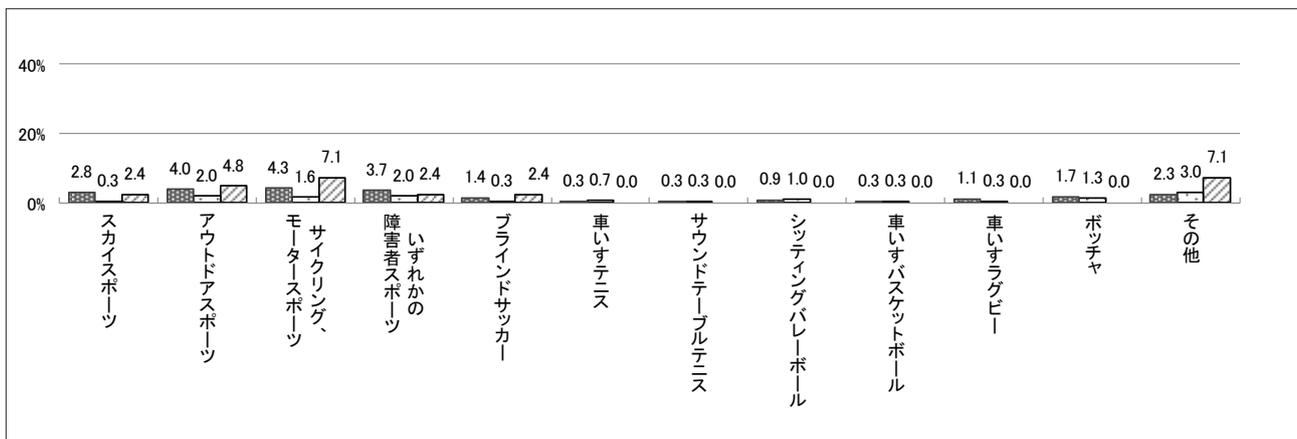
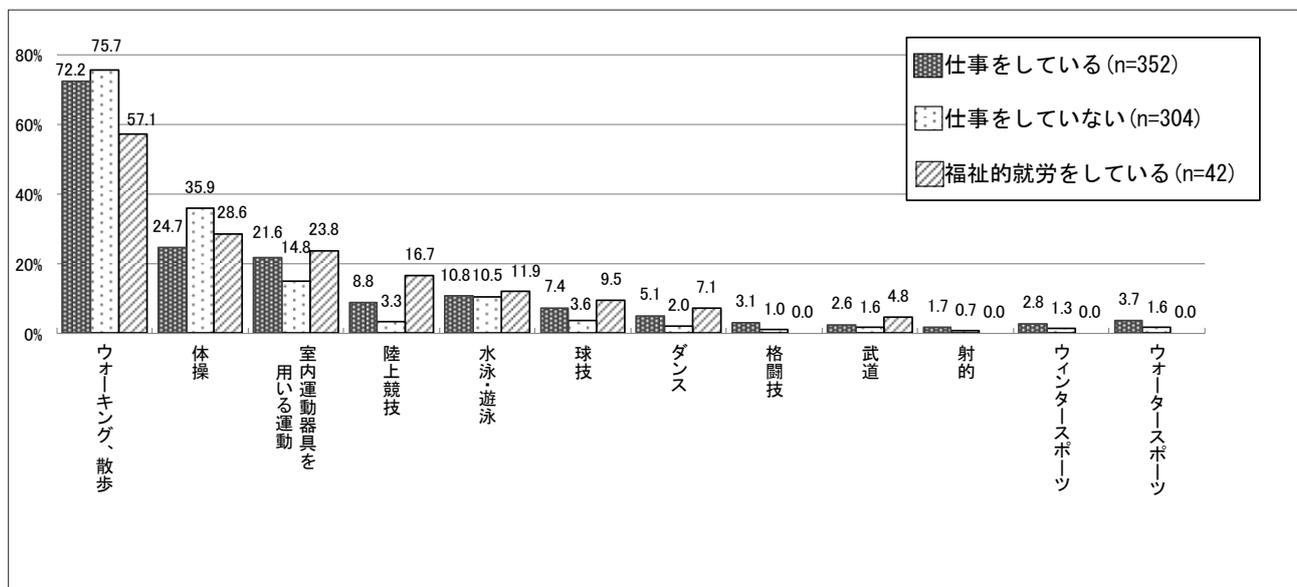
日常生活で車いす必要／不要別にみると、いずれも「ウォーキング、散歩」の実施率が最も高かったが、「日常生活で車いすを必要としない」方が、「日常生活で車いすを必要とする」よりも、23.2ポイント高かった。【図表 65】

【図表 65】過去1年間に行ったスポーツ・運動(日常生活で車いす必要／不要) [複数回答]  
 <スポーツ・運動実施者>



就業状況別にみると、「ウォーキング、散歩」がいずれの区分でも最も高かったが、中でも割合の高かった「仕事をしていない」(75.7%)は、「福祉的就労をしている」(57.1%)よりも18.6ポイント高かった。【図表 66】

【図表 66】過去1年間に行ったスポーツ・運動(就業状況別) [複数回答]  
 <スポーツ・運動実施者>



平日・日中の居場所別にみると、「入所施設」を除く区分で、「ウォーキング、散歩」が最も高かった。「入所施設」では「体操」の実施率が最も高くなった。【図表 67】

【図表 67】過去 1 年間に行ったスポーツ・運動(平日・日中の居場所別)[複数回答]  
 <スポーツ・運動実施者>

(その 1) (単位: %)

	n	ウォーキング、散歩	体操	室内運動器具を用いる運動	陸上競技	水泳・遊泳	球技	ダンス	格闘技	武道	射的	ウィンタースポーツ	ウォータースポーツ
自分の家	395	76.5	32.4	15.7	3.5	9.6	2.0	2.3	1.3	1.3	0.5	0.8	0.8
職場(一般企業など)	206	71.4	26.2	22.8	9.2	11.7	11.2	5.8	2.9	3.4	1.9	3.9	4.9
職場(福祉的就労の施設)	37	59.5	21.6	27.0	21.6	8.1	13.5	10.8	2.7	5.4	2.7	2.7	2.7
学校	11	72.7	9.1	9.1	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
通所施設(生活介護、デイケアなど)	32	62.5	31.3	25.0	9.4	21.9	6.3	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0	3.1
入所施設	8	37.5	50.0	25.0	37.5	12.5	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	25.0	37.5
その他	9	66.7	33.3	11.1	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(その 2) (単位: %)

	n	スカイスポーツ	アウトドアスポーツ	モータースポーツ	サイクリング	障害者スポーツ	ブラインドサッカー	車いすテニス	テニス	サウンドテニス	バレーボール	バスケットボール	車いすラグビー	ポッチャ	その他
自分の家	395	0.3	1.8	2.3	2.0	0.3	0.3	0.0	0.8	0.3	0.5	1.3	2.0		
職場(一般企業など)	206	3.4	4.4	3.9	3.9	1.5	0.0	0.5	1.0	0.0	1.0	1.5	2.9		
職場(福祉的就労の施設)	37	5.4	5.4	10.8	2.7	2.7	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7		
学校	11	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2		
通所施設(生活介護、デイケアなど)	32	3.1	3.1	0.0	6.3	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	6.3		
入所施設	8	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0		
その他	9	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1		

過去1年間のスポーツ・運動の実施日数別にみると、特に「ウォーキング、散歩」「体操」については、実施日数が多いほど、実施率が高くなる傾向であった。【図表 68】

【図表 68】過去1年間に行ったスポーツ・運動(スポーツ・運動実施頻度別)[複数回答]  
 <スポーツ・運動実施者>

(その1) (単位:%)

	n	ウォーキング、散歩	体操	室内運動器具を用いる運動	陸上競技	水泳・遊泳	球技	ダンス	格闘技	武道	射的	スイミング	ウォータースポーツ
週3日以上 (年151日以上)	198	81.3	41.9	23.2	8.6	12.6	5.6	6.1	2.5	2.5	0.5	2.5	2.5
週2日程度 (年101日～150日)	100	68.0	40.0	28.0	12.0	13.0	10.0	6.0	2.0	3.0	2.0	3.0	4.0
週1日程度 (年51日～100日)	124	71.8	33.1	20.2	6.5	15.3	6.5	1.6	2.4	1.6	1.6	0.8	3.2
月に1～3日程度 (年12日～50日)	84	71.4	19.0	16.7	6.0	10.7	9.5	6.0	2.4	1.2	1.2	4.8	4.8
3か月に1.2日程度 (年4日～11日)	32	62.5	21.9	21.9	0.0	6.3	6.3	0.0	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0
年に1～3日程度	27	44.4	7.4	11.1	7.4	7.4	3.7	3.7	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0
わからない	133	73.7	14.3	6.0	3.0	3.8	0.8	0.8	0.0	3.0	1.5	0.0	0.8

(その2) (単位:%)

	n	スカイスポーツ	アウトドアスポーツ	モータースポーツ	サイクリング	障害者スポーツ	ブラインドサッカー	車いすテニス	テニス	サウンド	バレーボール	バスケットボール	車いすラグビー	ポッチャ	その他
週3日以上 (年151日以上)	198	1.5	3.5	5.1	1.5	1.0	0.5	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	2.0	
週2日程度 (年101日～150日)	100	3.0	5.0	4.0	3.0	1.0	0.0	0.0	2.0	1.0	2.0	1.0	5.0		
週1日程度 (年51日～100日)	124	2.4	0.8	1.6	4.0	1.6	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	2.4	0.8		
月に1～3日程度 (年12日～50日)	84	1.2	3.6	3.6	6.0	1.2	2.4	1.2	2.4	1.2	3.6	2.4	2.4		
3か月に1.2日程度 (年4日～11日)	32	0.0	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
年に1～3日程度	27	7.4	3.7	3.7	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	3.7		
わからない	133	0.0	3.0	1.5	2.3	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	5.3		

**(4) 過去1年間(新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前後の期間)にスポーツ・運動を行った日数(種目別)**

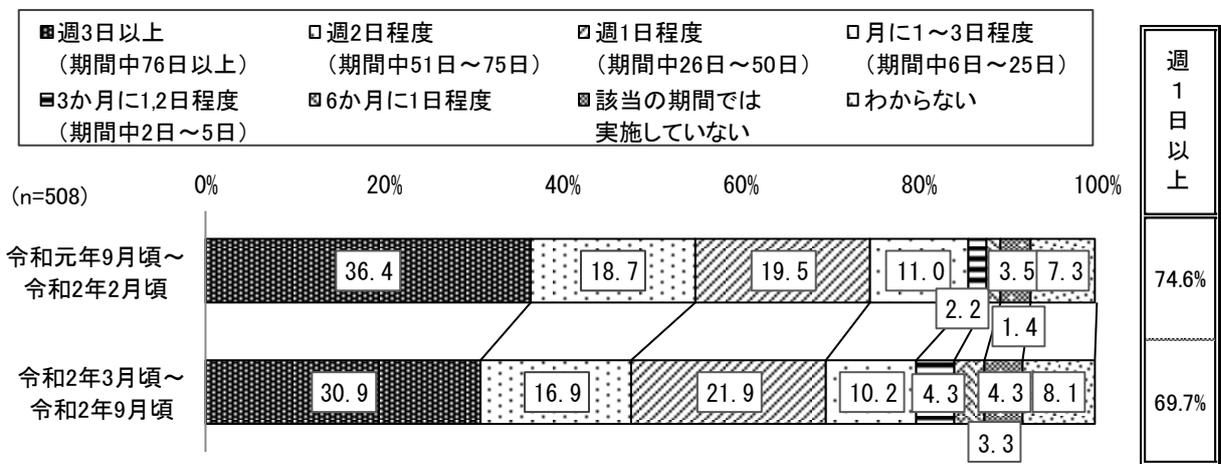
過去1年間の実施率が高かった(実施者数がn=50人以上)主なスポーツ・運動別に、それぞれのスポーツや運動を行った日数についてまとめた。

※ 今回、本調査では、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の期間(令和元年9月頃～令和2年2月頃)と同感染症の影響を受けた期間(令和2年3月頃～令和2年9月頃)とで分けて質問を行った。(設問6-1-1、6-1-2)

**(ア) ウォーキング、散歩**

過去1年間にウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)を週1日以上実施した割合は、「令和元年9月頃～令和2年2月頃」では74.6%、「令和2年3月頃～令和2年9月頃」では69.7%となり、4.9ポイントの減となった。【図表69】

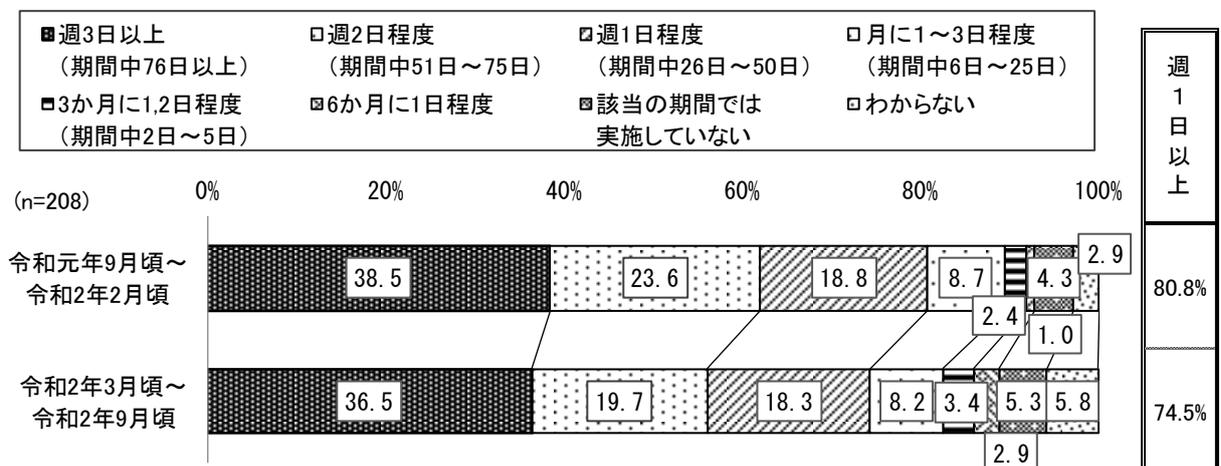
【図表69】過去1年間にウォーキング、散歩を行った日数



**(イ) 体操**

過去1年間に体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)を週1日以上実施した割合は、「令和元年9月頃～令和2年2月頃」では80.8%、「令和2年3月頃～令和2年9月頃」では74.5%となり、6.3ポイントの減となった。【図表70】

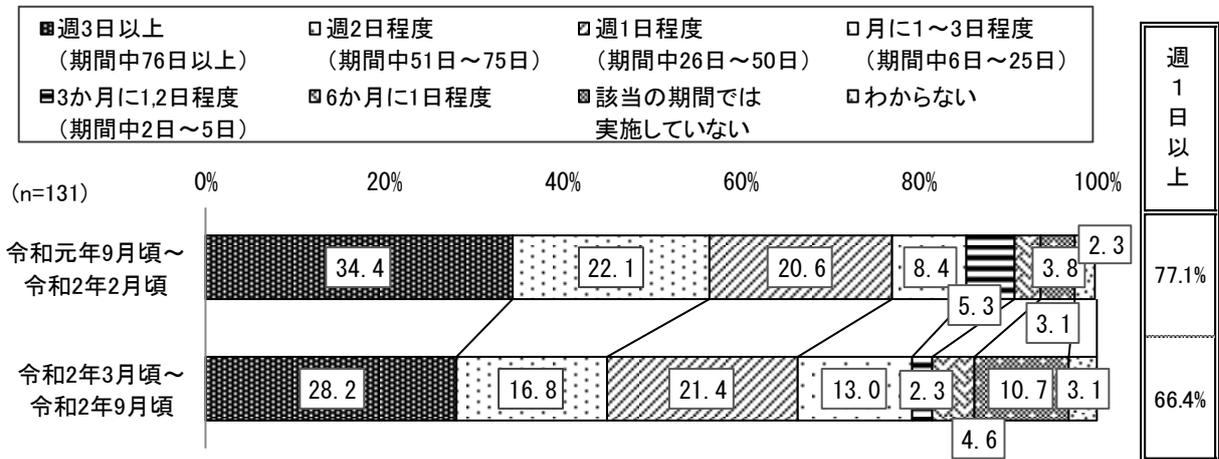
【図表70】過去1年間に体操を行った日数



### (ウ) 室内運動器具を用いる運動

過去1年間に室内運動器具(ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動を週1日以上実施した割合は、「令和元年9月頃～令和2年2月頃」では77.1%、「令和2年3月頃～令和2年9月頃」では66.4%となり、10.7ポイントの減となった。【図表 71】

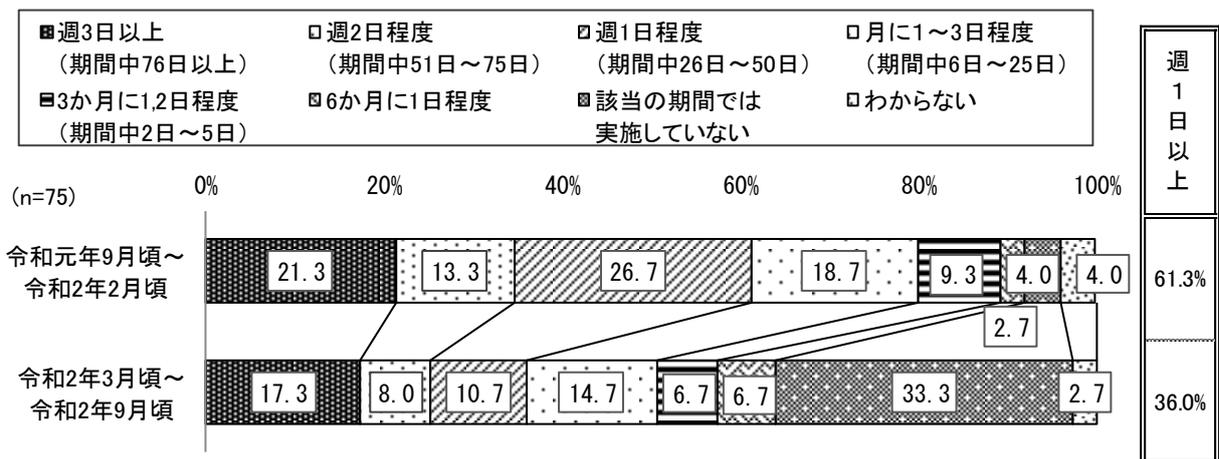
【図表 71】過去1年間に室内運動器具を用いる運動を行った日数



### (エ) 水泳・遊泳

過去1年間に水泳・遊泳(水中歩行・水中運動)を週1日以上実施した割合は、「令和元年9月頃～令和2年2月頃」では61.3%、「令和2年3月頃～令和2年9月頃」では36.0%となり、25.3ポイントの減となった。【図表 72】

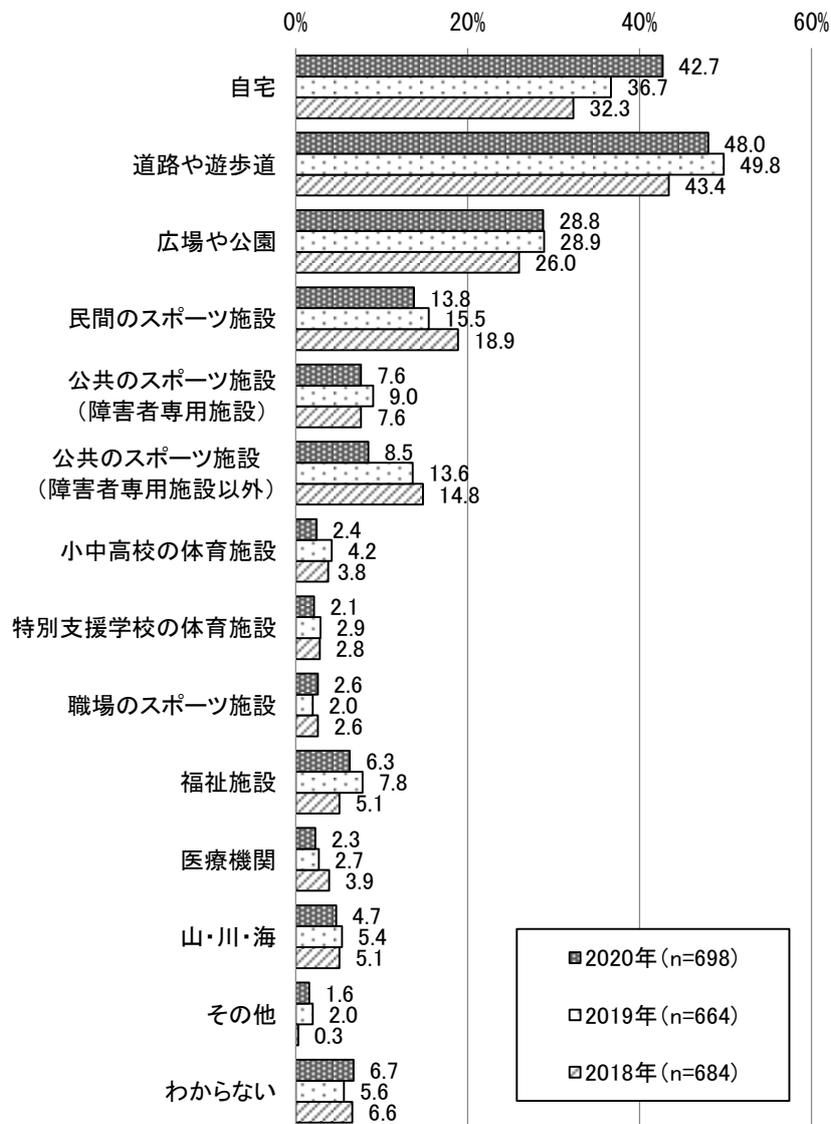
【図表 72】過去1年間に水泳・遊泳を行った日数



### (5) スポーツ・運動を実施する場所

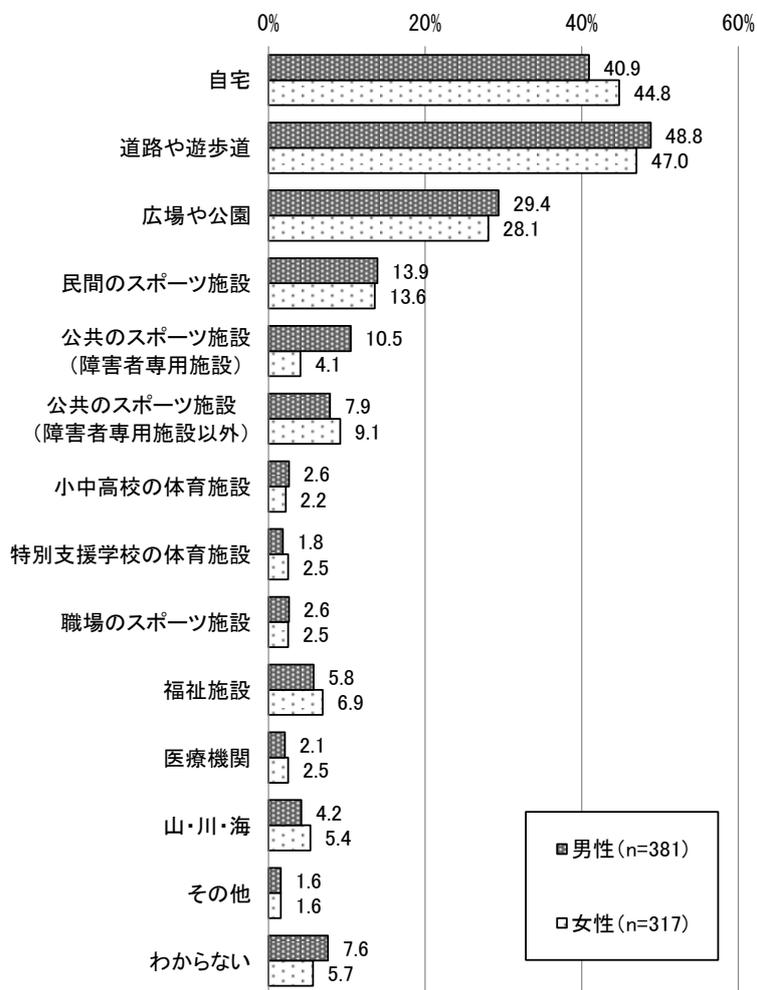
スポーツや運動を実施する場所は、「道路や遊歩道」が48.0%と最も高く、次いで「自宅」(42.7%)、「広場や公園」(28.8%)、「民間のスポーツ施設」(13.8%)、「公共のスポーツ施設(障害者専用施設以外)」(8.5%)の順であった。これら上位実施場所の順位は昨年度と同様であった。なお、昨年度に比べ、「自宅」は6.0ポイント高かった。【図表 73】

【図表 73】スポーツ・運動を実施する場所[複数回答]



性別で見ると、男女とも「道路や遊歩道」が最も高く（男性 48.8%、女性 47.0%）、次いで「自宅」「広場や公園」「民間のスポーツ施設」の順となった。これに続く男性の5位は「公共のスポーツ施設（障害者専用施設）」であったのに対し、女性の5位は「公共のスポーツ施設（障害者専用施設以外）」であった。【図表 74】

【図表 74】スポーツ・運動を実施する場所(性別) [複数回答]



障害種別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」では、「自宅」の割合が高い一方で（51.6%）、  
「民間のスポーツ施設」の割合も2割を超えた（22.6%）。また、「内部障害」と「精神障害」では、「道  
路や遊歩道」の割合が高く、5割を超えた（57.1%、50.4%）。【図表 75】

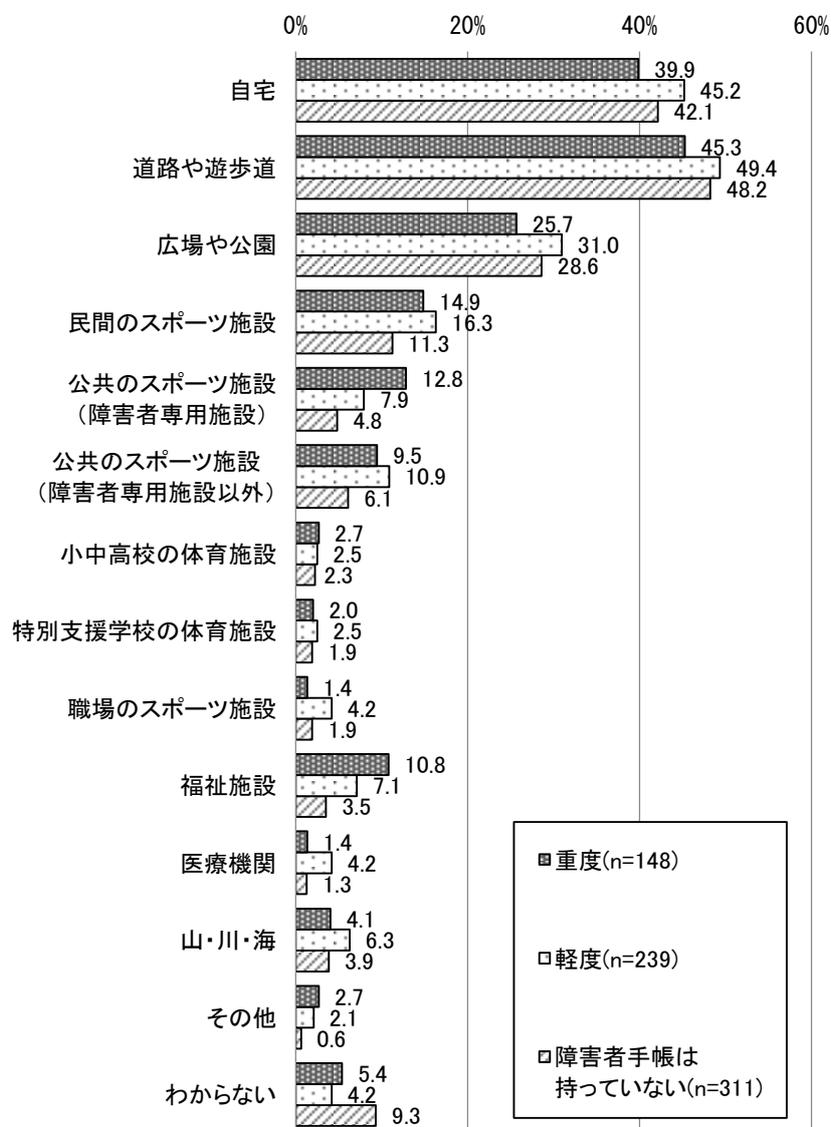
【図表 75】スポーツ・運動を実施する場所(障害種別)[複数回答]

(単位:%)

	n	自宅	道路や遊歩道	広場や公園	民間のスポーツ施設	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設)	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設以外)	小中高校の体育施設	特別支援学校の体育施設	職場のスポーツ施設	福祉施設	医療機関	山・川・海	その他	わからない
視覚障害	74	36.5	35.1	28.4	16.2	10.8	9.5	2.7	6.8	5.4	8.1	0.0	2.7	0.0	18.9
聴覚・平衡機能障害	72	47.2	38.9	26.4	18.1	8.3	9.7	4.2	6.9	2.8	6.9	2.8	5.6	0.0	8.3
音声・言語・そしゃく機能障害	31	51.6	41.9	29.0	22.6	19.4	19.4	3.2	6.5	3.2	9.7	0.0	3.2	0.0	3.2
肢体不自由	242	49.6	48.3	26.9	13.2	8.7	9.5	1.2	1.2	2.1	9.1	5.0	5.8	1.7	5.0
内部障害	147	44.2	57.1	32.7	17.7	7.5	5.4	2.7	0.7	0.7	1.4	0.0	4.1	2.0	3.4
知的障害	76	26.3	40.8	30.3	9.2	11.8	15.8	5.3	2.6	3.9	15.8	1.3	2.6	2.6	11.8
精神障害	123	44.7	50.4	27.6	10.6	4.1	7.3	0.8	0.8	2.4	2.4	2.4	7.3	2.4	3.3
その他	8	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5	0.0

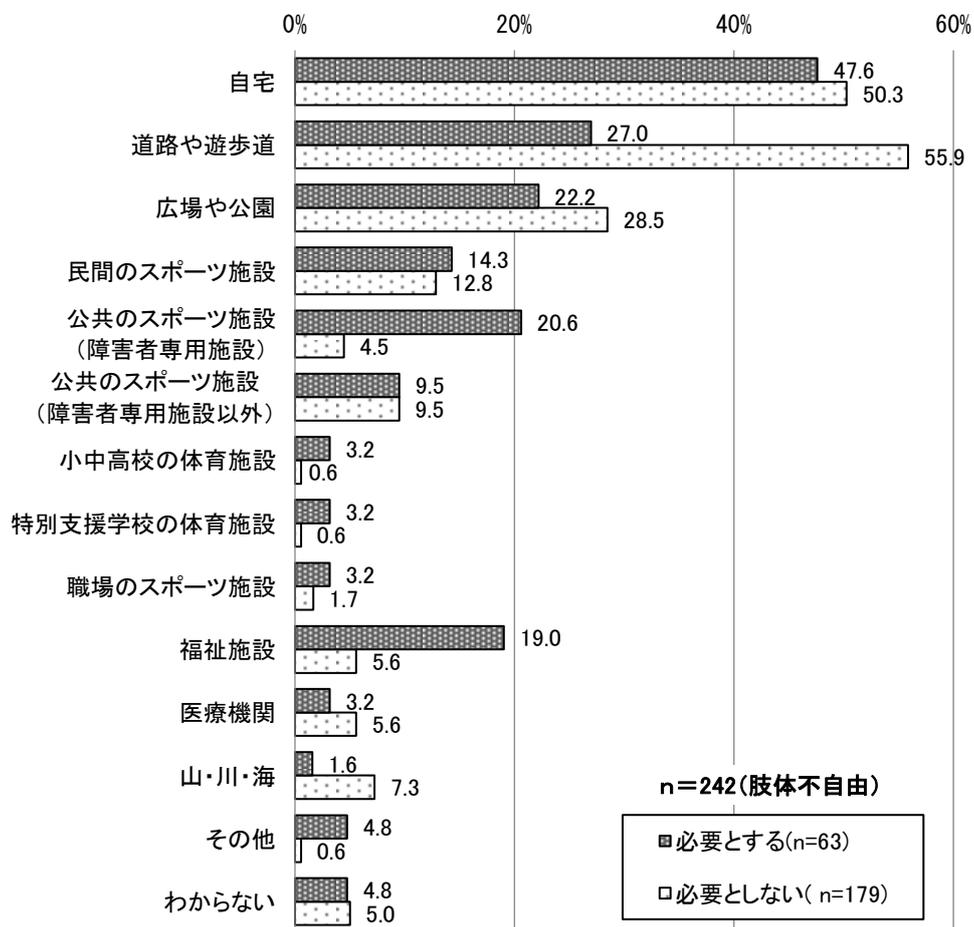
障害の程度別にみると、「重度」では、「軽度」と「障害者手帳の非保持者」に比べて、「公共のスポーツ施設（障害者専用施設）」と「福祉施設」の割合が高かった。【図表 76】

【図表 76】スポーツ・運動を実施する場所(障害の程度別)[複数回答]



日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」では「自宅」(47.6%)が最も高く、「日常生活で車いすを必要としない」では「道路や遊歩道」(55.9%)が最も高かった。また、「日常生活で車いすを必要とする」では「公共のスポーツ施設(障害者専用施設)が2割を超えた。【図表 77】

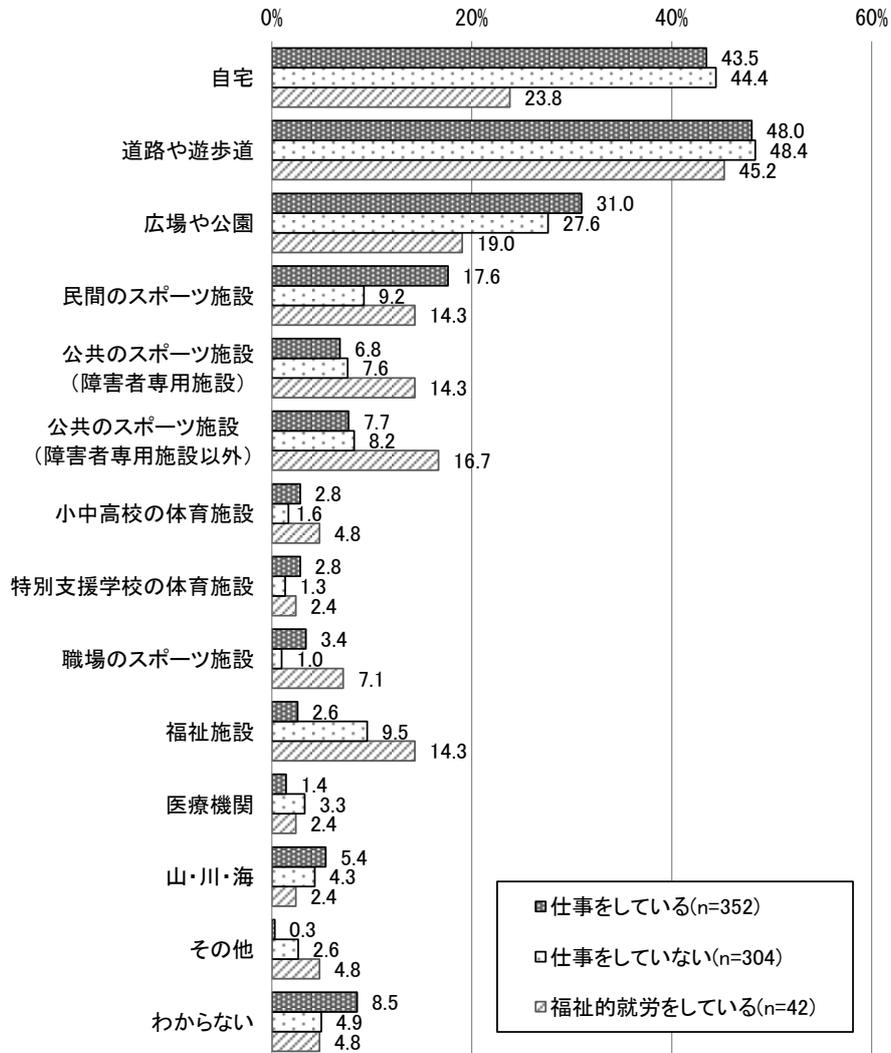
【図表 77】スポーツ・運動を実施する場所(日常生活で車いす必要／不要) [複数回答]



就業状況別にみると、いずれの区分でも「道路や遊歩道」が最も高かった（それぞれ 48.0%：48.4%：45.2%）。「仕事をしている」では、次いで「自宅」、「広場や公園」、「民間のスポーツ施設」の順で、「仕事をしていない」では、次いで「自宅」、「広場や公園」、「福祉施設」の順、「福祉的就労をしている」では、次いで「自宅」、「広場や公園」、「公共のスポーツ施設（障害者専用施設以外）」の順であった。

【図表 78】

【図表 78】スポーツ・運動を実施する場所（就業状況別）〔複数回答〕



平日・日中の居場所別にみると、「自分の家」では「自宅」(51.1%)が最も高くなっており、「職場(一般企業など)」では「道路や遊歩道」(55.3%)が最も高くなった。【図表 79】

【図表 79】スポーツ・運動を実施する場所(平日・日中の居場所別) [複数回答]

(単位: %)

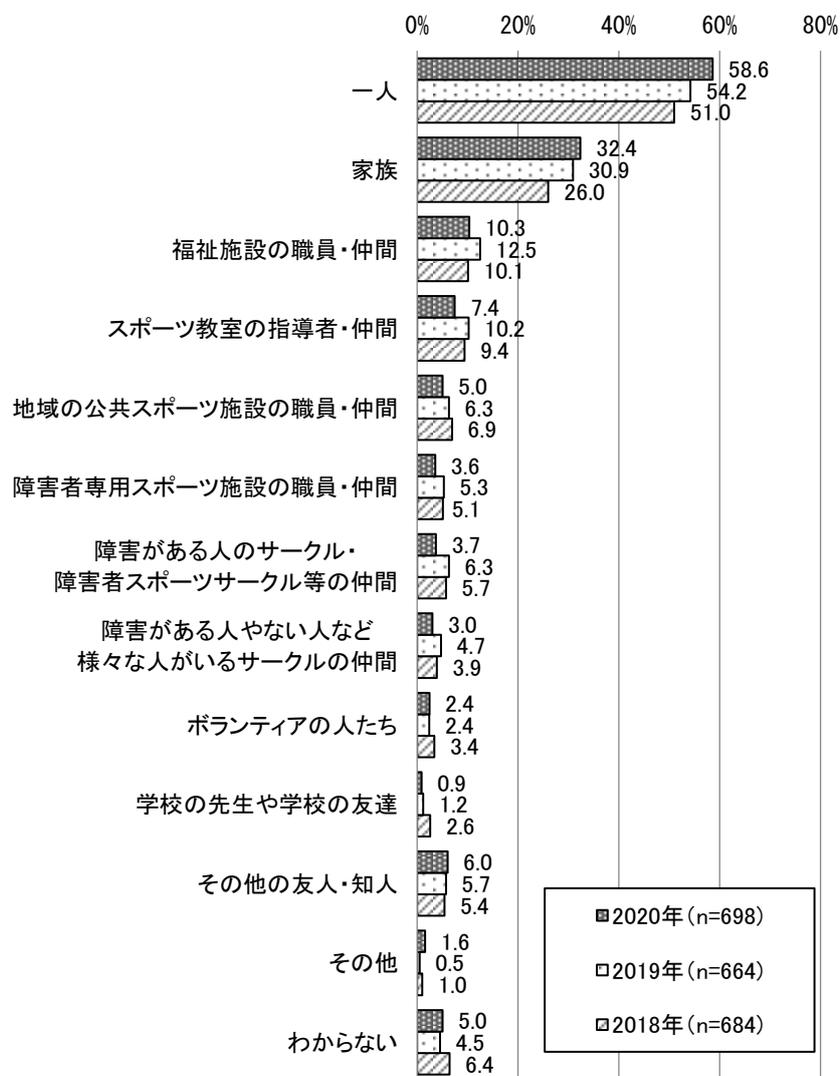
	n	自宅	道路や遊歩道	広場や公園	民間のスポーツ施設	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設)	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設以外)	小中高校の体育施設	特別支援学校の体育施設	職場のスポーツ施設	福祉施設	医療機関	山・川・海	その他	わからない
自分の家	395	51.1	46.8	29.1	9.1	4.8	7.3	2.0	1.3	1.3	4.6	2.3	4.3	2.0	6.6
職場 (一般企業など)	206	35.0	55.3	31.6	23.3	9.2	9.2	3.9	2.9	3.4	2.4	1.9	6.3	0.0	6.3
職場 (福祉的就労の施設)	37	24.3	40.5	21.6	10.8	13.5	13.5	0.0	2.7	8.1	13.5	0.0	2.7	0.0	10.8
学校	11	45.5	36.4	27.3	0.0	9.1	18.2	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
通所施設 (生活介護、デイケアなど)	32	21.9	37.5	18.8	18.8	21.9	6.3	3.1	3.1	3.1	40.6	3.1	0.0	3.1	3.1
入所施設	8	12.5	12.5	25.0	25.0	25.0	12.5	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5
その他	9	22.2	44.4	22.2	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1

## (6) スポーツ・運動を一緒に実施する人

スポーツや運動を一緒に実施する人は、「一人」の割合が58.6%で最も高く、次いで「家族」(32.4%)、「福祉施設の職員・仲間」(10.3%)、「スポーツ教室の指導者・仲間」(7.4%)の順であった。これら上位項目の順位は昨年度と同様であった。なお、昨年度に比べ、「一人」が4.4ポイント高かった。

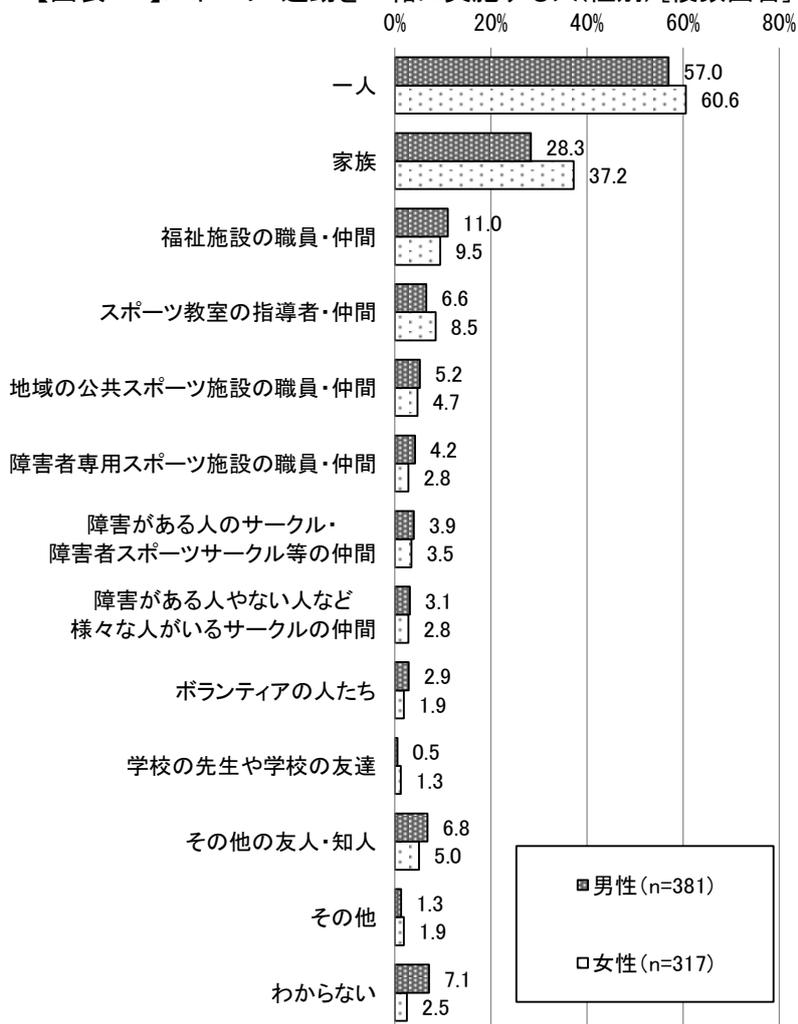
【図表 80】

【図表 80】スポーツ・運動を一緒に実施する人[複数回答]



性別でみると、男女とも「一人」の割合が最も高く（男性 57.0%、女性 60.6%）、次いで「家族」「福祉施設の職員・仲間」の順で、これに続く男性の4位は、「その他の友人・知人」、5位「スポーツ教室の指導者・仲間」であった。女性の4位は「スポーツ教室の指導者・仲間」、5位「その他の友人・知人」の順であった。【図表 81】

【図表 81】スポーツ・運動と一緒に実施する人(性別) [複数回答]



障害種別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」と「知的障害」では「家族」が、他の障害では「一人」が最も高くなった。「知的障害」では他の障害に比べて、「福祉施設の職員・仲間」の割合が22.4%と高かった。【図表 82】

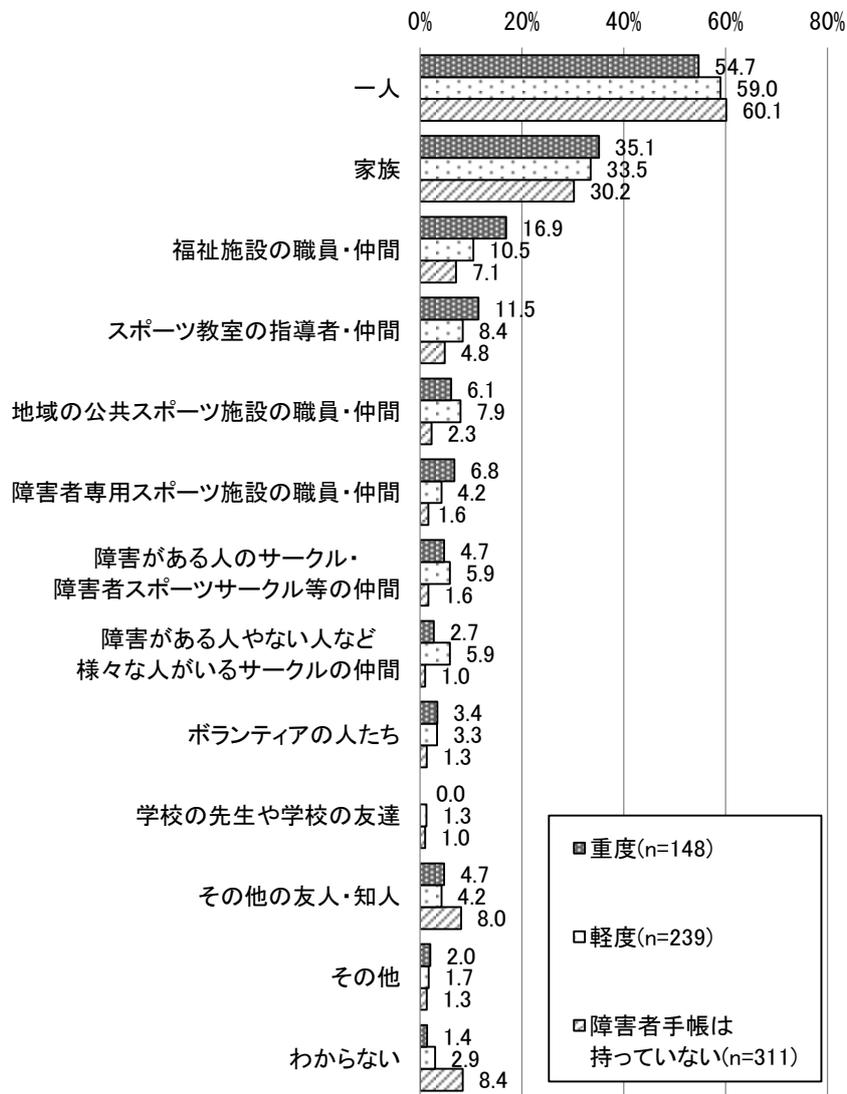
【図表 82】スポーツ・運動を一緒に実施する人(障害種別)[複数回答]

(単位:%)

	n	一人	家族	福祉施設の職員・仲間	スポーツ教室の指導者・仲間	地域の公共スポーツ施設の職員・仲間	障害者専用スポーツ施設の職員・仲間	障害者スポーツサークル等の仲間	障害がある人のサークルの仲間	様々な人がいるサークルの仲間	ボランティアの人たち	学校の先生や学校の友達	その他の友人・知人	その他	わからない
視覚障害	74	47.3	25.7	13.5	9.5	6.8	6.8	4.1	2.7	8.1	0.0	8.1	0.0	14.9	
聴覚・平衡機能障害	72	45.8	37.5	13.9	11.1	12.5	9.7	8.3	4.2	2.8	2.8	2.8	1.4	5.6	
音声・言語・そしゃく機能障害	31	35.5	48.4	12.9	16.1	16.1	6.5	12.9	3.2	12.9	6.5	6.5	0.0	3.2	
肢体不自由	242	57.0	31.0	14.0	9.9	7.0	5.0	5.0	3.3	2.5	1.2	7.4	2.9	3.7	
内部障害	147	73.5	31.3	2.7	6.8	2.7	0.7	0.7	2.0	0.0	0.0	6.1	0.0	0.7	
知的障害	76	35.5	44.7	22.4	5.3	1.3	2.6	2.6	6.6	3.9	2.6	5.3	2.6	9.2	
精神障害	123	70.7	33.3	5.7	3.3	3.3	1.6	2.4	0.8	0.8	0.0	1.6	0.8	3.3	
その他	8	62.5	50.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	

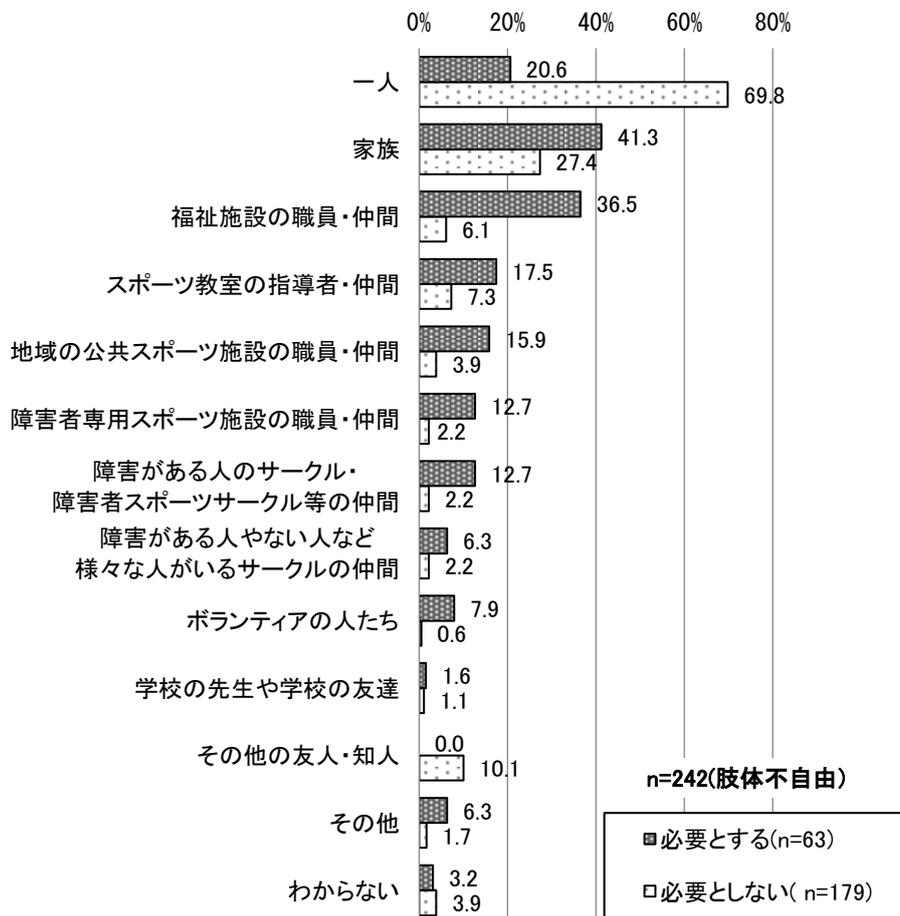
障害の程度別にみると、「重度」では、他の区分に比べて「一人」(54.7%)の割合が低く、「家族」(35.1%)や「福祉施設の職員・仲間」(16.9%)の割合が高かった。【図表 83】

【図表 83】スポーツ・運動を一緒に実施する人(障害の程度別)[複数回答]



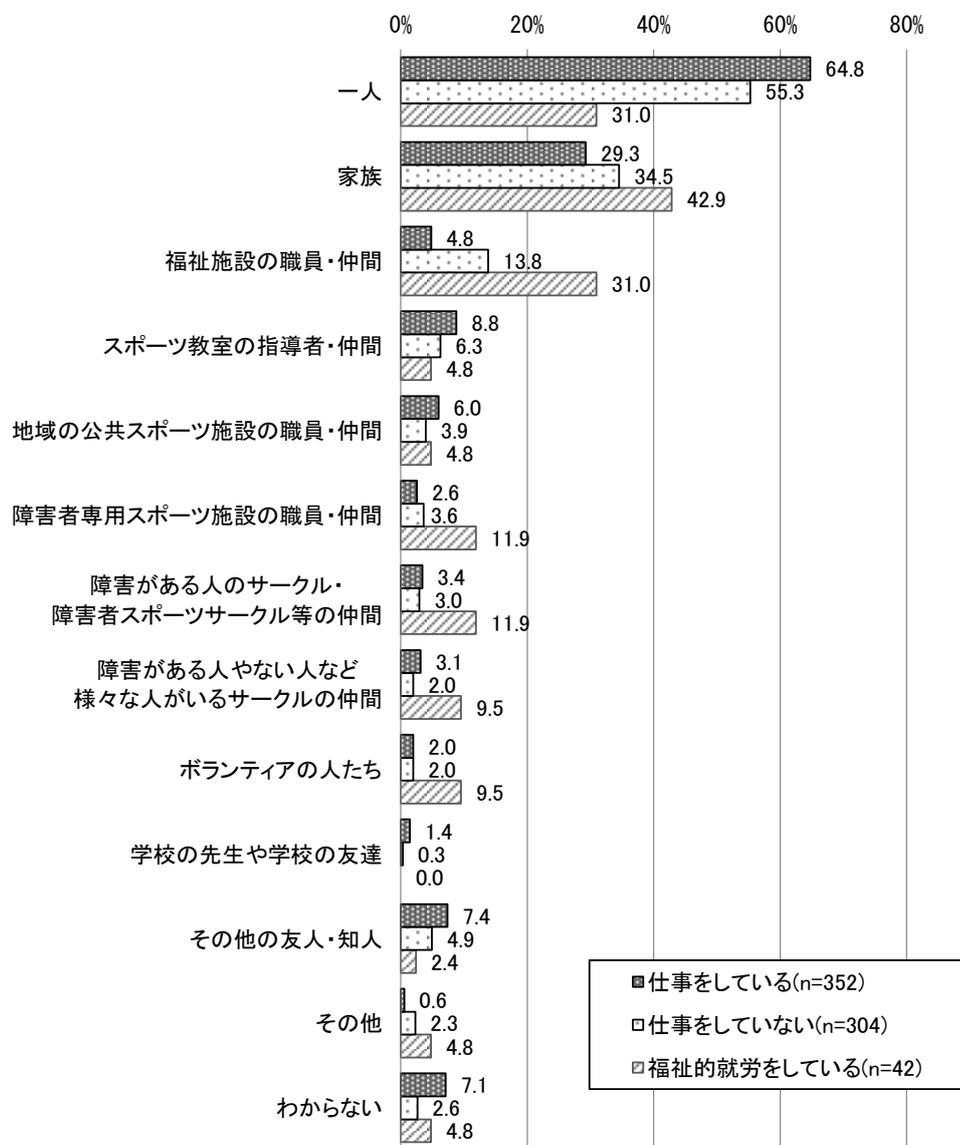
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」では「家族」(41.3%)が、「日常生活で車いすを必要としない」では「一人」(69.8%)が最も高くなった。「日常生活で車いすを必要とする」は「福祉施設の職員・仲間」も36.5%と高かった。【図表 84】

【図表 84】スポーツ・運動を一緒に実施する人(日常生活で車いす必要／不要) [複数回答]



就業状況別にみると、「仕事をしている」「仕事をしていない」では「一人」、「家族」の順となったが、「福祉的就労をしている」では、「家族」の割合がもっとも高く、次いで「一人」と「福祉施設の職員・仲間」が同割合で続いた。【図表 85】

【図表 85】スポーツ・運動と一緒に実施する人(就業状況別) [複数回答]



平日・日中の居場所別にみると、「自分の家」「職場（一般企業など）」の双方とも「一人」、「家族」の順に割合が高い。また「自分の家」は「その他の友人・知人」の割合が23.1%と高かった。【図表 86】

【図表 86】スポーツ・運動を一緒に実施する人(平日・日中の居場所別)[複数回答]

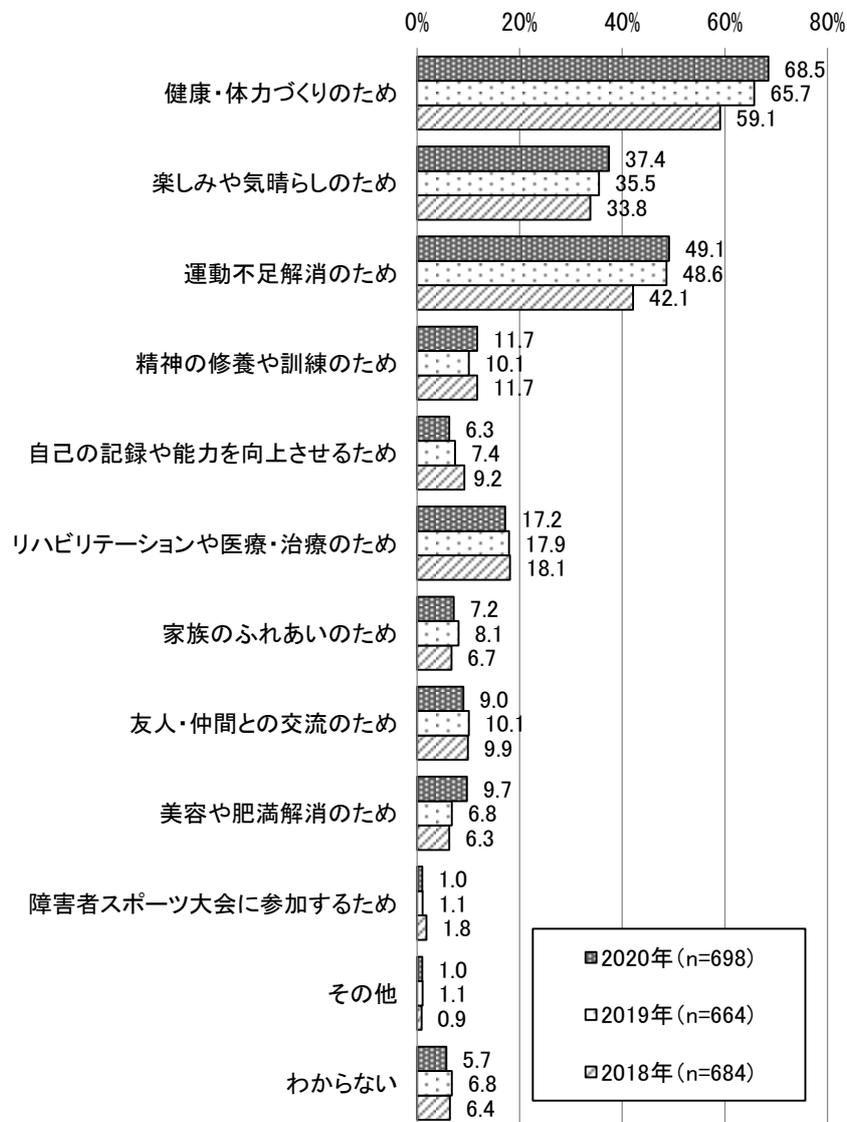
(単位:%)

	n	一人	家族	福祉施設の職員・仲間	スポーツ教室の指導者・仲間	地域の公共スポーツ施設の職員・仲間	障害者専用スポーツ施設の職員・仲間	障害者スポーツサークル等の仲間	障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間	ボランティアの人たち	学校の先生や学校の友達	その他の友人・知人	その他	わからない
自分の家	395	61.3	38.5	7.7	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	23.1	0.0	7.7
職場 (一般企業など)	206	67.5	33.0	12.5	8.0	6.8	1.1	2.3	6.8	0.0	3.4	5.7	2.3	3.4
職場 (福祉的就労の施設)	37	29.7	31.3	12.5	10.7	9.8	7.1	8.0	2.7	8.9	0.0	4.5	0.9	3.6
学校	11	36.4	33.3	8.1	3.0	2.0	3.0	3.0	2.0	1.0	0.0	2.0	2.0	7.1
通所施設 (生活介護、デイケアなど)	32	18.8	29.2	5.6	8.3	4.2	2.8	4.2	2.8	1.4	0.7	8.3	0.7	7.6
入所施設	8	12.5	36.5	5.8	4.8	3.8	3.8	4.8	2.9	1.9	0.0	3.8	1.9	1.9
その他	9	66.7	31.9	17.4	8.0	2.9	3.6	0.7	2.2	1.4	0.0	8.0	2.2	5.1

## (7) スポーツ・運動を実施する理由

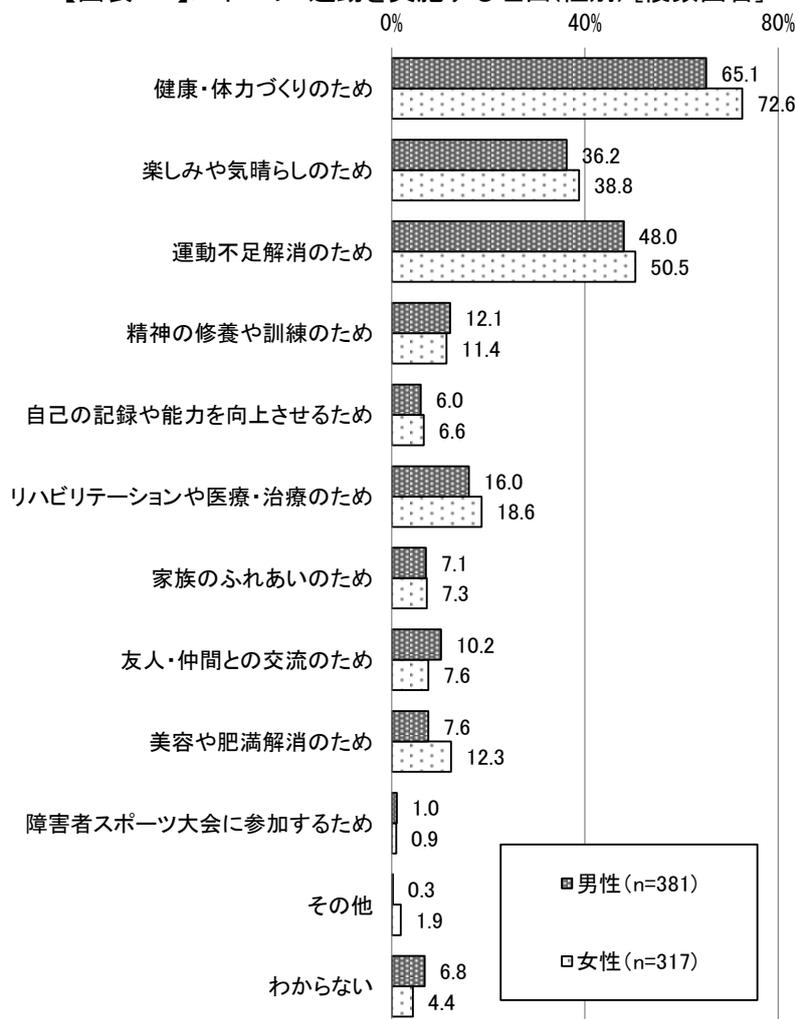
スポーツや運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」(68.5%)が最も高く、次いで「運動不足解消のため」(49.1%)、「楽しみや気晴らしのため」(37.4%)、「リハビリテーションや医療・治療のため」(17.2%)、「精神の修養や訓練のため」(11.7%)の順であった。【図表 87】

【図表 87】スポーツ・運動を実施する理由[複数回答]



性別で見ると、男女とも「健康・体力づくりのため」が最も高く（男性 65.1%、女性 72.6%）、次いで「運動不足解消のため」「楽しみや気晴らしのため」「リハビリテーションや医療・治療のため」の順となった。これに続く男性の5位は「精神の修養や訓練のため」であったのに対し、女性の5位は「美容や肥満解消のため」であった。【図表 88】

【図表 88】スポーツ・運動を実施する理由(性別) [複数回答]



障害種別にみると、すべての種別で、「健康・体力づくりのため」、「運動不足解消のため」、「楽しみや気晴らしのため」の順で割合が高かった。「肢体不自由」では「リハビリテーションや医療・治療のため」(32.2%)の割合が高く、「音声・言語・そしゃく機能障害」では「家族のふれあいのため」(29.0%)の割合が高かった。【図表 89】

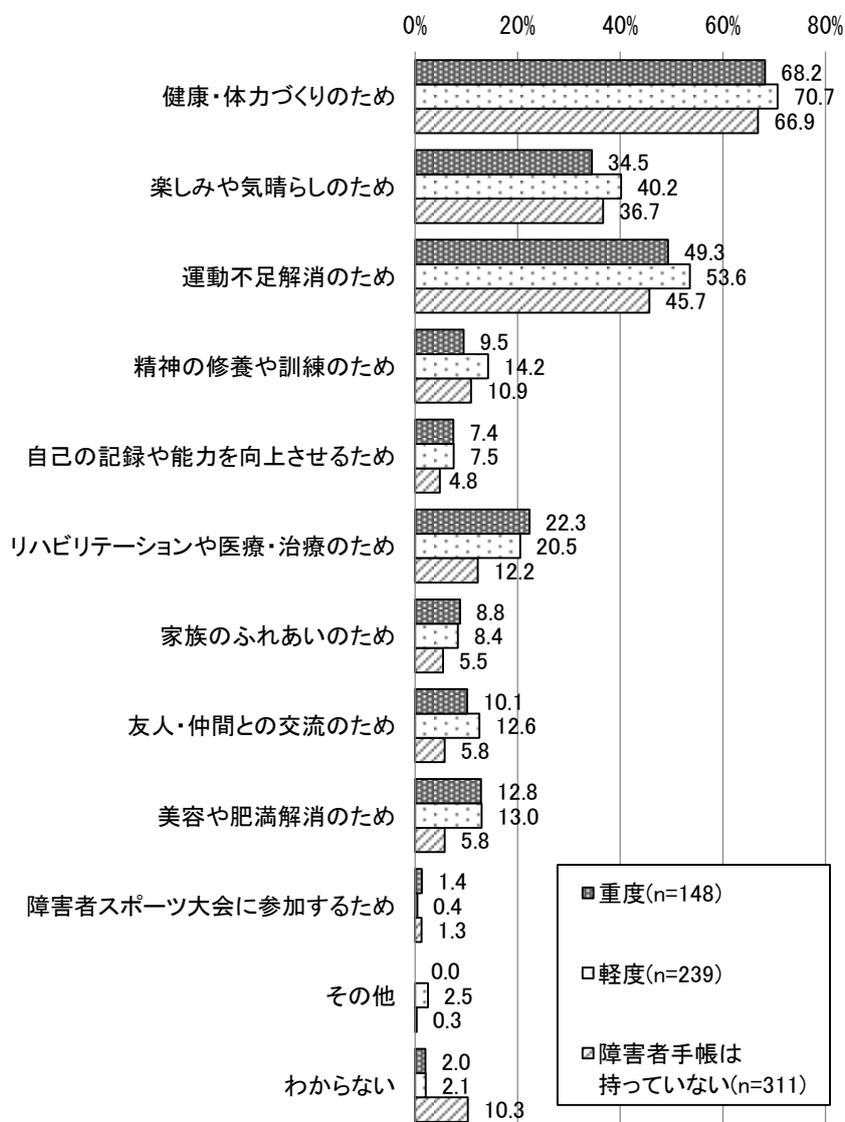
【図表 89】スポーツ・運動を実施する理由(障害種別)[複数回答]

(単位:%)

	n	健康・体力づくりのため	楽しみや気晴らしのため	運動不足解消のため	精神の修養や訓練のため	自己の記録や能力を向上させるため	治療のため	リハビリテーションや医療・	家族のふれあいのため	友人・仲間との交流のため	美容や肥満解消のため	障害者スポーツ大会に参加するため	その他	わからない
視覚障害	74	59.5	31.1	36.5	13.5	9.5	13.5	12.2	8.1	5.4	1.4	0.0	13.5	
聴覚・平衡機能障害	72	65.3	40.3	43.1	9.7	11.1	15.3	11.1	4.2	8.3	1.4	0.0	6.9	
音声・言語・そしゃく機能障害	31	58.1	32.3	38.7	19.4	6.5	19.4	29.0	9.7	6.5	0.0	0.0	3.2	
肢体不自由	242	73.1	37.6	51.7	11.2	7.0	32.2	8.7	13.2	7.4	0.8	1.7	4.1	
内部障害	147	66.7	37.4	51.0	9.5	3.4	10.9	3.4	5.4	8.2	0.7	0.7	4.1	
知的障害	76	67.1	39.5	52.6	15.8	10.5	10.5	11.8	15.8	15.8	1.3	1.3	7.9	
精神障害	123	69.1	38.2	55.3	17.1	5.7	12.2	4.9	4.9	19.5	0.8	0.8	4.1	
その他	8	50.0	62.5	62.5	12.5	0.0	25.0	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	

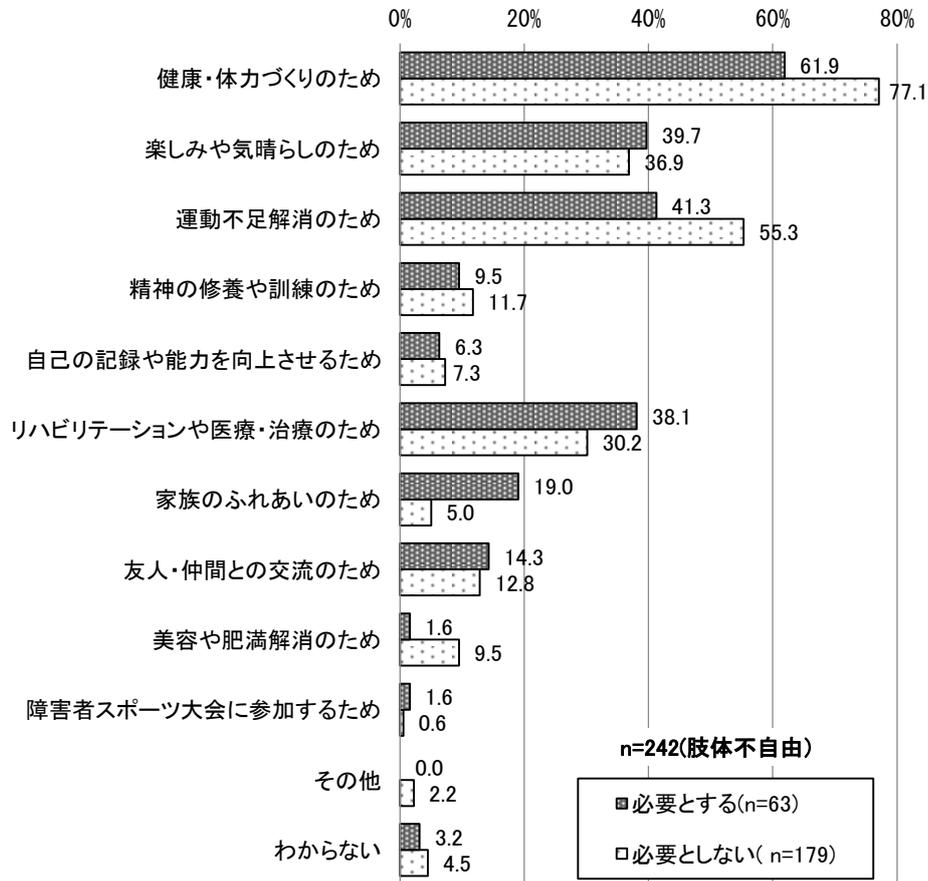
障害の程度別にみると、いずれの区分においても、「健康・体力づくりのため」が最も高く、次いで「運動不足解消のため」「楽しみや気晴らしのため」の順であった。【図表 90】

【図表 90】スポーツ・運動を実施する理由(障害の程度別)[複数回答]



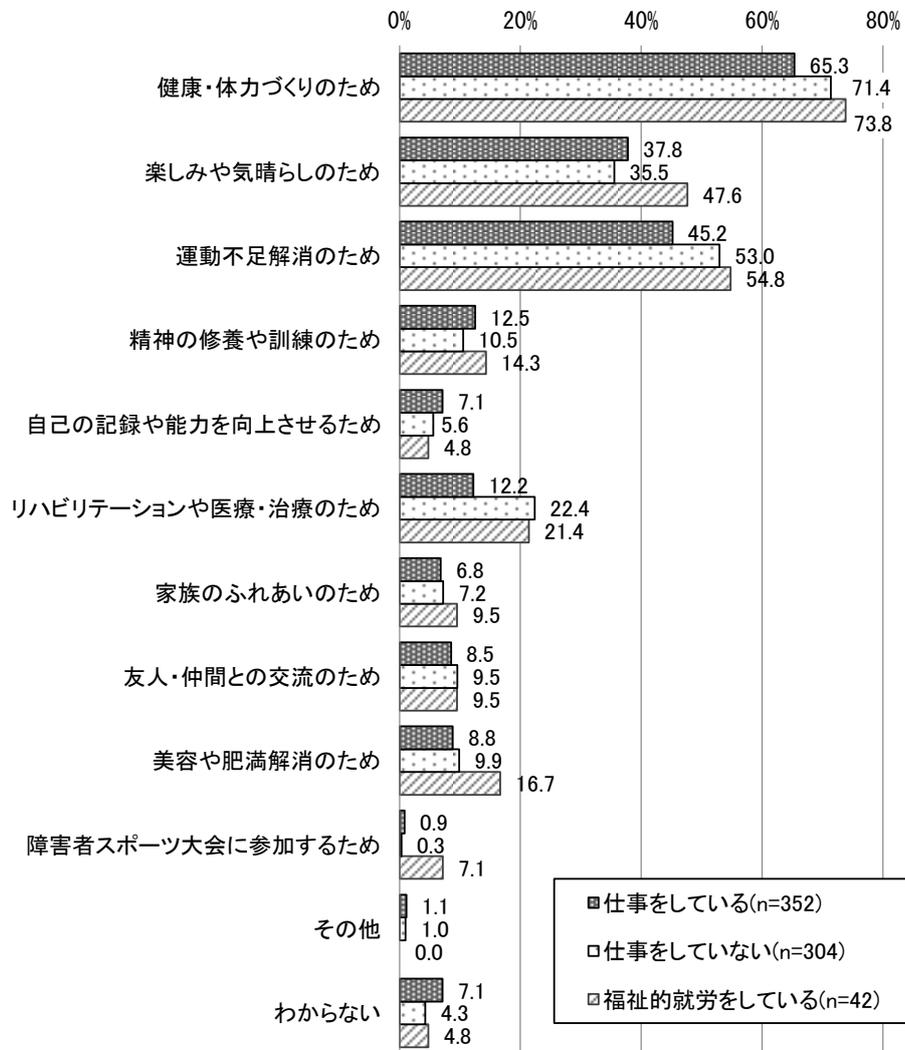
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」「日常生活で車いすを必要としない」の双方で、「健康・体力づくりのため」が最も高く、次いで「運動不足解消のため」「楽しみや気晴らしのため」の順であった。【図表 91】

【図表 91】スポーツ・運動を実施する理由(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



就業状況別にみると、「仕事をしている」「仕事をしていない」「福祉的就労をしている」のいずれの区分においても「健康・体力づくりのため」、「運動不足 解消のため」、「楽しみや気晴らしのため」の順に割合が高かった。「仕事をしていない」と「福祉的就労をしている」では、「リハビリテーションや医療・治療のため」を理由とする割合が「仕事をしている」より高く、2割を超えた。【図表 92】

【図表 92】スポーツ・運動を実施する理由(就業状況別)[複数回答]



平日・日中の居場所別にみると、「入所施設」を除くいずれの区分でも「健康・体力づくりのため」が高いが、「入所施設」では「健康・体力づくりのため」よりも「楽しみや気晴らしのため」「運動不足解消のため」「精神の修養や訓練のため」の割合が高かった（いずれも37.5%）。また「通所施設（生活介護、デイケアなど）」では他の区分と比べて「リハビリテーションや医療・治療のため」の割合が高かった（31.3%）。【図表 93】

【図表 93】スポーツ・運動を実施する理由（平日・日中の居場所別）[複数回答]

(単位:%)

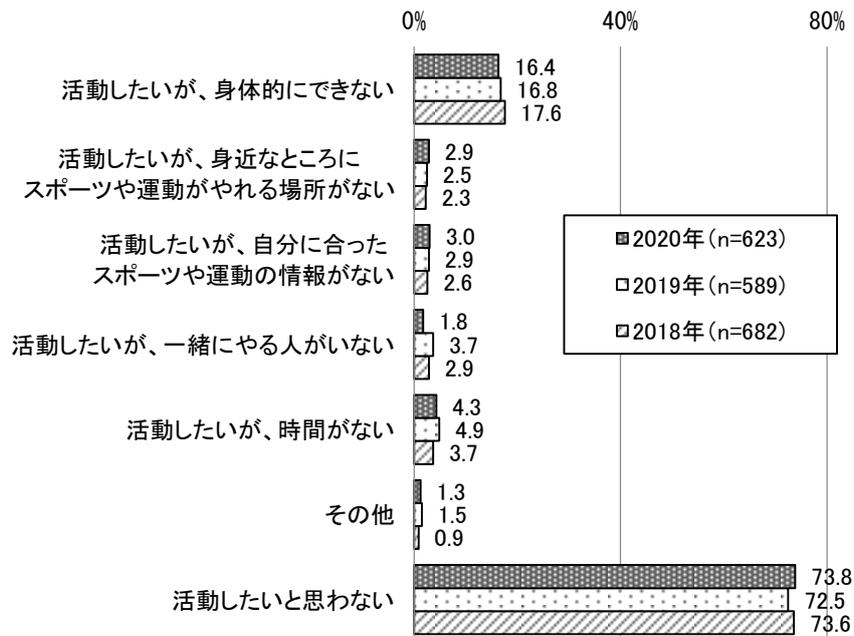
	n	健康・体力づくりのため	楽しみや気晴らしのため	運動不足解消のため	精神の修養や訓練のため	自己の記録や能力を向上させるため	治療のため	リハビリテーションや医療・治療のため	家族のふれあいのため	友人・仲間との交流のため	美容や肥満解消のため	障害者スポーツ大会に参加するため	その他	わからない
自分の家	395	71.4	34.7	51.1	9.1	6.3	17.7	7.3	8.9	8.1	0.8	1.0	4.8	
職場 (一般企業など)	206	68.4	42.2	48.5	13.6	6.8	11.7	5.8	8.7	12.1	0.5	1.5	6.3	
職場 (福祉的就労の施設)	37	62.2	40.5	40.5	18.9	2.7	21.6	8.1	10.8	13.5	2.7	0.0	8.1	
学校	11	54.5	36.4	54.5	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	27.3	0.0	0.0	18.2	
通所施設 (生活介護、デイケアなど)	32	59.4	40.6	40.6	12.5	6.3	31.3	12.5	9.4	9.4	3.1	0.0	3.1	
入所施設	8	25.0	37.5	37.5	37.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	25.0	
その他	9	55.6	22.2	44.4	33.3	0.0	55.6	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	

## (8) スポーツ・運動を実施しない理由

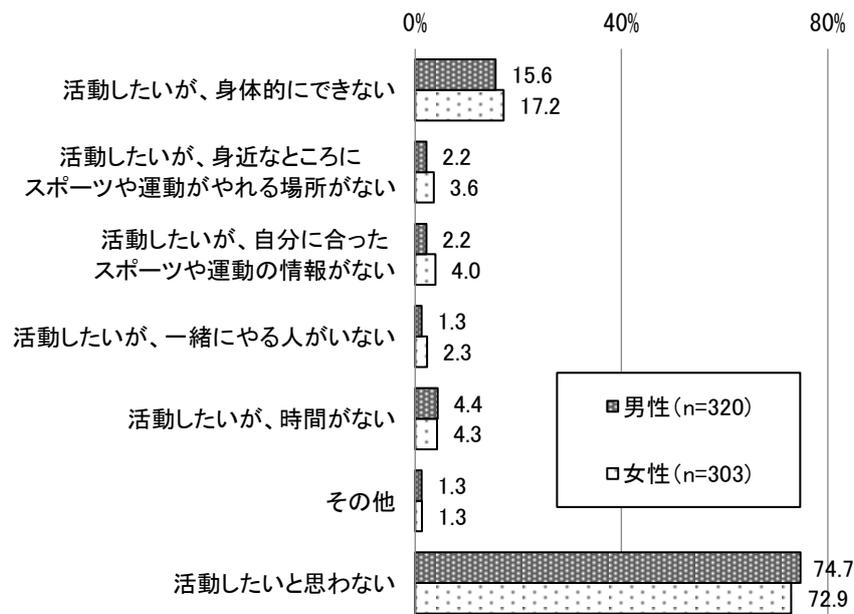
スポーツや運動を実施しない理由は、「活動したいと思わない」が73.8%と最も高く、次いで「活動したいが、身体的にできない」が16.4%であった。他には「活動したいが、時間がない」(4.3%)、「活動したいが、自分に合ったスポーツや運動の情報がない」(3.0%)、「活動したいが、身近なところにスポーツや運動がやれる場所がない」(2.9%)、「活動したいが、一緒にやる人がいない」(1.8%)の順であった。「活動したいが、一緒にやる人がいない」は、昨年度は4位だったのが、6位に下がった。

【図表 94】

【図表 94】スポーツ・運動を実施しない理由[複数回答]



【図表 95】スポーツ・運動を実施しない理由(性別)[複数回答]



障害種別にみると、他の障害に比べて、「音声・言語・そしゃく機能障害」と「肢体不自由」では「活動したいが、身体的にできない」(それぞれ 33.3%、34.0%)が高かった一方で、「活動したいとは思わない」(それぞれ 55.6%、57.2%)が低かった。【図表 96】

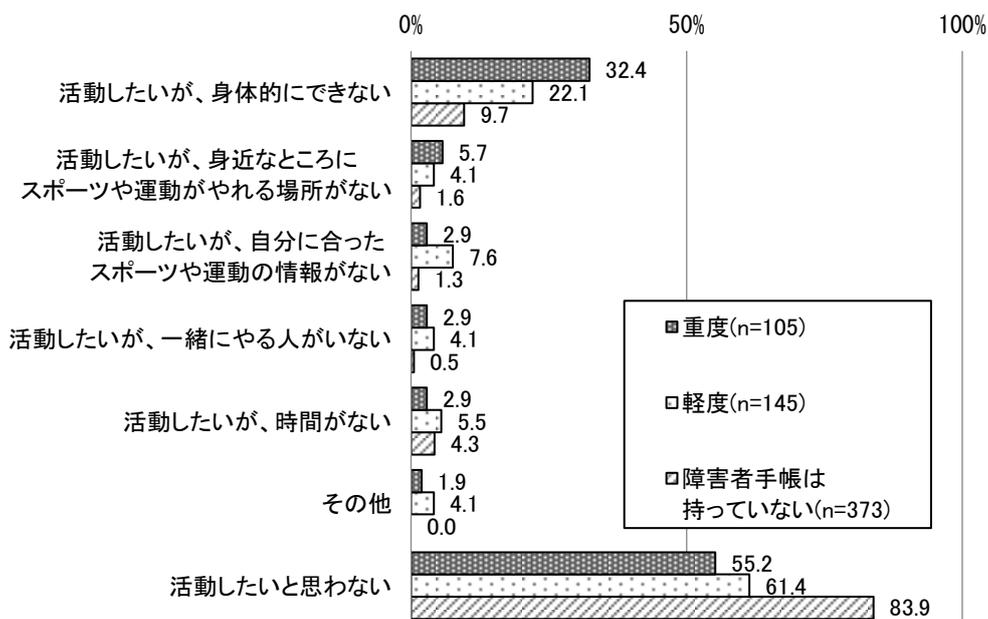
【図表 96】スポーツ・運動を実施しない理由(障害種別)[複数回答]

(単位: %)

	n	活動したいが、身体的にできない	活動したいが、身近なところでスポーツや運動がやれる場所がない	活動したいが、自分に合ったスポーツや運動の情報がない	活動したいが、一緒にやる人がいない	活動したいが、時間がない	その他	活動したいと思わない
視覚障害	85	8.2	0.0	1.2	1.2	4.7	1.2	84.7
聴覚・平衡機能障害	67	14.9	4.5	3.0	1.5	7.5	0.0	73.1
音声・言語・そしゃく機能障害	27	33.3	0.0	7.4	7.4	3.7	0.0	55.6
肢体不自由	194	34.0	3.6	5.2	2.6	2.1	1.5	57.2
内部障害	125	16.8	5.6	0.8	1.6	3.2	0.8	75.2
知的障害	86	7.0	2.3	3.5	3.5	7.0	0.0	80.2
精神障害	146	4.8	2.7	4.1	2.1	4.1	2.7	82.9
その他	6	16.7	16.7	33.3	0.0	0.0	16.7	50.0

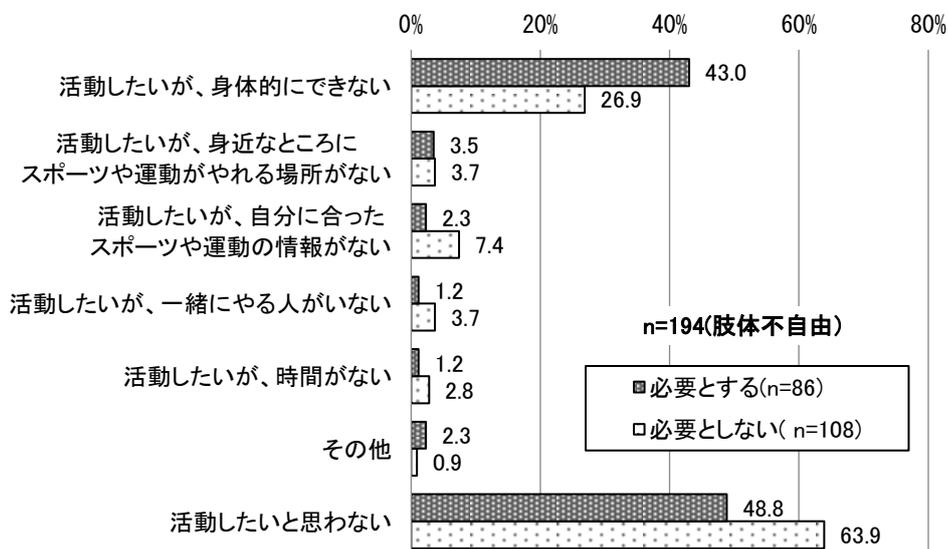
障害の程度別にみると、「重度」では「活動したいが、身体的にできない」(32.4%)の割合が高かった。また、「障害者手帳非保持者」では「活動したいと思わない」の割合が8割を超えた(83.9%)。【図表 97】

【図表 97】スポーツ・運動を実施しない理由(障害の程度別)[複数回答]



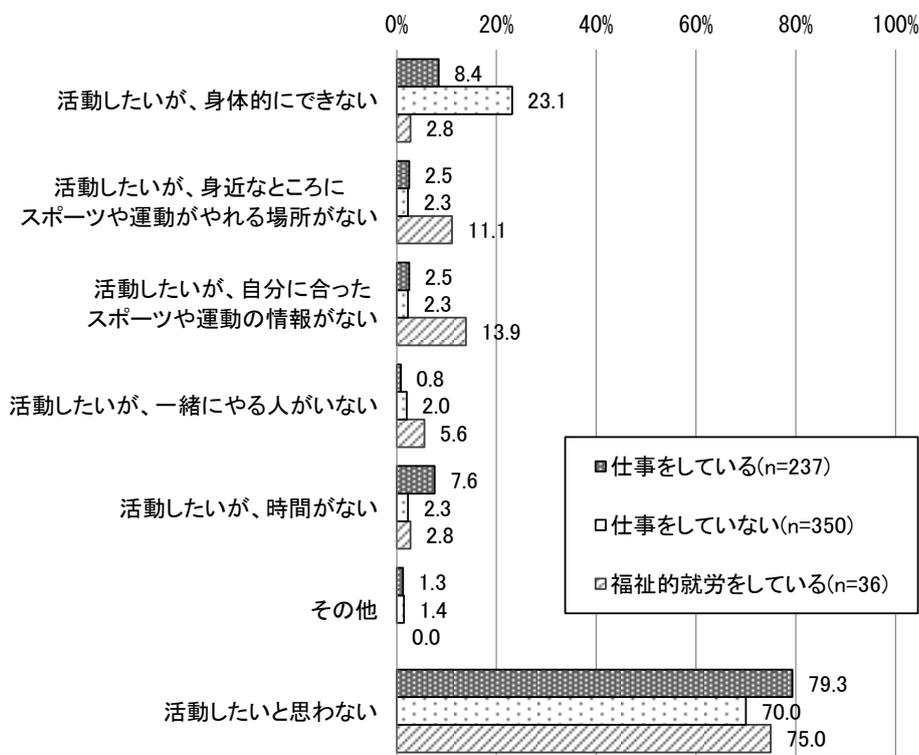
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」では「日常生活で車いすを必要としない」に比べて、「活動したいが、身体的にできない」(43.0%)が高く、また、「活動したいとは思わない」(48.8%)が低かった。【図表 98】

【図表 98】スポーツ・運動を実施しない理由(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



就業状況別にみると、いずれの区分においても「活動したいと思わない」が最も高かった。また、「仕事をしていない」では、「活動したいが、身体的にできない」の割合が他の区分と比べて高かった(23.1%)。【図表 99】

【図表 99】スポーツ・運動を実施しない理由(就業状況別)[複数回答]



平日・日中の居場所別にみると、いずれの区分においても「活動したいと思わない」が高いが、「通所施設（生活介護、デイケアなど）」では、「活動したいが、身体的にできない」が「活動したいと思わない」と同じ割合となった（45.0%）。【図表 100】

【図表 100】スポーツ・運動を実施しない理由（平日・日中の居場所別）[複数回答]

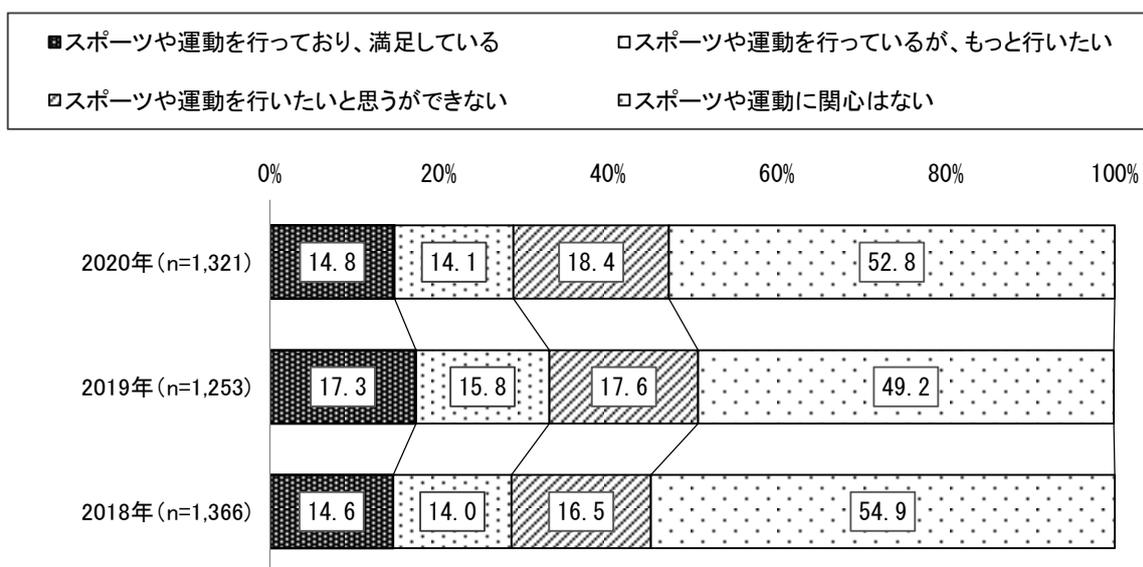
(単位:%)

	n	活動したいが、身体的にできない	活動したいが、身近なところスポーツや運動がやれる場所がない	活動したいが、自分に合ったスポーツや運動の情報がない	活動したいが、一緒にやる人がいない	活動したいが、時間がない	その他	活動したいと思わない
自分の家	393	17.8	2.8	3.3	2.3	2.8	2.0	73.5
職場 (一般企業など)	151	7.9	2.6	1.3	0.7	9.3	0.0	79.5
職場 (福祉的就労の施設)	14	0.0	14.3	28.6	0.0	7.1	0.0	64.3
学校	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
通所施設 (生活介護、デイケアなど)	20	45.0	0.0	0.0	5.0	5.0	0.0	45.0
入所施設	33	24.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.8
その他	5	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

### (9) 現在のスポーツ・運動への取組

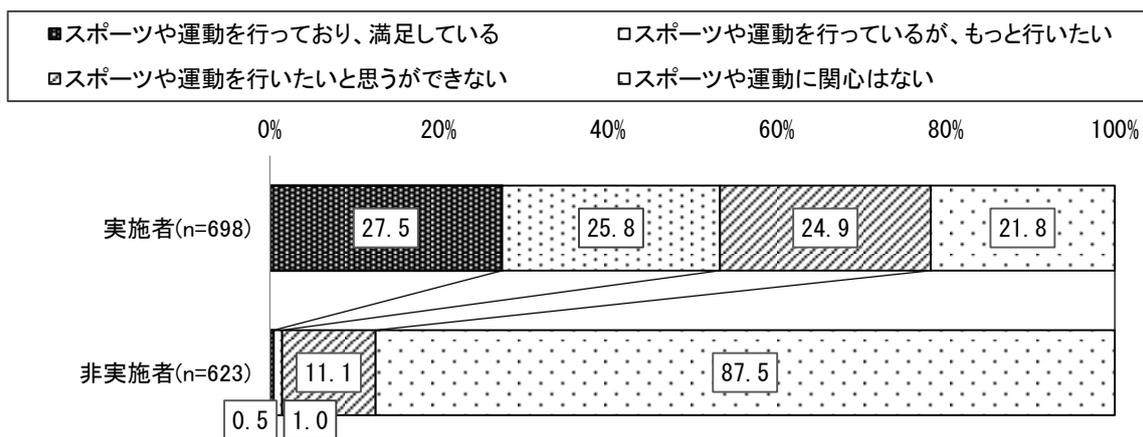
現在のスポーツや運動への取組については、「スポーツや運動に関心はない」(52.8%)が最も高かった。次いで「スポーツや運動を行いたいと思うができない」(18.4%)、「スポーツや運動を行っており、満足している」(14.8%)、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」(14.1%)の順であった。昨年度に比べると、「スポーツや運動に関心がない」が3.6ポイント上昇し、また、「スポーツや運動を行っており、満足している」が2.5ポイント低下した。【図表 101】

【図表 101】現在のスポーツ・運動への取組



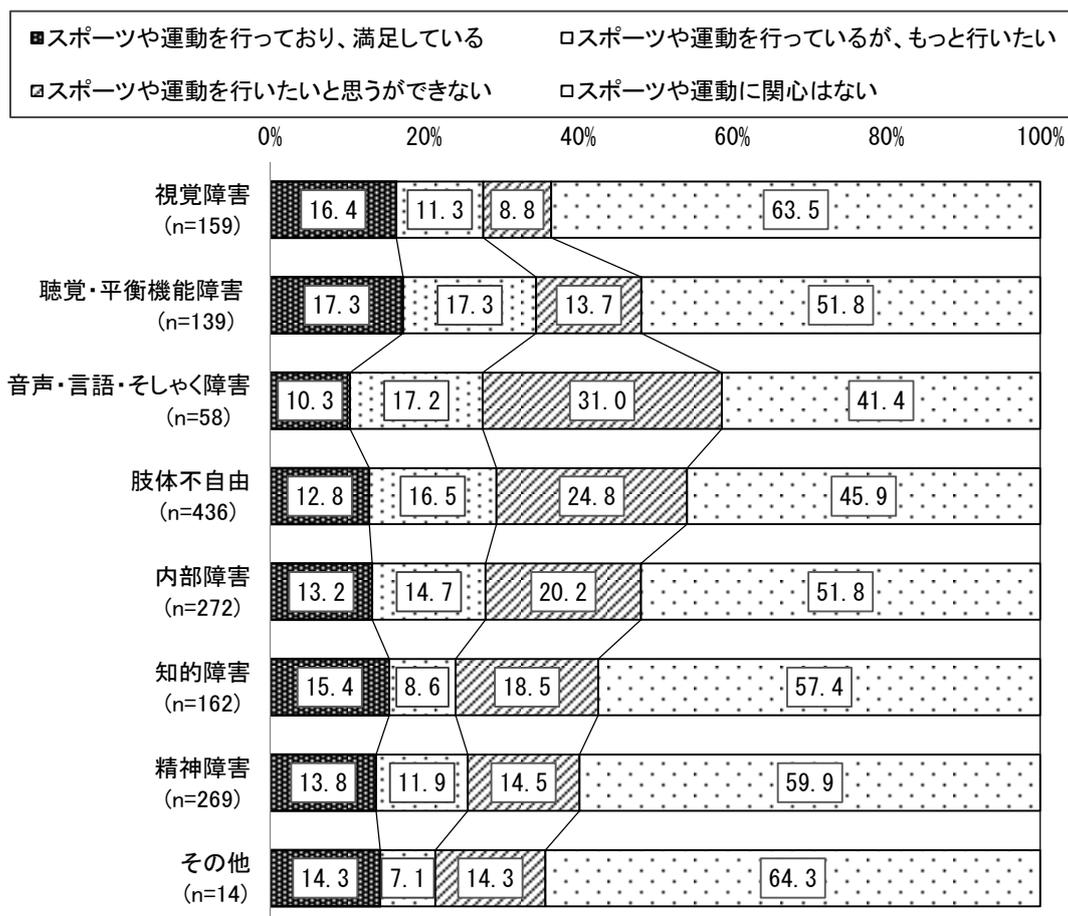
過去1年間のスポーツ・運動の実施有無別にみると、非実施者においては、「スポーツや運動に関心はない」が87.5%で、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」が11.1%であった。【図表 102】

【図表 102】現在のスポーツ・運動への取組(スポーツ・運動の実施の有無別)



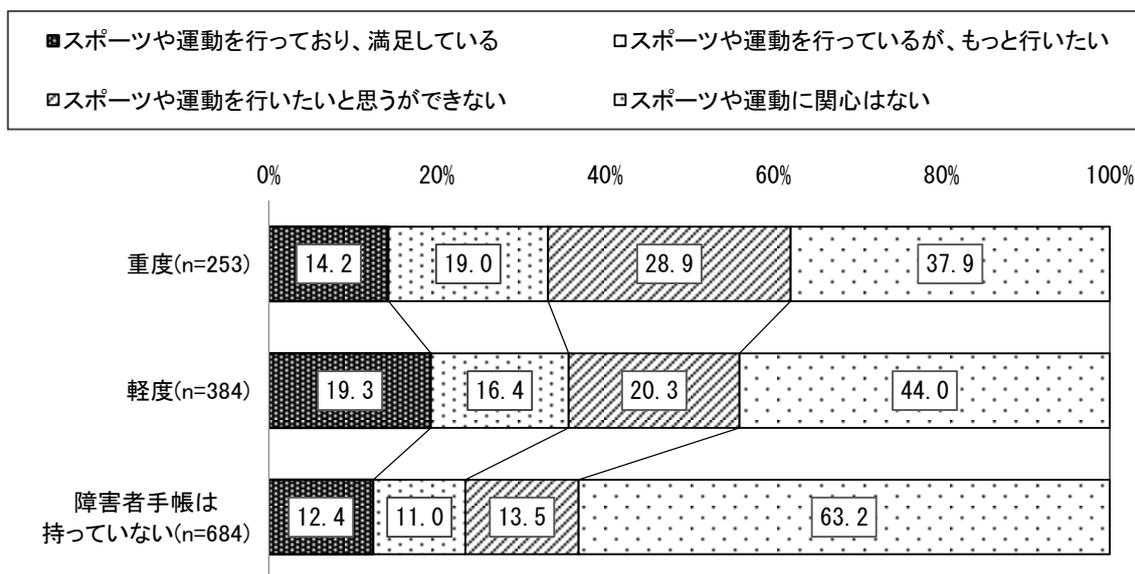
障害種別でみると、「視覚障害」と「精神障害」では、「スポーツや運動に関心はない」が6割前後と高い割合となった（63.5%、59.9%）。また、「音声・言語・そしゃく障害」では、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」が3割を超えた（31.0%）。「聴覚・平衡機能障害」と「音声・言語・そしゃく障害」では、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」が2割近くの割合となった（17.3%、17.2%）。また「聴覚・平衡機能障害」では2割近くの割合が「スポーツや運動を行っており、満足している」だったが（17.3%）、「音声・言語・そしゃく障害」では1割程度となった（10.3%）。  
【図表 103】

【図表 103】現在のスポーツ・運動への取組(障害種別)



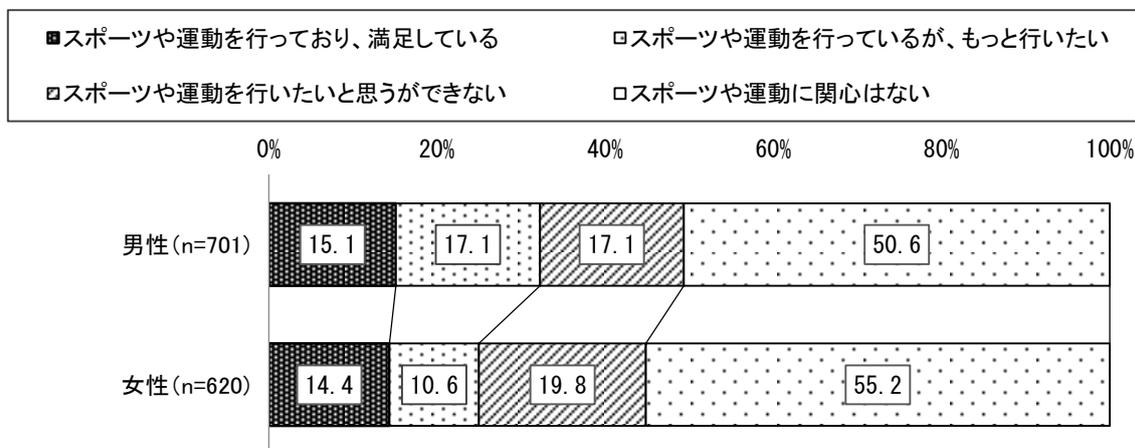
障害の程度別にみると、他の区分に比べて、「障害者手帳の非保持者」では「スポーツや運動に関心がない」(63.2%)が高かった。【図表 104】

【図表 104】現在のスポーツ・運動への取組(障害の程度別)



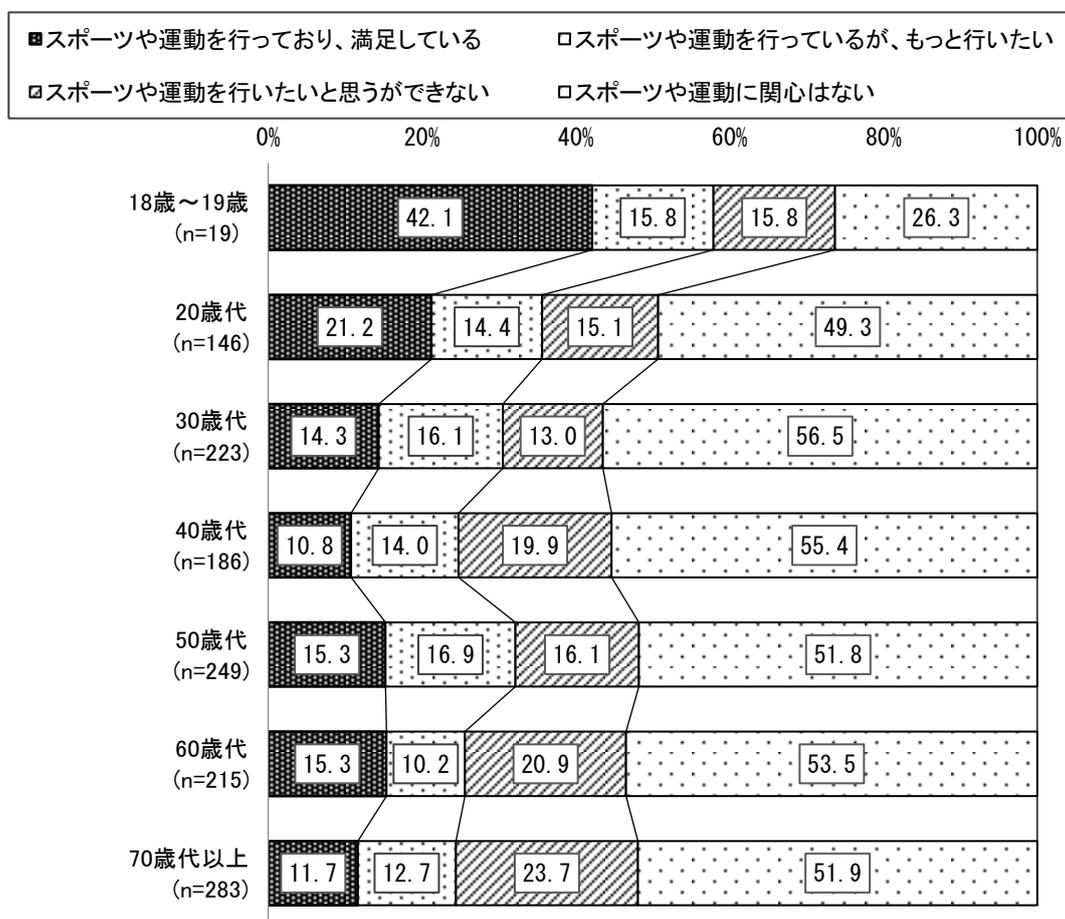
性別でみると、「スポーツや運動に関心はない」は、男性が 50.6%、女性が 55.2%であった。【図表 105】

【図表 105】現在のスポーツ・運動への取組(性別)



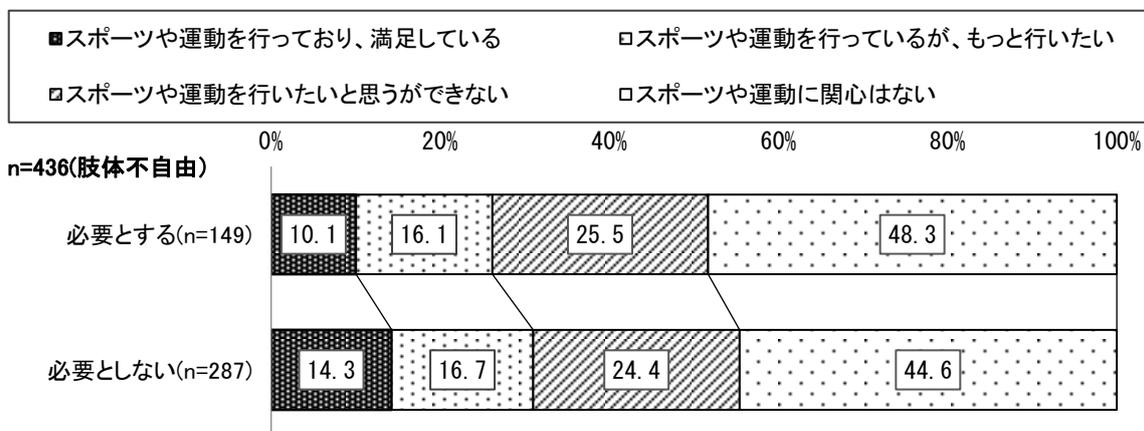
年齢別でみると、60歳代以上で「スポーツや運動を行いたいと思うができない」と回答する割合が2割を超えた。【図表 106】

【図表 106】現在のスポーツ・運動への取組(年齢別)



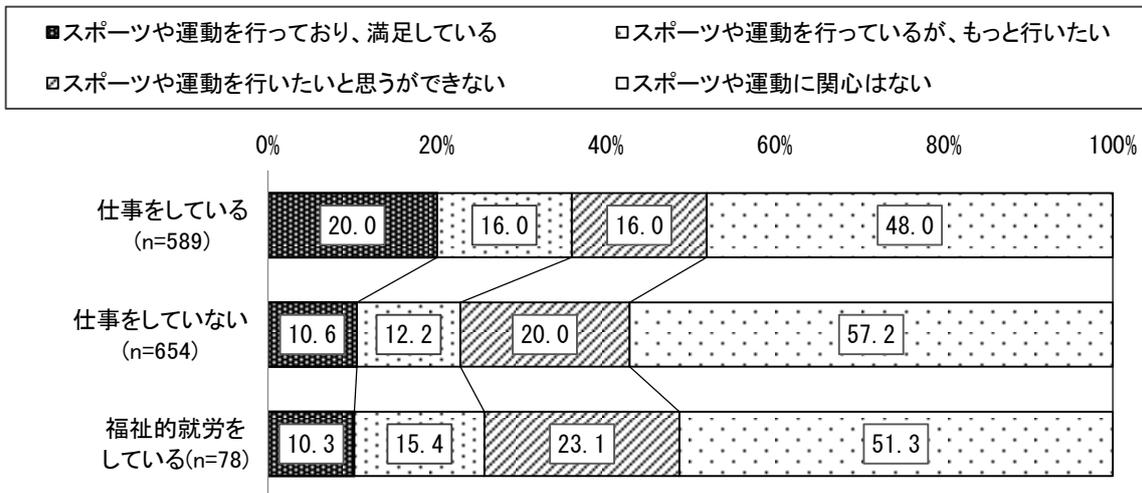
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」では、「スポーツや運動を行っており、満足している」の割合が1割となり(10.1%)、「日常生活で車いすを必要としない」よりも低くなった。【図表 107】

【図表 107】現在のスポーツ・運動への取組(日常生活で車いす必要／不要)



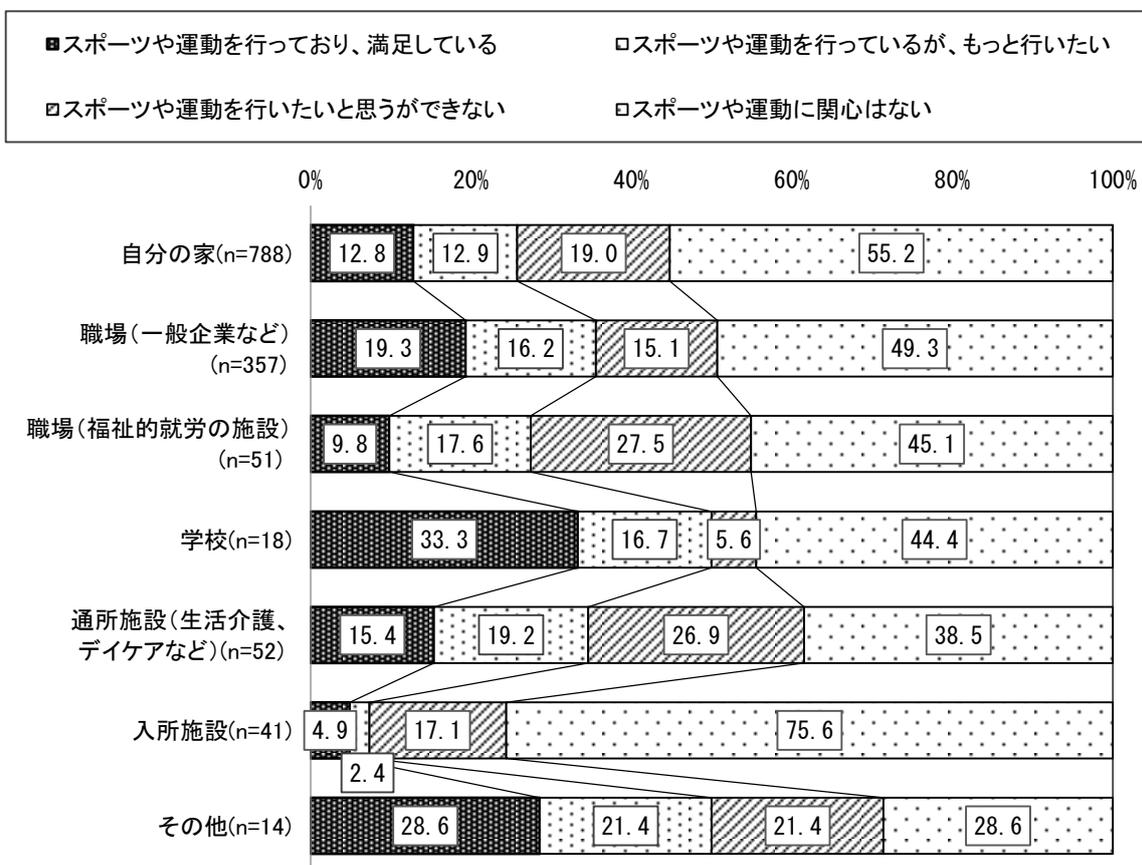
就業状況別にみると、「仕事をしている」は、他の区分と比べて、「スポーツや運動を行っており、満足している」の割合が高く(20.0%)、また、「スポーツや運動に関心はない」の割合も低かった(48.0%)。  
【図表 108】

【図表 108】現在のスポーツ・運動への取組(就業状況別)



平日・日中の居場所別にみると、「入所施設」で「スポーツや運動に関心はない」が7割を超え(75.6%)、「職場(福祉的就労の施設)」と「通所施設(生活介護、デイケアなど)」で「スポーツや運動を行いたいと思うができない」が3割近くとなった(27.5%、26.9%)。【図表 109】

【図表 109】現在のスポーツ・運動への取組(平日・日中の居場所別)

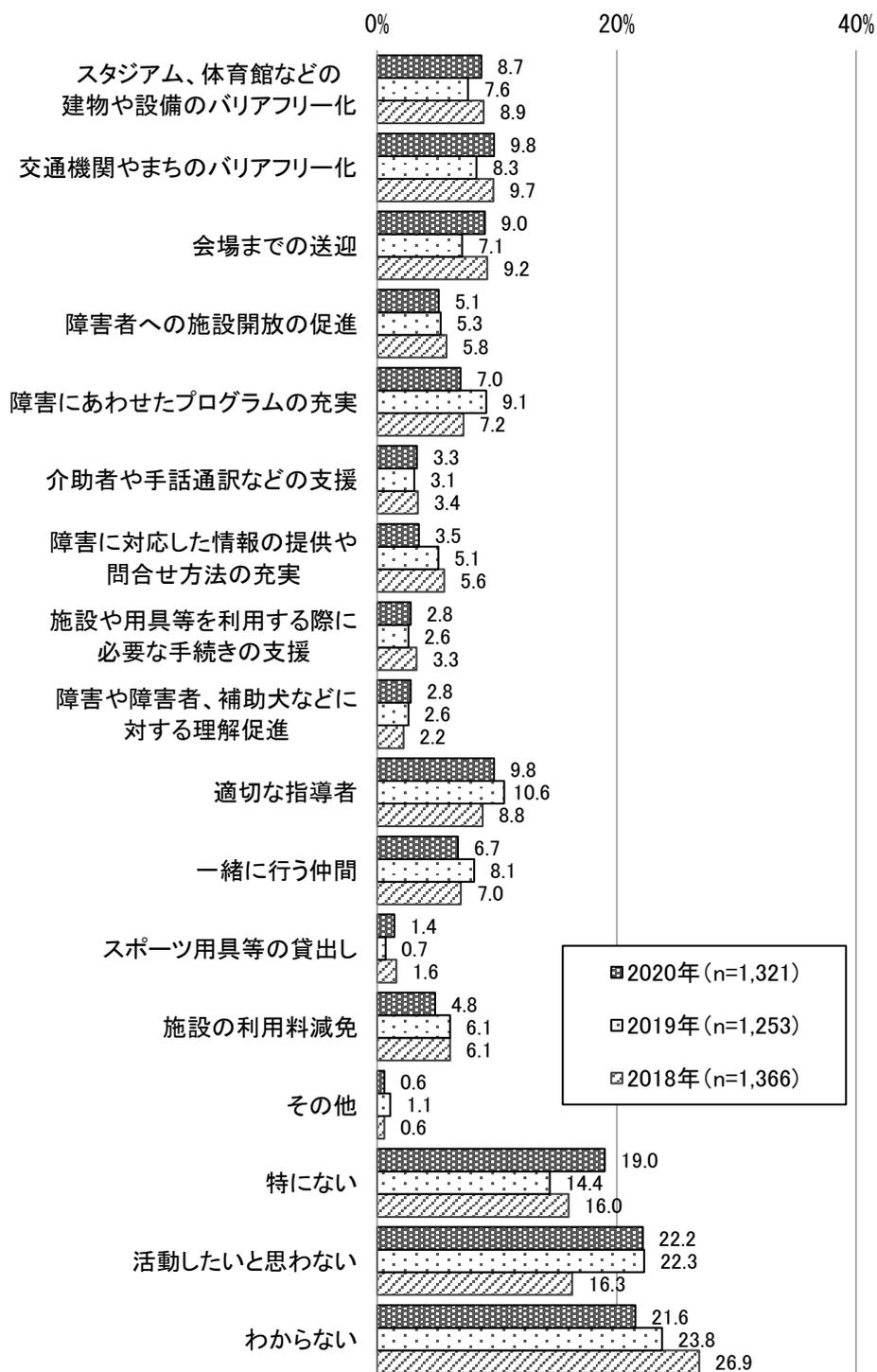


## (10) スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援

スポーツや運動を行う際に必要と考える支援は、「活動したいと思わない」(22.2%)が最も高く、次いで、「わからない」(21.6%)、「特にない」(19.0%)であった。

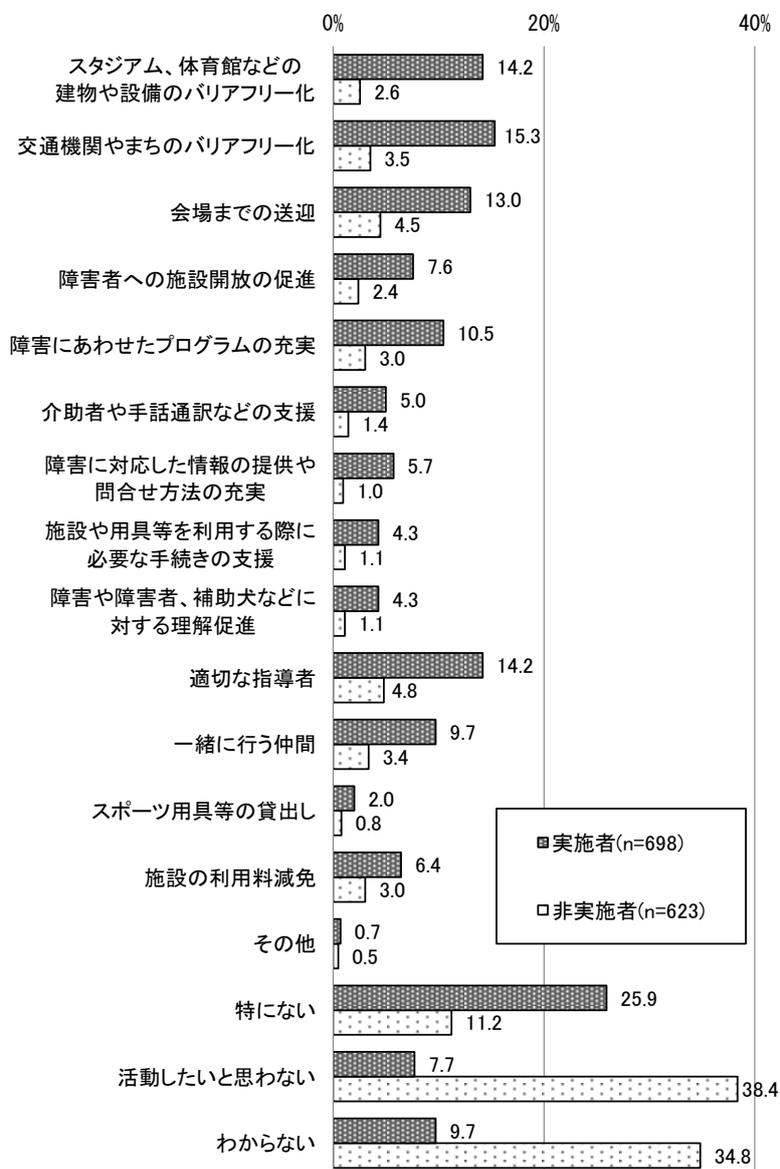
必要な支援があると回答した中では、「交通機関やまちのバリアフリー化」と「適切な指導者」が9.8%で並び、次いで、「会場までの送迎」(9.0%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(8.7%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(7.0%)の順であった。【図表 110】

【図表 110】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援[複数回答]



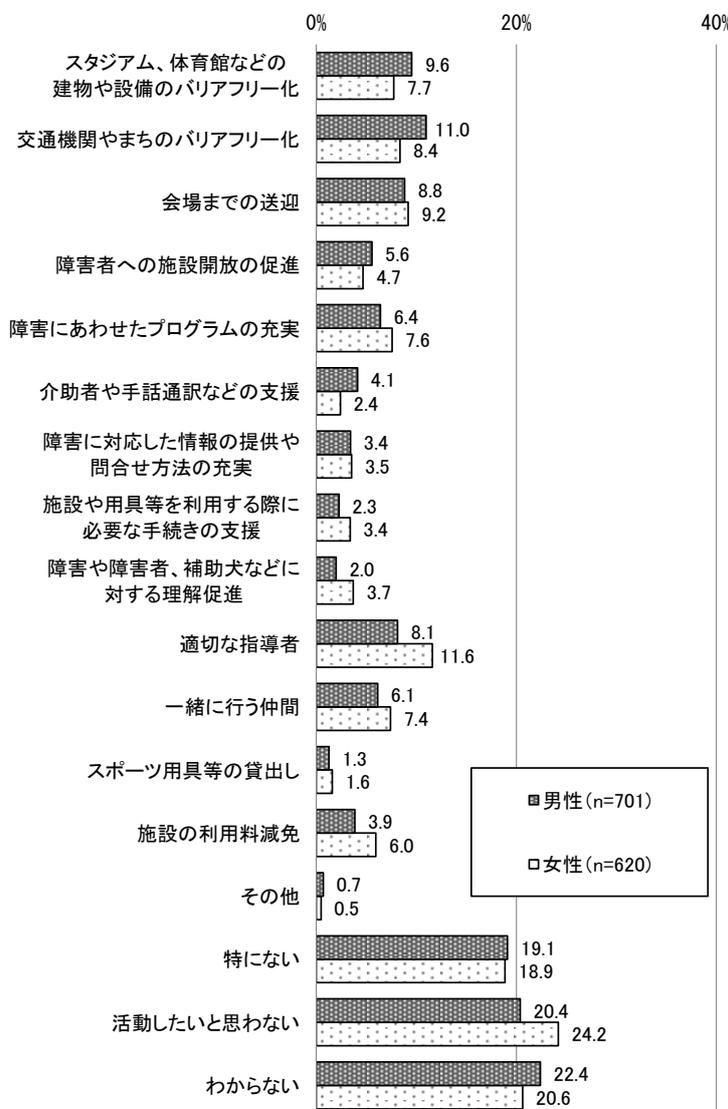
スポーツ・運動の実施の有無別にみると、「実施者」では、「特にない」が最も高く（25.9%）、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」（15.3%）、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」「適切な指導者」（いずれも 14.2%）、「会場までの送迎」（13.0%）の順であった。「非実施者」では「活動したいと思わない」と「わからない」が 3 割を超え（38.4%、34.8%）、必要な支援があると回答した中で、最も高いのは、「適切な指導者」（4.8%）で 5%に満たなかった。【図表 111】

【図表 111】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(スポーツ・運動の実施の有無別)[複数回答]



性別でみると、必要な支援があると回答した中で、男性で最も高いのは「交通機関やまちのバリアフリー化」(11.0%)、次いで「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(9.6%)であったのに対し、女性では「適切な指導者」(11.6%)、「会場までの送迎」(9.2%)の順であった。【図表 112】

【図表 112】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(性別) [複数回答]



障害種別にみると、他の障害と比べて、「音声・言語・そしゃく機能障害」では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」、「会場までの送迎」の割合が高かった（19.0%、19.0%）。また、「肢体不自由」、「知的障害」では「適切な指導者」の割合が高く（15.4%、13.0%）、「肢体不自由」では「適切な指導者」に次いで、「交通機関やまちのバリアフリー化」（12.4%）の順となった。【図表 113】

【図表 113】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(障害種別)[複数回答]

(その1)

(単位:%)

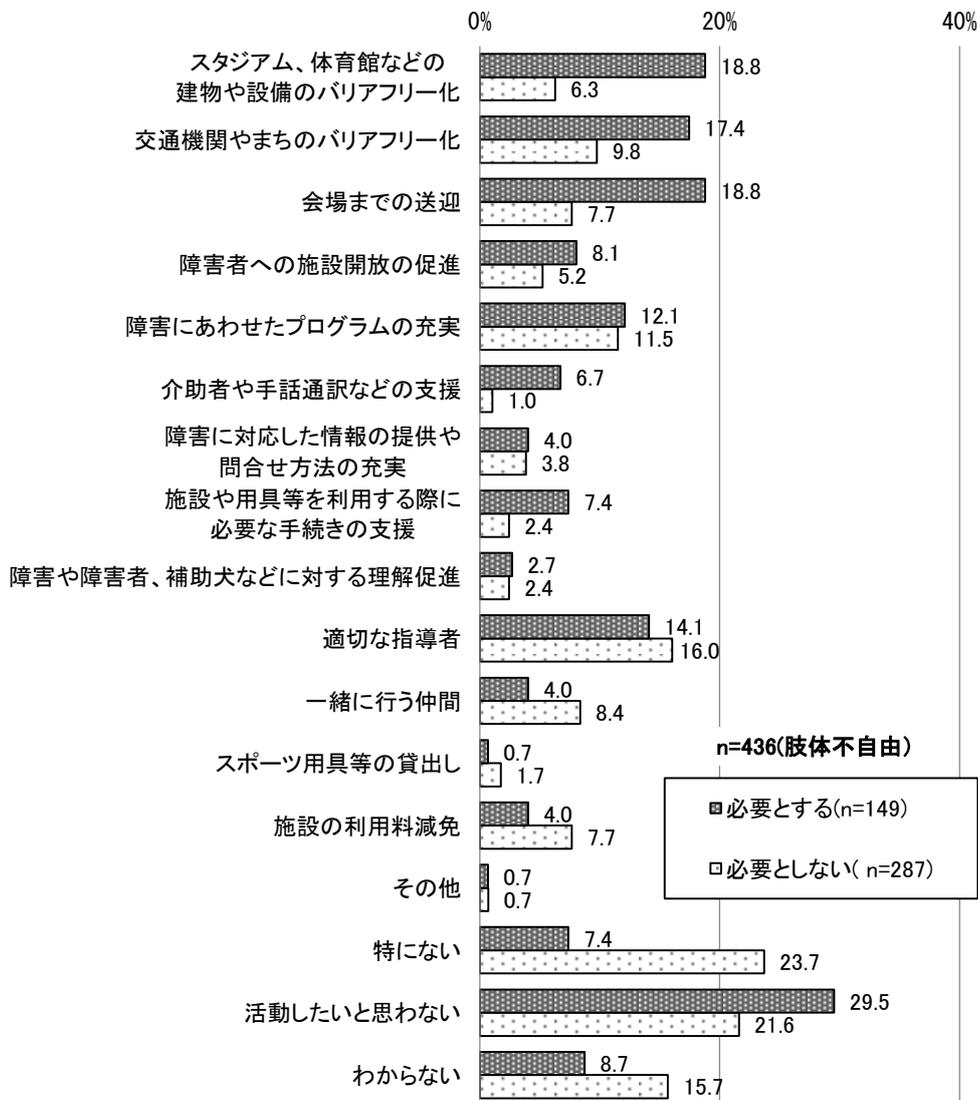
	n	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害者にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害者に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	必要な用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに
視覚障害	159	12.6	8.2	5.0	6.9	4.4	6.3	3.8	3.1	4.4
聴覚・平衡機能障害	139	10.8	12.9	8.6	6.5	5.8	7.2	4.3	2.9	3.6
音声・言語・そしゃく機能障害	58	19.0	12.1	19.0	10.3	8.6	6.9	6.9	12.1	8.6
肢体不自由	436	10.6	12.4	11.5	6.2	11.7	3.0	3.9	4.1	2.5
内部障害	272	6.3	10.3	10.3	4.0	4.4	1.8	1.8	1.1	2.6
知的障害	162	8.0	8.0	9.9	6.2	8.0	3.1	3.7	1.9	2.5
精神障害	269	5.2	6.3	5.9	2.2	4.5	1.5	4.1	0.4	0.4
その他	14	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0

(その2)

	n	適切な指導者	一緒に行う仲間	スポーツ用具等の貸出し	施設の利用料減免	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない
視覚障害	159	4.4	3.8	0.6	3.1	0.0	8.2	28.3	29.6
聴覚・平衡機能障害	139	10.1	5.0	1.4	2.2	0.0	12.9	24.5	18.7
音声・言語・そしゃく機能障害	58	10.3	3.4	3.4	3.4	1.7	12.1	17.2	12.1
肢体不自由	436	15.4	6.9	1.4	6.4	0.7	18.1	24.3	13.3
内部障害	272	7.4	7.7	1.1	4.4	0.4	22.8	22.8	22.1
知的障害	162	13.0	11.7	3.1	4.9	0.0	14.8	25.3	19.8
精神障害	269	7.1	5.6	2.6	5.6	1.9	20.4	27.5	24.9
その他	14	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	42.9	14.3	28.6

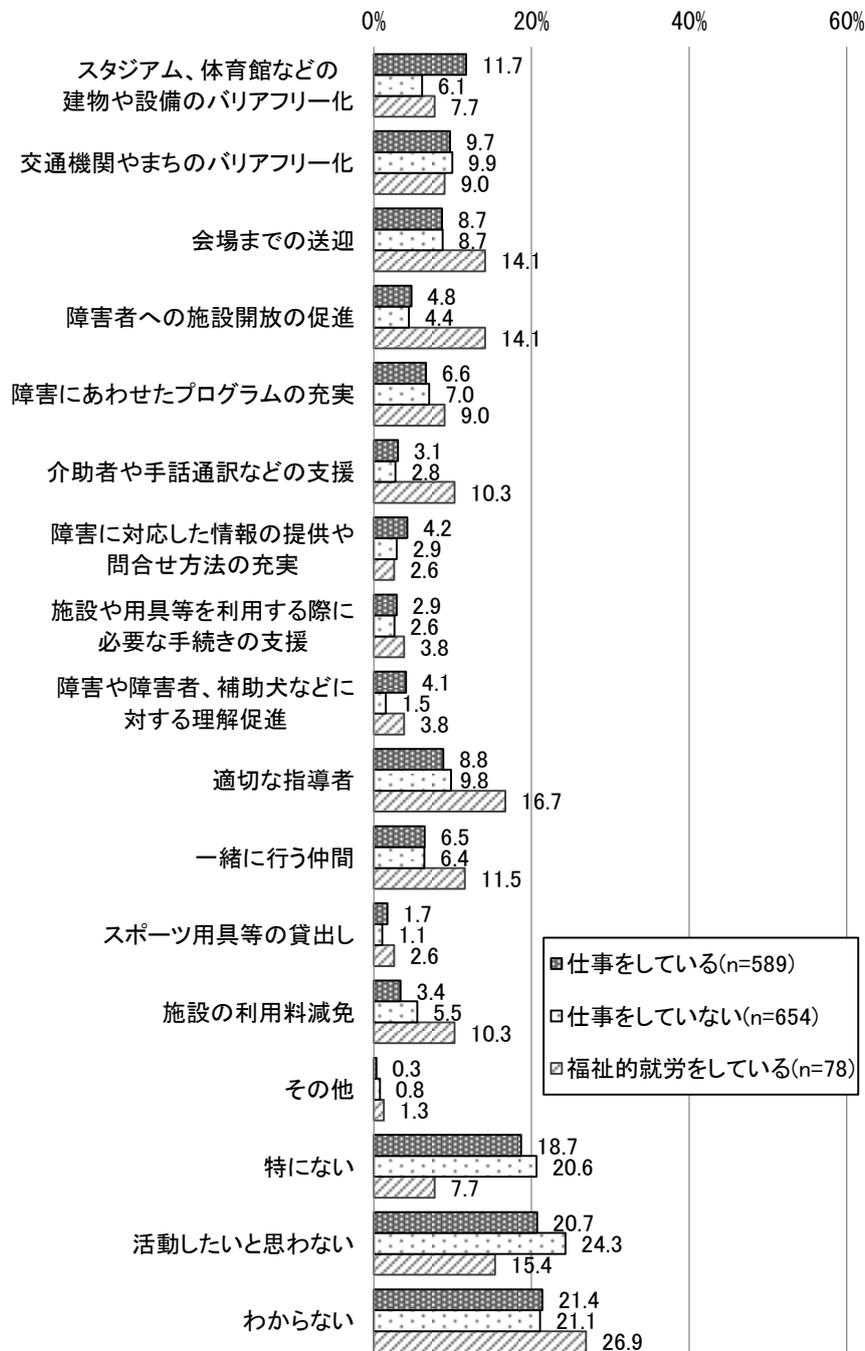
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」、「会場までの送迎」が最も高く（いずれも18.8%）、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」（17.4%）の順であった。「日常生活で車いすを必要としない」では、「適切な指導者」（16.0%）、「障害にあわせたプログラムの充実」（11.5%）、「交通機関やまちのバリアフリー化」（9.8%）の順であった。【図表 114】

【図表 114】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援（日常生活で車いす必要／不要）[複数回答]



就業状況別にみると、「仕事をしている」では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(11.7%)が最も高く、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」(9.7%)であった。「仕事をしていない」では、「交通機関やまちのバリアフリー化」(9.9%)が最も高く、次いで「適切な指導者」(9.8%)であった。「福祉的就労をしている」では「適切な指導者」(16.7%)が最も高く、次いで「会場までの送迎」と「障害者への施設開放の促進」が同じ割合であった(ともに14.1%)。【図表 115】

【図表 115】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(就業状況別)[複数回答]



平日・日中の居場所別にみると、必要な支援があると回答した中では、「職場（福祉的就労の施設）」で「適切な指導者」（21.6%）、「一緒に行く仲間」（15.7%）の順となった。また、「通所施設（生活介護、デイケアなど）」では「会場までの送迎」（25.0%）、「障害者への施設開放の促進」（17.3%）の順となった。「自分の家」では、「交通機関やまちのバリアフリー化」が最も高く（10.8%）、「職場（一般企業など）」では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」が最も高かった（10.4%）。  
【図表 116】

【図表 116】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(平日・日中の居場所別)[複数回答]

(その1)

(単位:%)

	n	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	必要な用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進
自分の家	788	7.6	10.8	9.4	4.6	6.5	2.9	3.2	3.2	1.9
職場(一般企業など)	357	10.4	8.4	6.7	3.9	7.6	2.5	4.2	2.0	3.6
職場(福祉的就労の施設)	51	11.8	7.8	9.8	11.8	9.8	7.8	3.9	0.0	5.9
学校	18	16.7	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6
通所施設(生活介護、デイケアなど)	52	11.5	13.5	25.0	17.3	13.5	11.5	1.9	3.8	5.8
入所施設	41	7.3	0.0	4.9	2.4	0.0	0.0	4.9	4.9	4.9
その他	14	0.0	7.1	7.1	0.0	14.3	14.3	0.0	7.1	0.0

(その2)

	n	適切な指導者	一緒に行く仲間	スポーツ用具等の貸出し	施設の利用料減免	その他	特になし	活動したいと思わない	わからない
自分の家	788	9.1	6.2	1.5	5.3	0.6	18.9	23.2	21.7
職場(一般企業など)	357	8.7	6.7	1.4	3.6	0.6	21.8	23.2	19.0
職場(福祉的就労の施設)	51	21.6	15.7	3.9	9.8	0.0	7.8	13.7	21.6
学校	18	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	33.3	16.7	27.8
通所施設(生活介護、デイケアなど)	52	15.4	7.7	0.0	1.9	0.0	15.4	17.3	9.6
入所施設	41	9.8	4.9	0.0	2.4	0.0	7.3	17.1	51.2
その他	14	14.3	14.3	0.0	7.1	7.1	21.4	7.1	28.6

スポーツ・運動への取組別にみると、「スポーツや運動を行っており、満足している」人が必要と考える支援の上位5つは、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(25.6%)、「会場までの送迎」(15.4%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(14.4%)、「適切な指導者」(12.8%)「一緒に行く仲間」(6.7%)であった。

「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」人が必要と考える支援の上位5つは、「交通機関やまちのバリアフリー化」(23.1%)、「適切な指導者」(20.4%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(19.4%)、「会場までの送迎」(15.1%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(13.4%)であった。

「スポーツや運動を行いたいと思うができない」人が必要と考える支援の上位5つは、「適切な指導者」(18.5%)、「会場までの送迎」(17.3%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(14.0%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」「障害にあわせたプログラムの充実」「一緒に行く仲間」(13.2%で3つが並ぶ)であった。

なお、「スポーツや運動に関心はない」人は、「活動したいと思わない」が38.5%、「わからない」が34.0%であった。【図表 117】

【図表 117】スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援(スポーツ・運動への取組別)[複数回答]

(その1) (単位:%)

	n	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	障害や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進
スポーツや運動を行っており、満足している	195	25.6	14.4	15.4	5.6	5.6	5.6	4.6	4.6	3.6
スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい	186	13.4	23.1	15.1	11.3	19.4	7.5	7.5	3.8	4.8
スポーツや運動を行いたいと思うができない	243	13.2	14.0	17.3	8.6	13.2	4.1	6.2	5.3	3.7
スポーツや運動に関心はない	697	1.1	3.4	2.7	2.2	1.9	1.3	1.1	1.1	1.7

(その2)

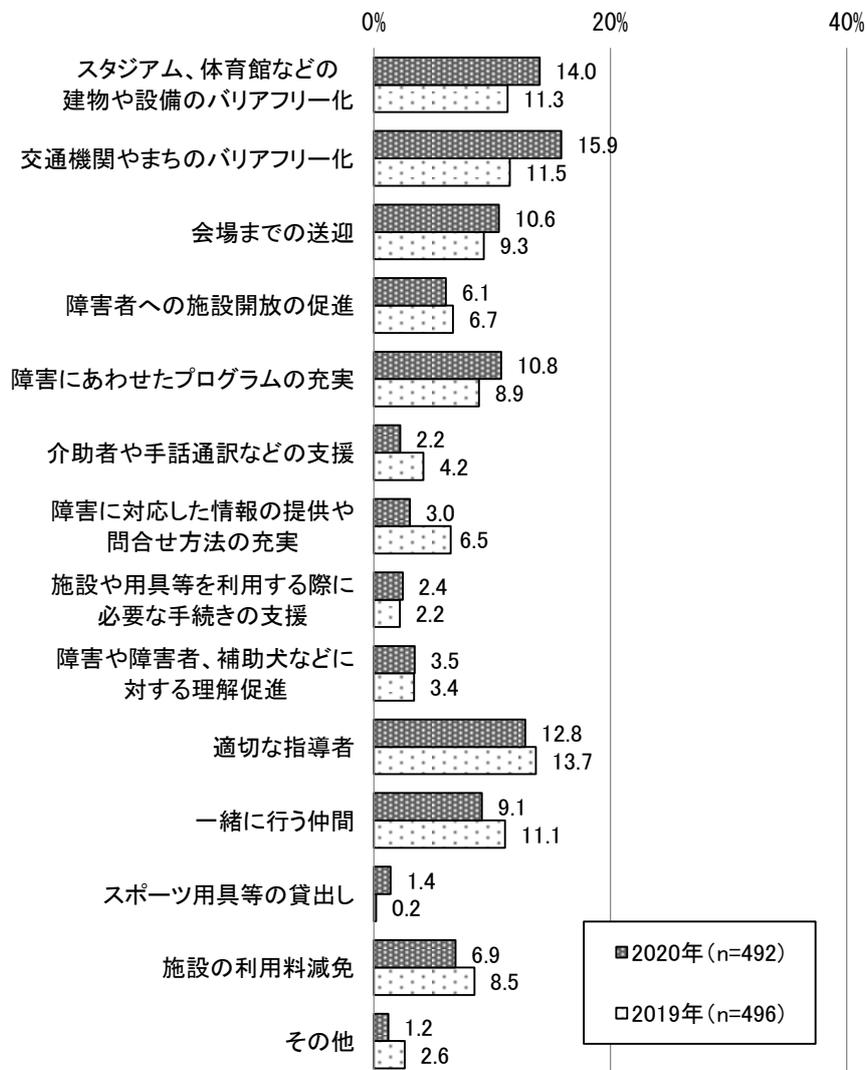
	n	適切な指導者	一緒に行く仲間	スポーツ用具等の貸出し	施設の利用料減免	その他	特になし	活動したいと思わない	わからない
スポーツや運動を行っており、満足している	195	12.8	6.7	1.5	4.6	1.5	33.3	3.1	7.7
スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい	186	20.4	12.4	2.2	7.5	0.5	16.7	3.2	4.3
スポーツや運動を行いたいと思うができない	243	18.5	13.2	2.9	8.2	0.8	24.3	5.3	10.3
スポーツや運動に関心はない	697	3.0	3.0	0.7	3.0	0.3	13.8	38.5	34.0

### (11) スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援

スポーツや運動を行う際に最も必要と考える支援は、「交通機関やまちのバリアフリー化」(15.9%)が最も高く、次いで、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(14.0%)、「適切な指導者」(12.8%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(10.8%)、「会場までの送迎」(10.6%)であった。

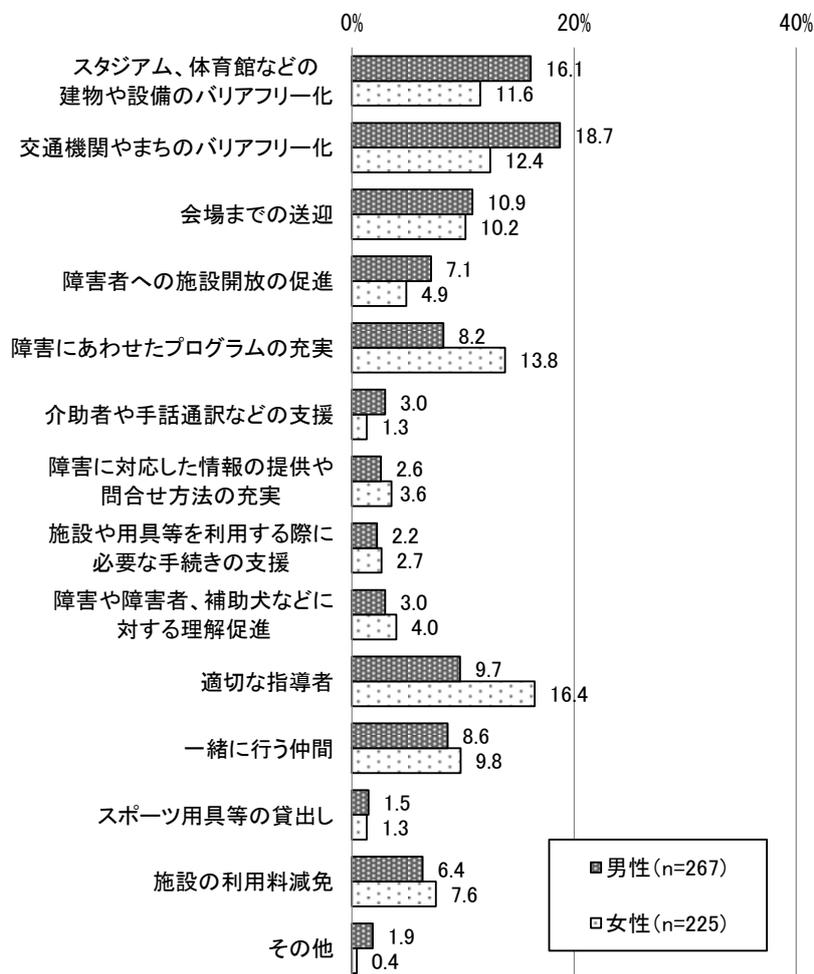
【図表 118】

【図表 118】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援



性別でみると、スポーツや運動を行う際に最も必要と考える支援は、男性では「交通機関やまちのバリアフリー化」が最も高く（18.7%）、次いで「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」（16.1%）であったのに対し、女性では「適切な指導者」（16.4%）、「障害にあわせたプログラムの充実」（13.8%）の順であった。【図表 119】

【図表 119】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援(性別)



障害種別にみると、「視覚障害」、「音声・言語・そしゃく機能障害」では「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」の割合が高く（27.8%、23.5%）、「内部障害」、「聴覚・平衡機能障害」では「交通機関やまちのバリアフリー化」が高かった（22.7%、19.7%）。また、「知的障害」、「精神障害」、「肢体不自由」では「適切な指導者」の割合が高かった（20.0%、17.8%、15.0%）。【図表 120】

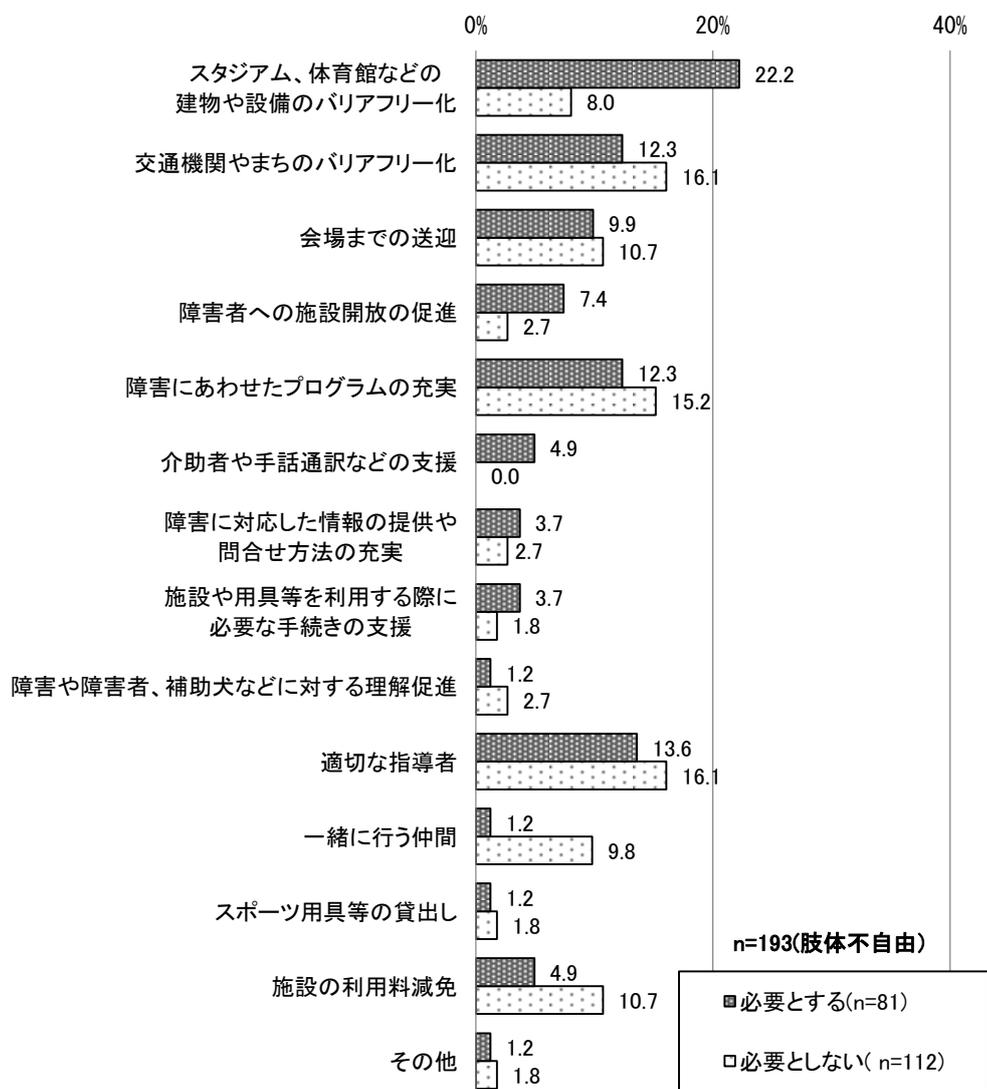
【図表 120】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援(障害種別)

(単位: %)

	n	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進	適切な指導者	一緒に行う仲間	スポーツ用具等の貸出し	施設の利用料減免	その他
視覚障害	54	27.8	18.5	7.4	9.3	5.6	5.6	3.7	1.9	5.6	7.4	5.6	0.0	1.9	0.0
聴覚・平衡機能障害	61	18.0	19.7	9.8	6.6	9.8	6.6	3.3	0.0	1.6	11.5	8.2	1.6	3.3	0.0
音声・言語・そしゃく機能障害	34	23.5	8.8	11.8	5.9	5.9	0.0	2.9	11.8	8.8	8.8	2.9	0.0	5.9	2.9
肢体不自由	193	14.0	14.5	10.4	4.7	14.0	2.1	3.1	2.6	2.1	15.0	6.2	1.6	8.3	1.6
内部障害	88	9.1	22.7	11.4	5.7	10.2	0.0	3.4	2.3	4.5	12.5	11.4	0.0	6.8	0.0
知的障害	65	10.8	10.8	10.8	7.7	10.8	0.0	3.1	1.5	3.1	20.0	15.4	3.1	3.1	0.0
精神障害	73	9.6	13.7	8.2	6.8	9.6	1.4	2.7	1.4	1.4	17.8	11.0	1.4	11.0	4.1
その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0

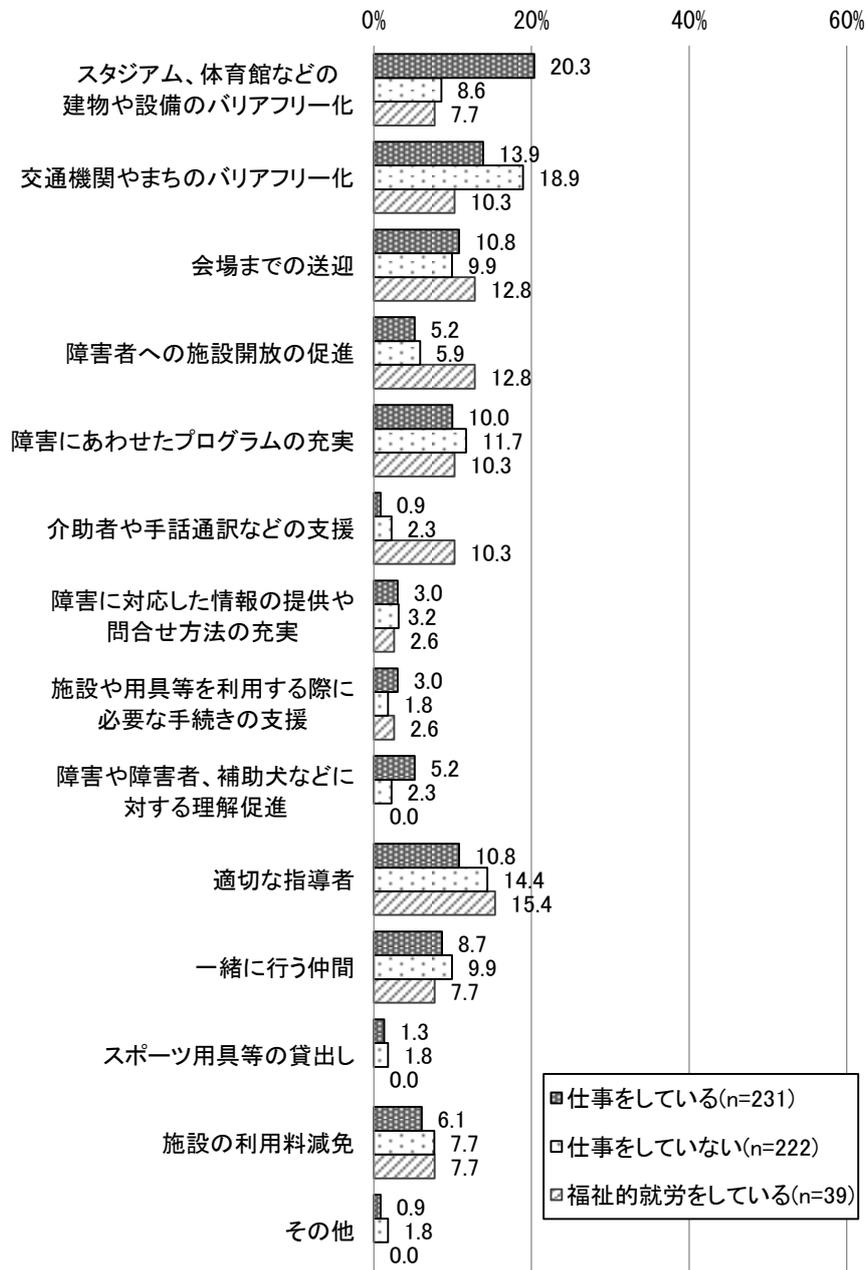
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「日常生活で車いすを必要とする」では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」が最も高く（22.2%）、次いで「適切な指導者」（13.6%）、「交通機関やまちのバリアフリー化」「障害にあわせたプログラムの充実」（いずれも 12.3%）の順であった。「日常生活で車いすを必要としない」では、「交通機関やまちのバリアフリー化」と「適切な指導者」が最も高く（いずれも 16.1%）、次いで「障害にあわせたプログラムの充実」（15.2%）の順であった。【図表 121】

【図表 121】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援(日常生活で車いす必要／不要)



就業状況別にみると、「仕事をしている」では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(20.3%)が最も高く、次いで「交通機関やまちのバリアフリー化」(13.9%)であった。「仕事をしていない」では、「交通機関やまちのバリアフリー化」(18.9%)が最も高く、次いで「適切な指導者」(14.4%)であった。「福祉的就労をしている」では「適切な指導者」(15.4%)が最も高く、次いで「会場までの送迎」(12.8%)と「障害者への施設開放の促進」(いずれも 12.8%)であった。【図表 122】

【図表 122】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援(就業状況別)



平日・日中の居場所別にみると、「職場（福祉的就労の施設）」で「適切な指導者」（24.1%）、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」（17.2%）の順となった。また、「通所施設（生活介護、デイケアなど）」では「障害にあわせたプログラムの充実」（16.7%）、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」「交通機関やまちのバリアフリー化」「会場までの送迎」「障害者への施設開放の促進」（いずれも 13.3%）の順となった。「自分の家」では、「交通機関やまちのバリアフリー化」が最も高く（18.2%）、「職場（一般企業など）」では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」が最も高かった（18.0%）。【図表 123】

【図表 123】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援（平日・日中の居場所別）

（単位：%）

	n	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	障害者への施設開放の促進	介助者や手話通訳などの支援	障害者への施設開放の促進											
自分の家	285	12.3	18.2	11.6	5.6	9.1	2.8	2.5	2.1	2.8	12.3	10.5	1.4	7.7	1.1					
職場 （一般企業など）	128	18.0	14.1	9.4	3.9	14.8	0.0	3.9	2.3	3.9	11.7	7.8	1.6	7.0	1.6					
職場 （福祉的就労の施設）	29	17.2	10.3	6.9	6.9	10.3	0.0	6.9	0.0	3.4	24.1	6.9	3.4	3.4	0.0					
学校	4	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0					
通所施設 （生活介護、デイケアなど）	30	13.3	13.3	13.3	13.3	16.7	10.0	0.0	3.3	6.7	6.7	3.3	0.0	0.0	0.0					
入所施設	10	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	10.0	20.0	10.0	20.0	10.0	0.0	10.0	0.0					
その他	6	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7					

スポーツ・運動への取組別にみると、「スポーツや運動を行っており、満足している」人が最も必要と考える支援の上位5つは、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(36.7%)、「会場までの送迎」(14.7%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(10.1%)、「適切な指導者」(10.1%)、「一緒に行く仲間」(7.3%)であった。

「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」人が最も必要と考える支援の上位5つは、「交通機関やまちのバリアフリー化」(20.6%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(15.6%)、「適切な指導者」(13.5%)、「施設の利用料減免」(7.8%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(7.1%)、「障害者への施設開放の促進」(7.1%)であった。

「スポーツや運動を行いたいと思うができない」人が最も必要と考える支援の上位5つは、「適切な指導者」(15.8%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(14.4%)、「会場までの送迎」(13.7%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(12.3%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(11.0%)、「一緒に行く仲間」(ともに11.0%)であった。

「スポーツや運動に関心はない」人が最も必要と考える支援の上位5つは、「交通機関やまちのバリアフリー化」(17.7%)、「一緒に行く仲間」(12.5%)、「施設の利用料減免」(ともに12.5%)、「適切な指導者」(10.4%)、「会場までの送迎」(8.3%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(ともに8.3%)であった。【図表 124】

【図表 124】スポーツ・運動を行う際に最も必要と考える支援(スポーツ・運動への取組別)

(単位:%)

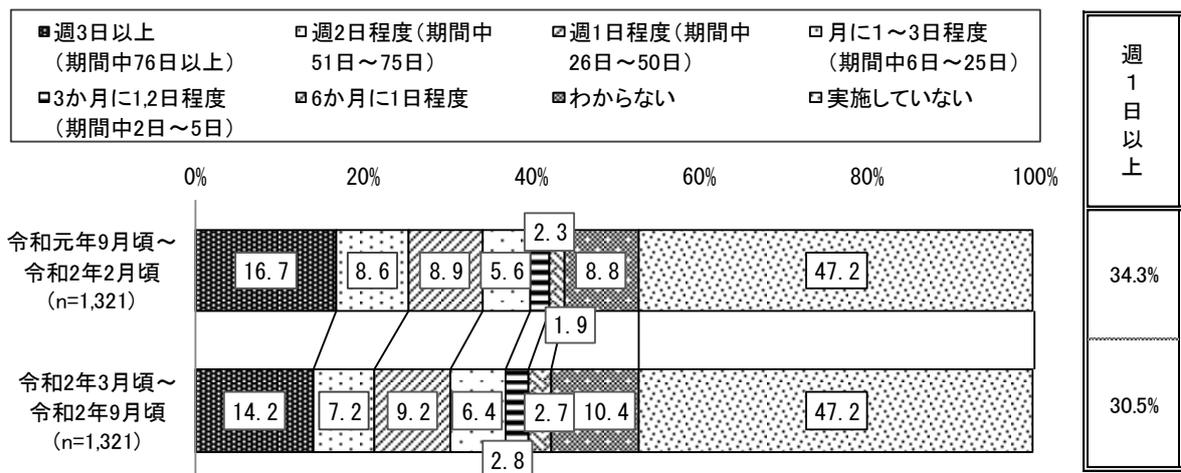
	n	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害者に対する情報の提供や問合せ方法の充実	障害に配慮した情報の提供や問合せ方法の充実	必要な手続きの支援	施設や用具等を利用する際に必要な手続の支援	障害や障害者、補助犬などに対する理解促進	適切な指導者	一緒に行く仲間	スポーツ用具等の貸出し	施設の利用料減免	その他
スポーツや運動を行っており、満足している	109	36.7	10.1	14.7	6.4	4.6	0.9	0.9	0.9	1.8	10.1	7.3	0.0	2.8	2.8		
スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい	141	7.1	20.6	5.7	7.1	15.6	3.5	4.3	2.1	3.5	13.5	6.4	2.1	7.8	0.7		
スポーツや運動を行いたいと思うができない	146	11.0	14.4	13.7	4.1	12.3	0.7	3.4	4.1	2.1	15.8	11.0	1.4	5.5	0.7		
スポーツや運動に関心はない	96	3.1	17.7	8.3	7.3	8.3	4.2	3.1	2.1	7.3	10.4	12.5	2.1	12.5	1.0		

## 2.4 新型コロナウイルス感染症による影響

### (1) 影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数

今回本調査では、新型コロナウイルス感染症による影響を受ける前の期間（令和元年9月頃～令和2年2月頃、以下「対象期間前期」と記す）及び新型コロナウイルス感染症による影響を受けた期間（令和2年3月頃～令和2年9月頃、以下「対象期間後期」と記す）を設定して質問を行った。各期間におけるスポーツや運動を実施した日数についてみると、対象期間前期では「週3日以上」が16.7%、「週2日程度」が8.6%、「週1日程度」が8.9%で、対象期間後期では「週3日以上」が14.2%、「週2日程度」が7.2%、「週1日程度」が9.2%となった。週1日以上の実施者は前期34.3%、後期30.5%となり、3.8ポイントの減となった。【図表 125】

【図表 125】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数



性別でみると、「週1日以上」は、男性で対象期間前期（36.1%）、対象期間後期（32.7%）で3.4ポイント減となり、女性で対象期間前期（32.3%）、対象期間後期（28.1%）で4.2ポイント減となった。

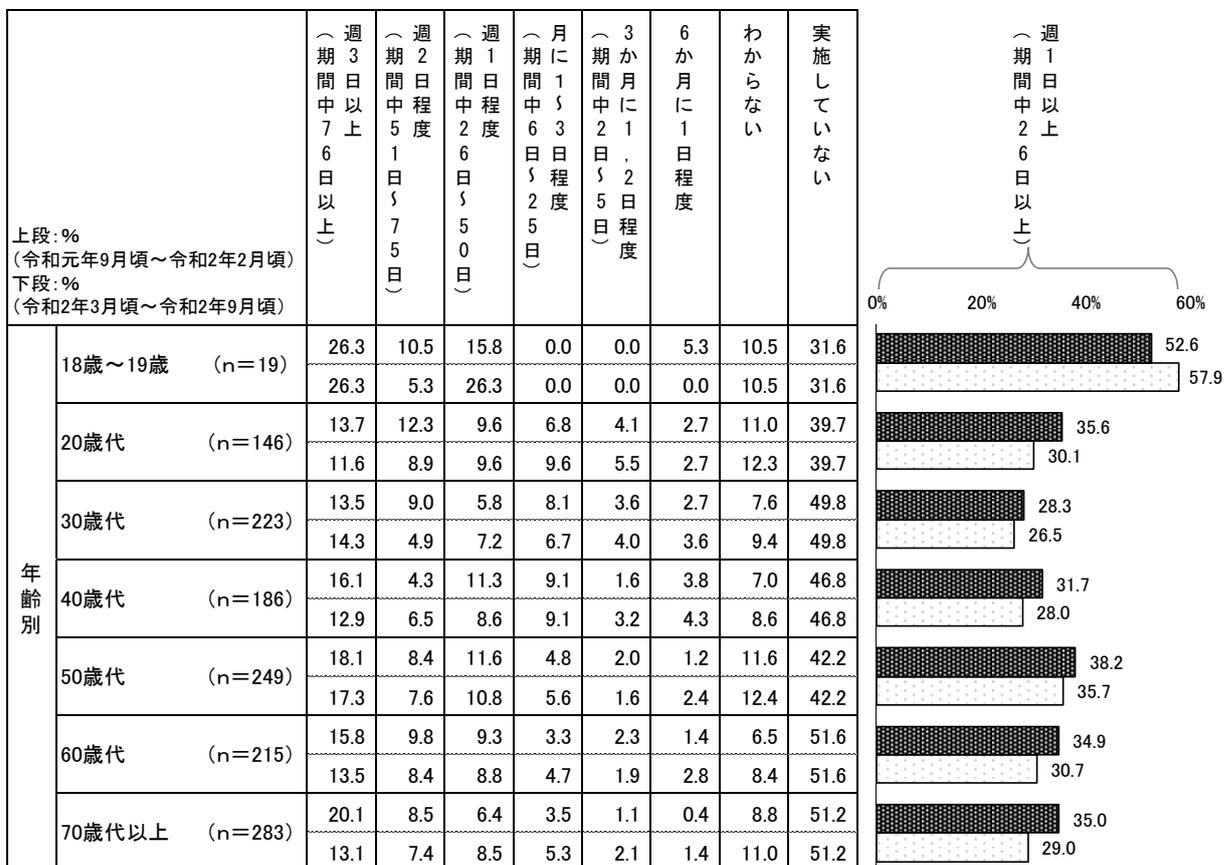
【図表 126】

【図表 126】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数(性別)



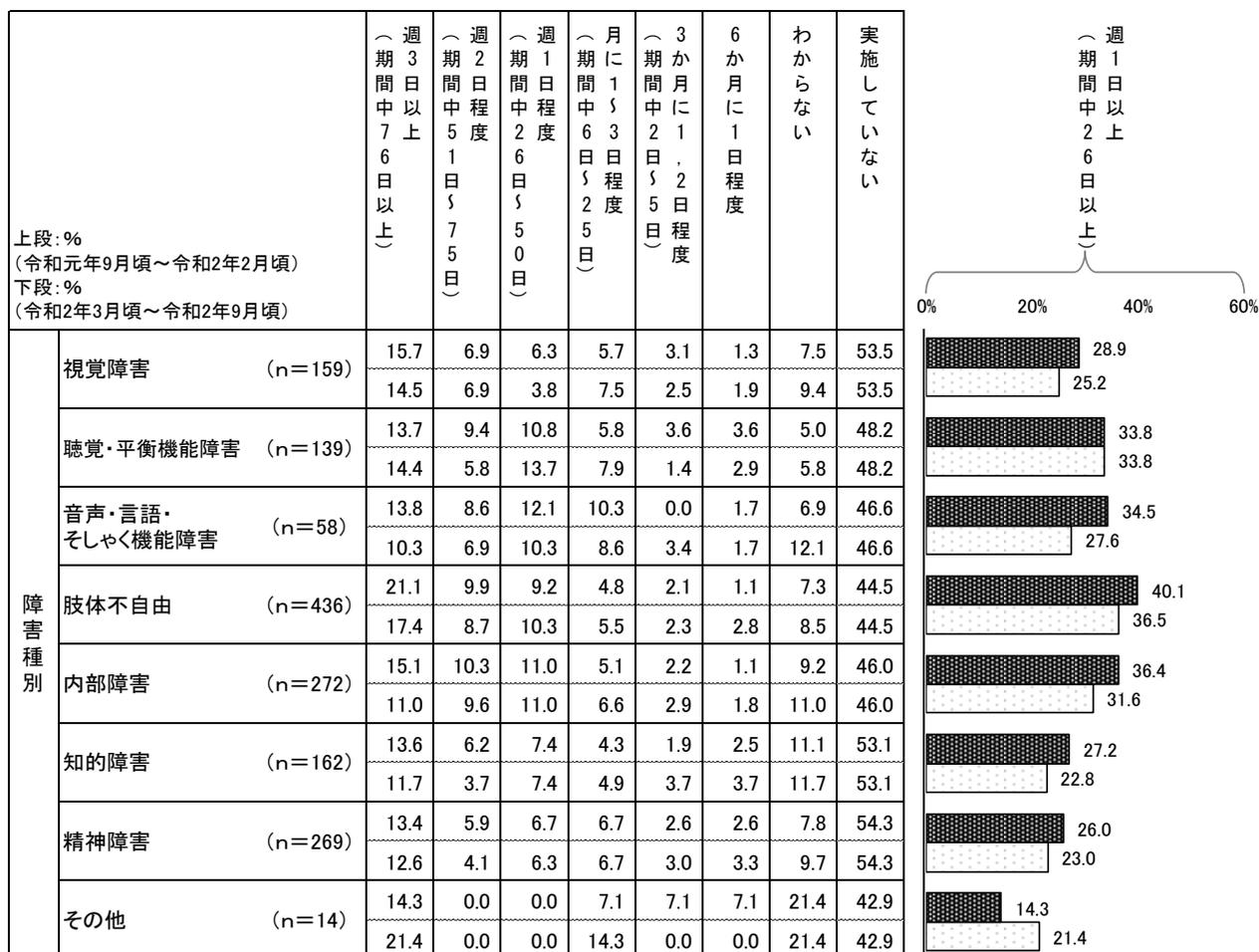
年齢別で見ると、「週1日以上」の実施者の割合は、対象期間前期と対象期間後期とで、「20歳代」と「70歳代」において変化が大きく、それぞれ5.5ポイント、6.0ポイントの減となった。【図表127】

【図表127】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数(年齢別)



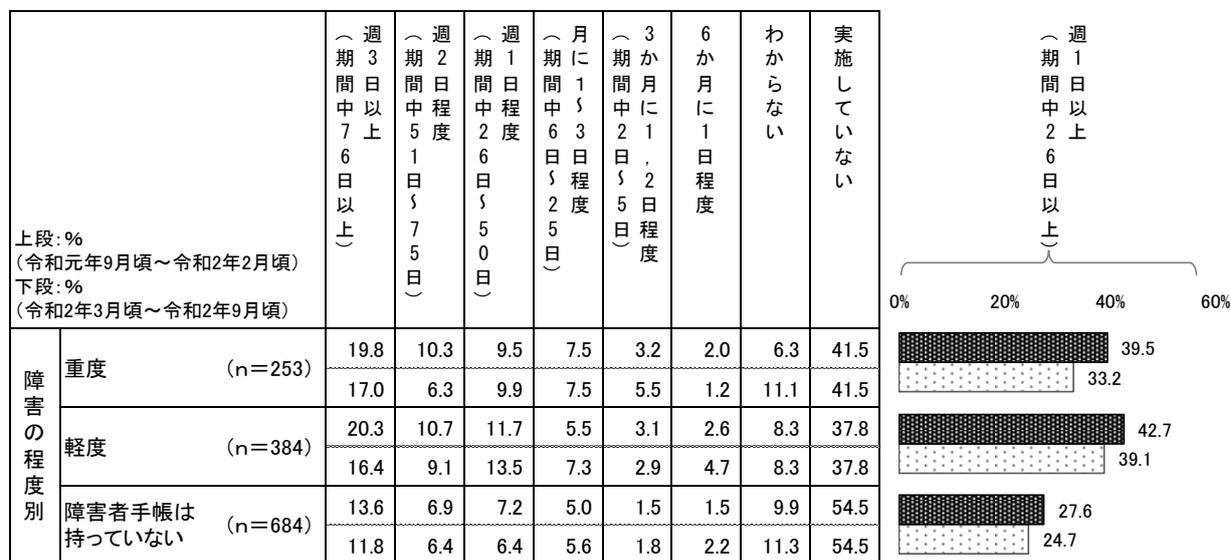
障害種別にみると、「週1日以上」の実施者の割合は、対象期間前期と対象期間後期とで、他の障害より「音声・言語・そしゃく機能障害」で変化が大きく、6.9ポイントの減となった。【図表 128】

【図表 128】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数(障害種別)



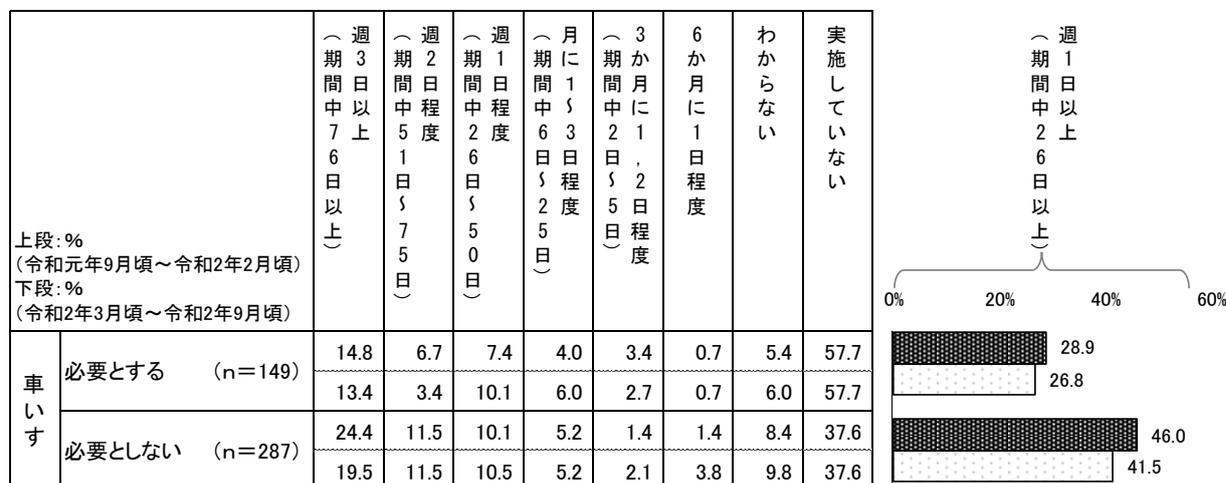
障害の程度別にみると、「週 1 日以上」の実施者の割合は、「重度」で変化が大きく、対象期間前期（39.5%）、対象期間後期（33.2%）で 6.3 ポイントの減となった。【図表 129】

【図表 129】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数(障害の程度別)



日常生活で車いす必要／不要別にみると、「週 1 日以上」の実施者の割合は、「日常生活で車いすを必要としない」が「日常生活で車いすを必要とする」より変化が大きく、対象期間前期（46.0%）、対象期間後期（41.5%）で 4.5 ポイントの減となった。【図表 130】

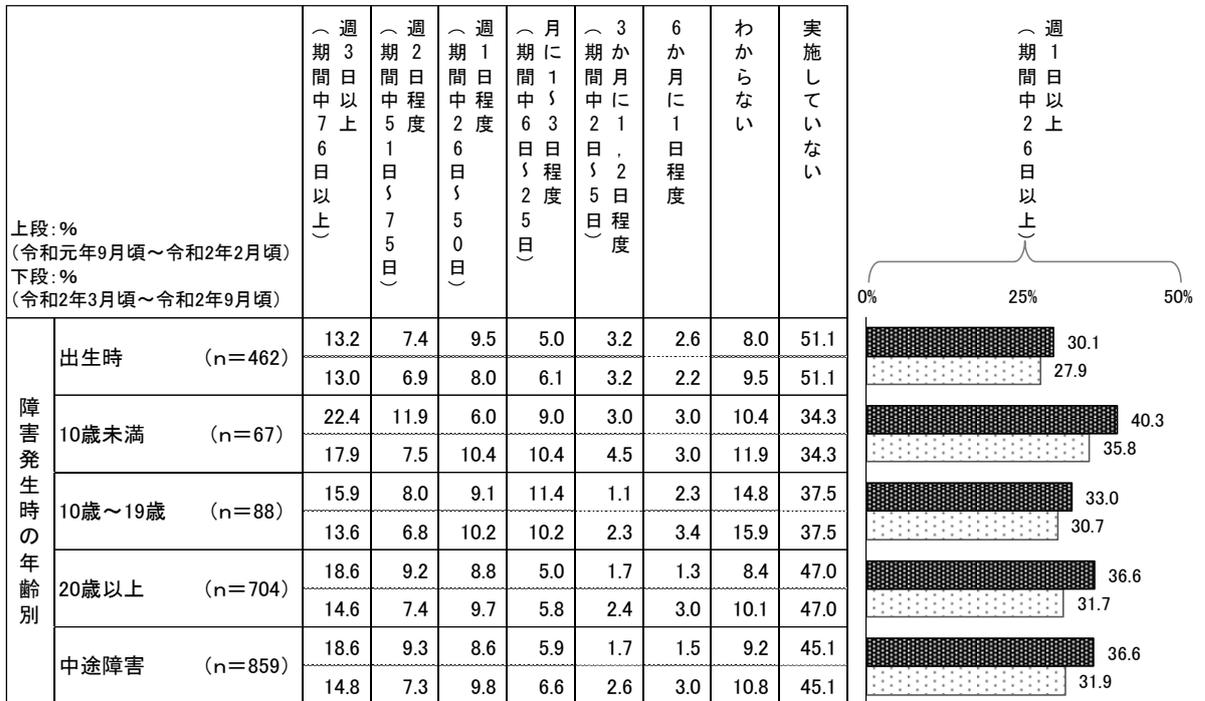
【図表 130】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数(日常生活で車いす必要／不必要)



※ n=436(肢体不自由)

障害発生時の年齢別でみると、「週1日以上」の実施者の割合は、「出生時」よりも「中途障害」の方が変化が大きく、対象期間前期（36.6%）と対象期間後期（31.9%）とで4.7ポイントの減となった。【図表 131】

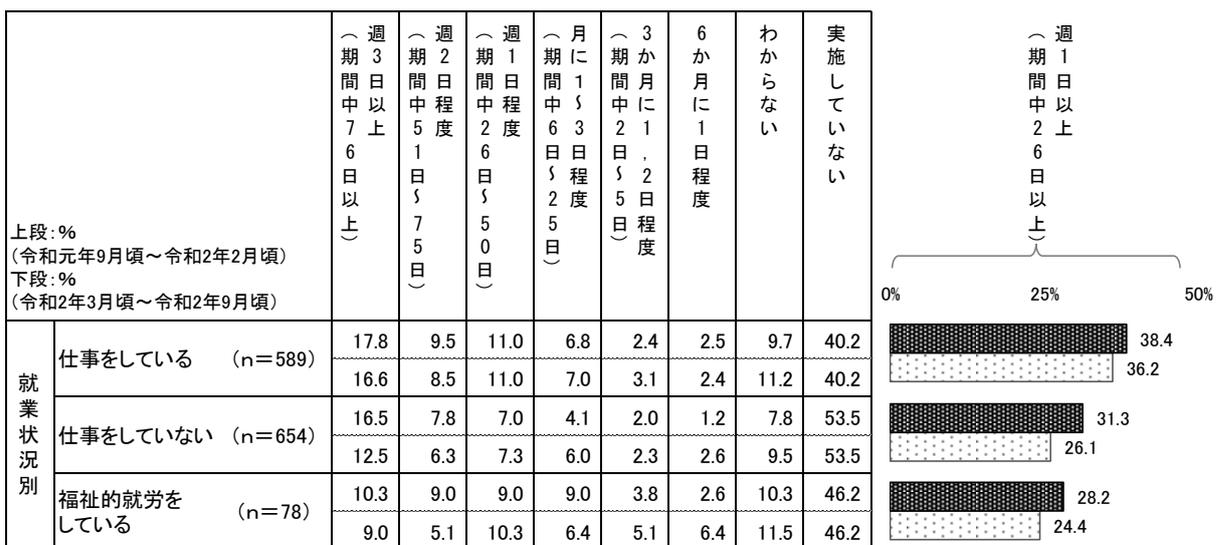
【図表 131】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数(障害発生時の年齢別)



※「中途障害」は「10歳未満」、「10歳～19歳」、「20歳以上」の総和です。

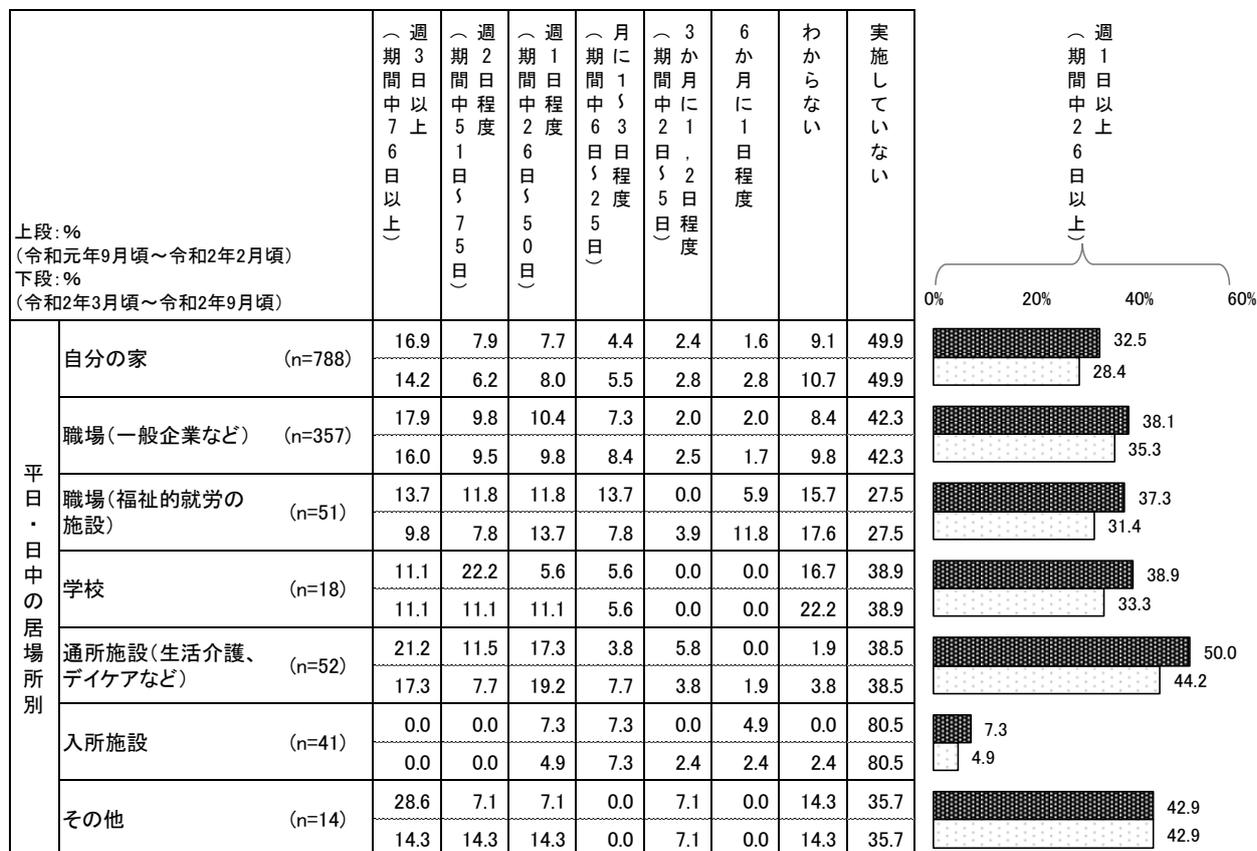
就業状況別にみると、「週1日以上」の実施者の割合は、「仕事をしていない」で変化が大きく対象期間前期（31.3%）、対象期間後期（26.1%）で5.2ポイントの減となった。【図表 132】

【図表 132】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数(就業状況別)



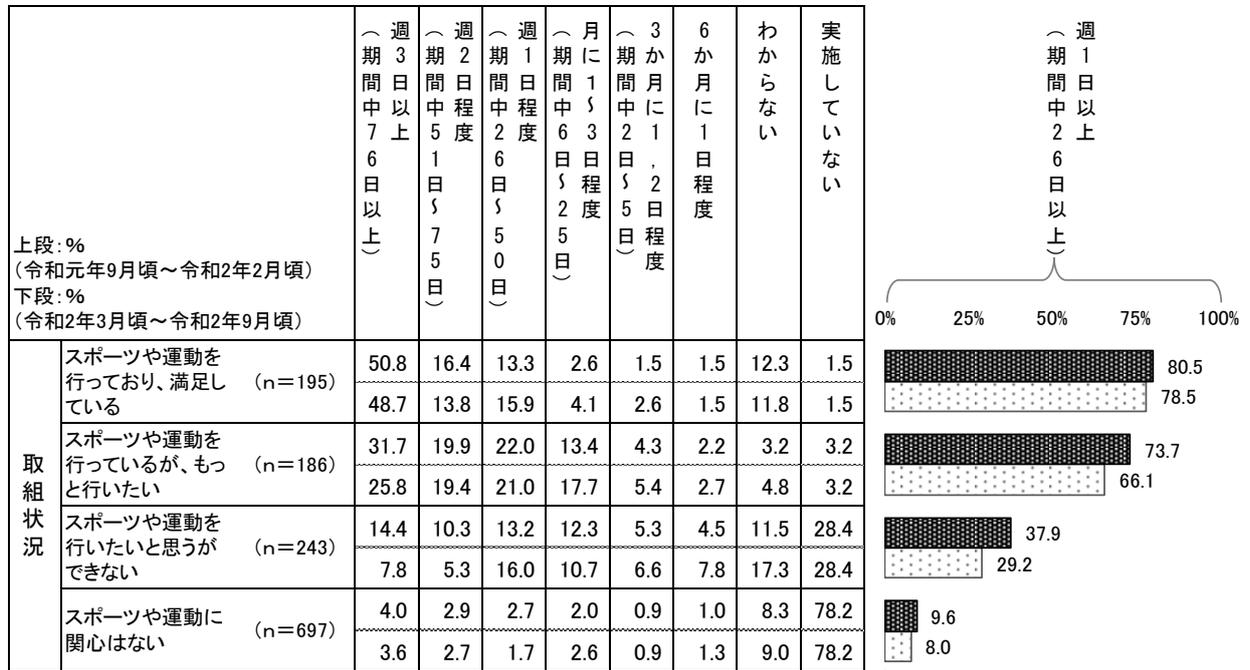
平日・日中の居場所別にみると、「週1日以上」の実施者の割合は、「職場（福祉的就労の施設）」と「通所施設（生活介護、デイケアなど）」とで変化が大きく、それぞれ 5.9 ポイント、5.8 ポイントの減となった。【図表 133】

【図表 133】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数(平日・日中の居場所別)



スポーツ・運動への取組別にみると、「週1日以上」の実施者の割合は、「スポーツや運動を行っており、満足している」では2.0ポイント減と変化が小さく、一方で、「スポーツや運動を行いたいと思えない」では8.7ポイントの減となった。【図表 134】

【図表 134】影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数(スポーツ・運動への取組別)



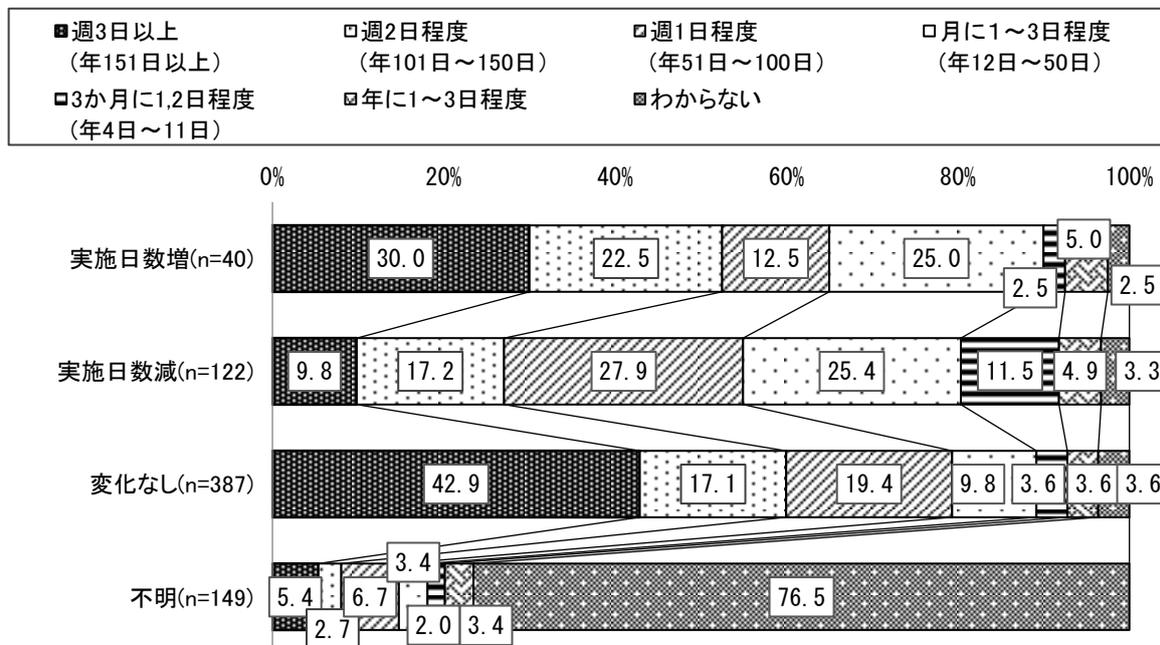
## (2) 影響を受ける前後の期間にスポーツ・運動を行った日数（種目別）

過去 1 年間の実施率が高かった(実施者数が n=50 人以上)主なスポーツ・運動である、「ウォーキング、散歩」「体操」「室内運動器具を用いる運動」「水泳・遊泳」における対象期間前後での実施日数の比較については、【図表 69】～【図表 72】を参照。

### (3)影響を受ける前後での実施日数増減別のスポーツ・運動の実施状況

対象期間前後でのスポーツ・運動実施日数の増減別にみると、「実施日数減」では、「週1日程度」(27.9%)、「月に1~3日程度」(25.4%)の割合が高かった。「変化なし」では「週3日以上」が42.9%となり割合が高かった。【図表 135】

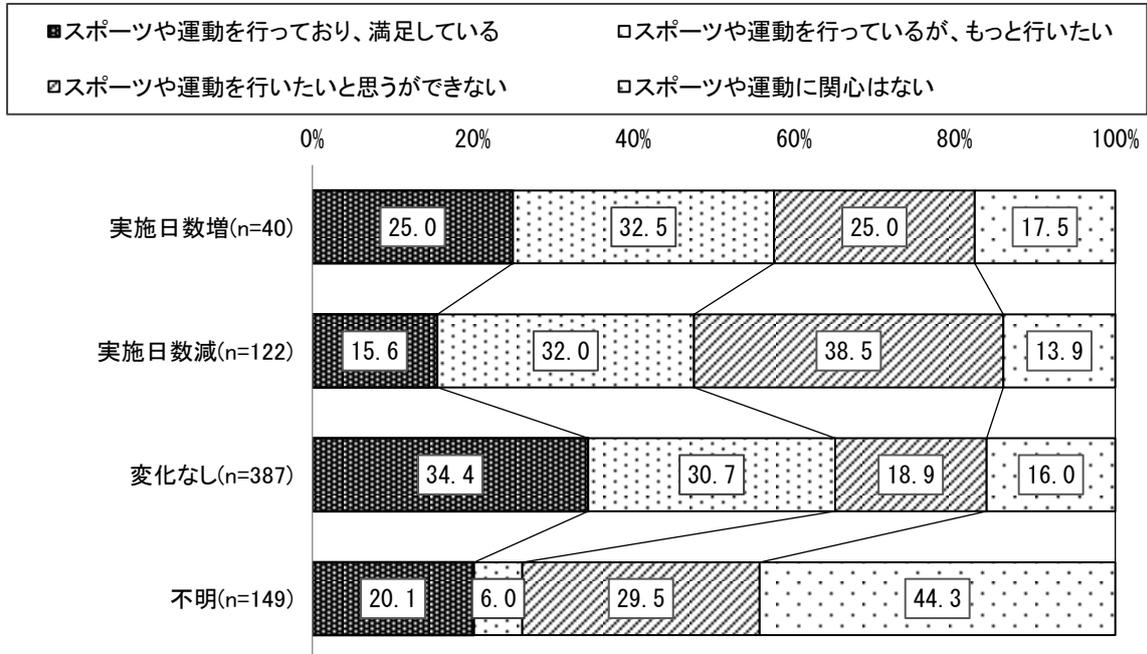
【図表 135】過去1年間にスポーツ・運動を行った日数（実施日数の増減別）



※ 本調査の調査票には、新型コロナウイルス感染症による影響を受ける前の期間（令和元年9月頃～令和2年2月頃）と影響を受けた期間（令和2年3月頃～令和2年9月頃）の実施日数の増減を直接問う設問はない。対象期間前期の回答と対象期間後期の回答を比べることにより、実施日数の増減を集計している。例えば、対象期間前期で「週1日程度」と回答し、対象期間後期で「週3日以上」と回答があれば「実施日数増」としている。

現在のスポーツ・運動への取組を、対象期間前後での、スポーツ・運動実施日数の増減別にみると、「実施日数減」では、「スポーツや運動を行いたいと思うができない」(38.5%)、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」(32.0%)の割合が高い。「変化なし」では「スポーツや運動を行っており、満足している」(34.4%)、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」(30.7%)が高かった。【図表 136】

【図表 136】現在のスポーツ・運動への取組（実施日数の増減別）

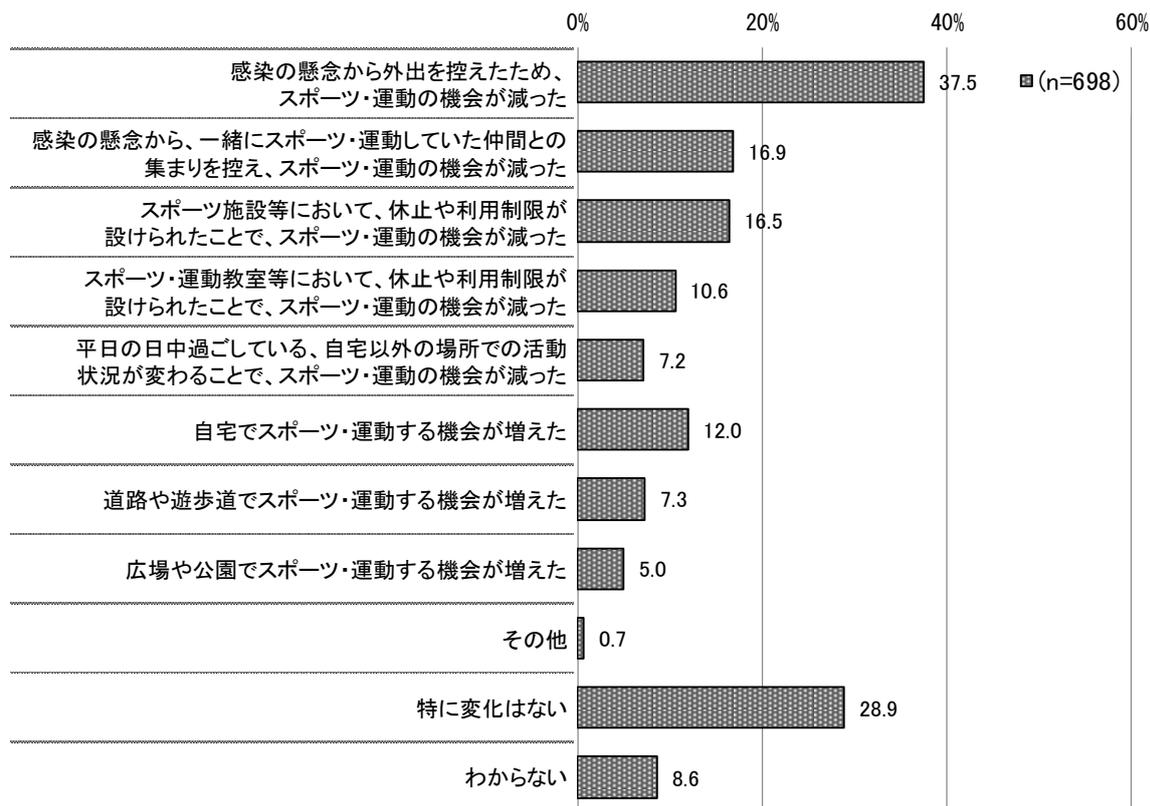


#### (4) 新型コロナウイルス感染症によるスポーツ・運動活動への影響・変化

新型コロナウイルス感染症によるスポーツ・運動活動への影響・変化については、「感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った」(37.5%)が最も多かった。次いで「特に変化はない」(28.9%)、「感染の懸念から、一緒にスポーツ・運動していた仲間との集まりを控え、スポーツ・運動の機会が減った」(16.9%)、「スポーツ施設等において、休止や利用制限が設けられたことで、スポーツ・運動の機会が減った」(16.5%)の順となった。変化として「機会が増えた」との回答は、その後に続く「自宅でスポーツ・運動する機会が増えた」(12.0%)が初出となり、5位となった。

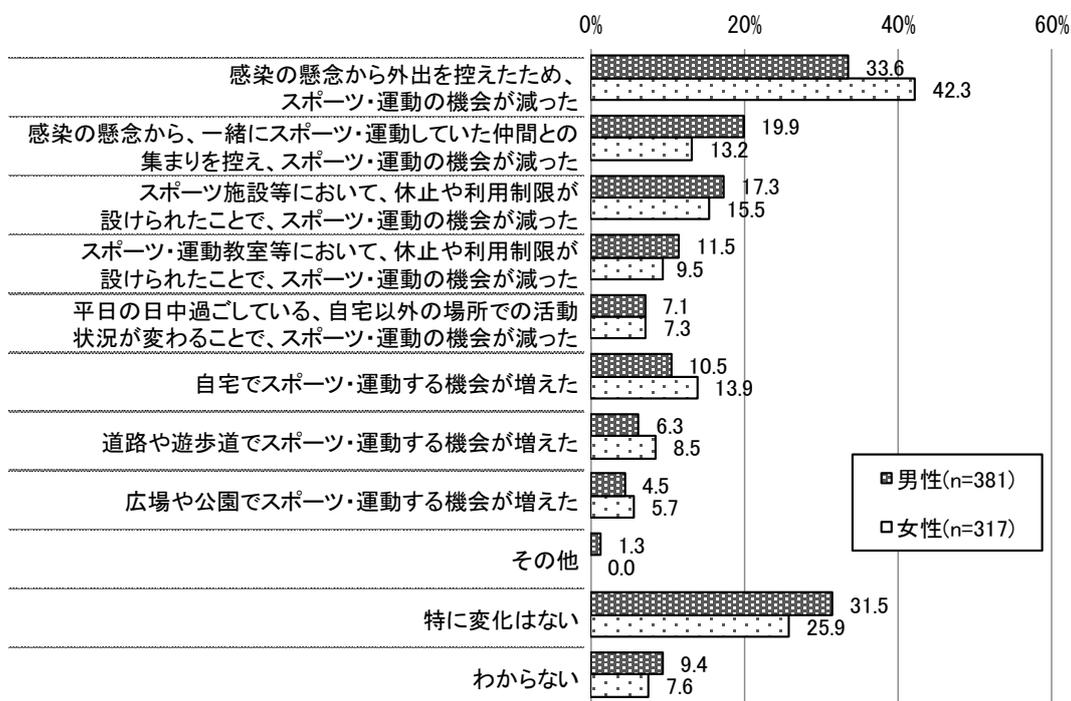
【図表 137】

【図表 137】新型コロナウイルス感染症による影響・変化[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



性別でみると、「感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った」は女性で42.3%、男性で33.6%となり8.7ポイントの差があった。【図表 138】

【図表 138】新型コロナウイルス感染症による影響・変化(性別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



障害種別にみると、「肢体不自由」と「内部障害」で「感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った」の割合が高く、いずれも4割を超えた。【図表 139】

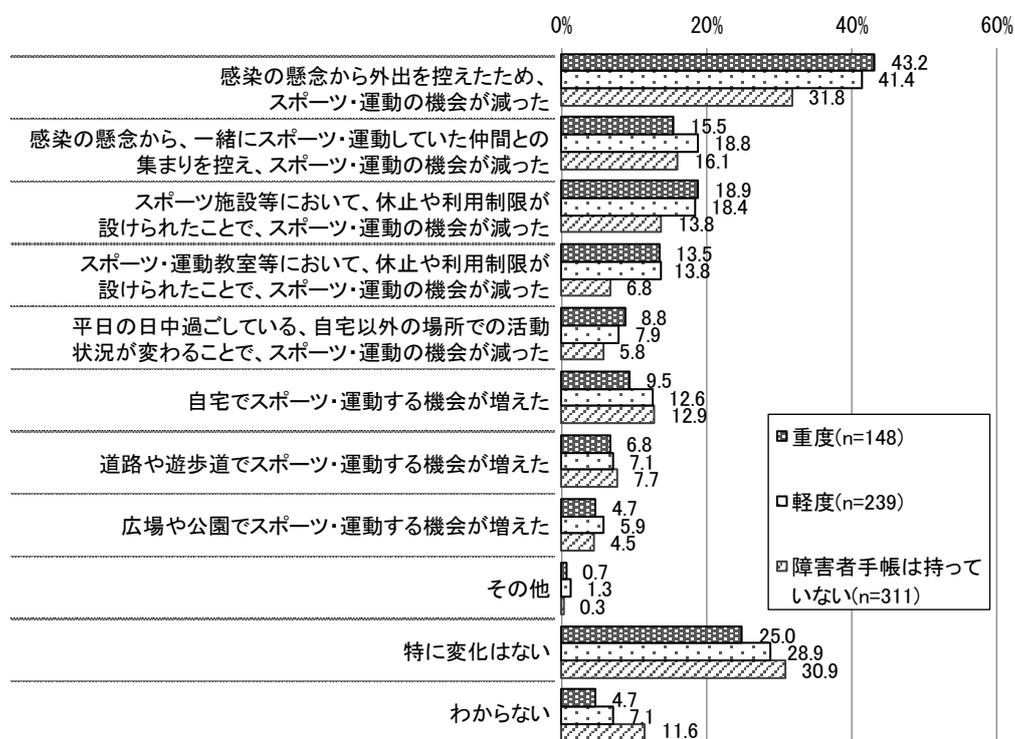
【図表 139】新型コロナウイルス感染症による影響・変化(障害種別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>

(単位:%)

	n	感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った	感染の懸念から、一緒にスポーツ・運動していた仲間との集まりを控えた	スポーツ施設等において、休止や利用制限が設けられたことで、スポーツ・運動の機会が減った	スポーツ・運動教室等において、休止や利用制限が設けられたことで、スポーツ・運動の機会が減った	平日の日中過ごしている、自宅以外の場所での活動状況が変わることで、スポーツ・運動の機会が減った	自宅でスポーツ・運動する機会が増えた	道路や遊歩道でスポーツ・運動する機会が増えた	広場や公園でスポーツ・運動する機会が増えた	その他	特に変化はない	わからない
視覚障害	74	31.1	28.4	12.2	14.9	5.4	13.5	6.8	10.8	0.0	20.3	14.9
聴覚・平衡機能障害	72	37.5	13.9	18.1	12.5	9.7	12.5	12.5	9.7	0.0	23.6	8.3
音声・言語・そしゃく機能障害	31	35.5	38.7	32.3	29.0	9.7	12.9	12.9	6.5	0.0	12.9	6.5
肢体不自由	242	40.5	19.8	16.9	11.6	8.3	16.9	7.4	5.0	0.8	30.6	7.0
内部障害	147	41.5	14.3	17.0	12.2	5.4	8.2	5.4	2.0	1.4	27.9	8.2
知的障害	76	34.2	15.8	23.7	13.2	11.8	10.5	9.2	7.9	1.3	21.1	13.2
精神障害	123	32.5	9.8	10.6	4.9	6.5	13.8	6.5	4.1	0.8	36.6	6.5
その他	8	25.0	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	50.0	0.0

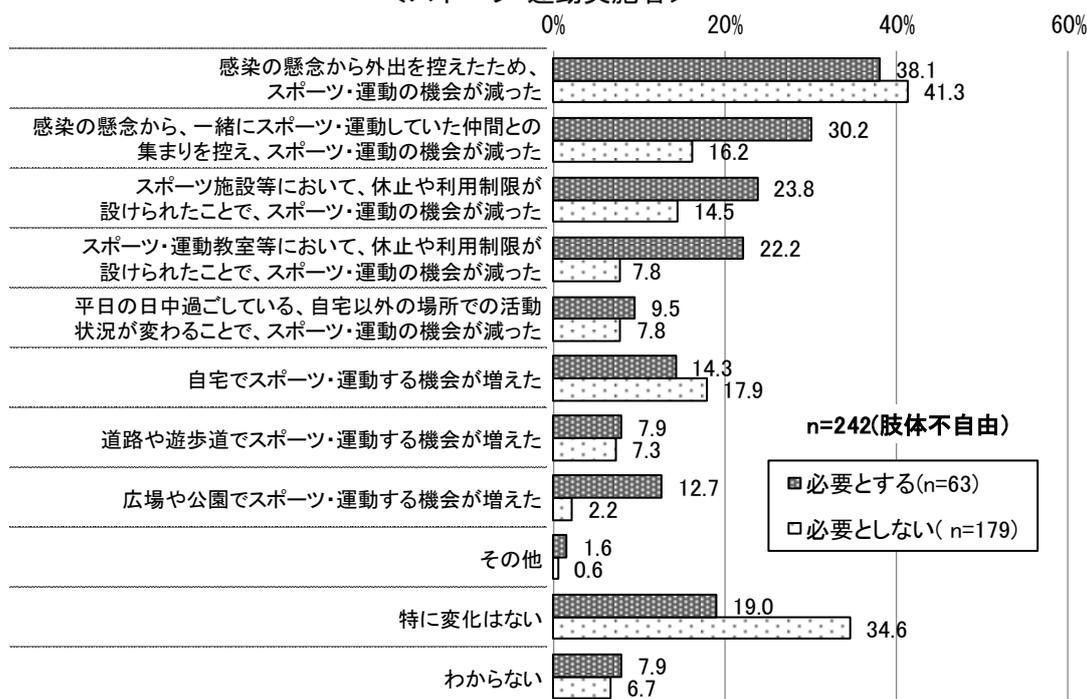
障害の程度別にみると、「重度」と「軽度」において、「感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った」が4割を超えたが、「障害者手帳の非保持者」では約3割となった。【図表 140】

【図表 140】新型コロナウイルス感染症による影響・変化(障害の程度別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



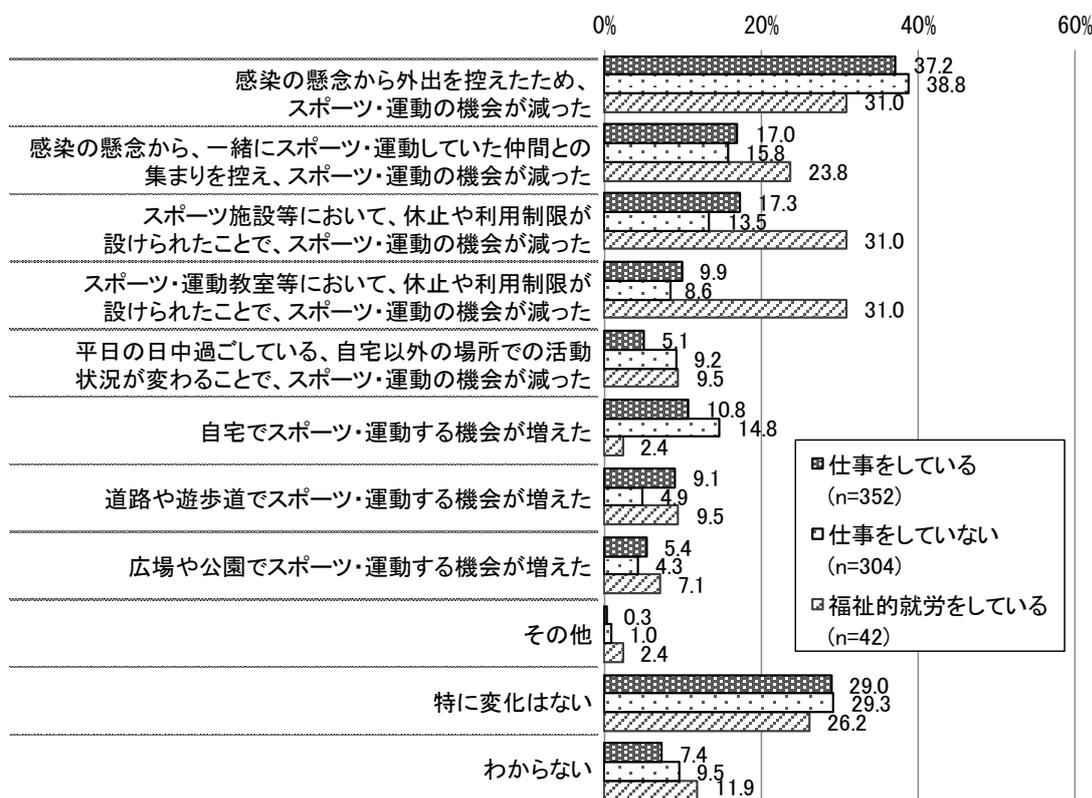
日常生活で車いす必要／不要別にみると、「スポーツ・運動教室等において、休止や利用制限が設けられたことで、スポーツ・運動の機会が減った」では、「日常生活で車いすを必要とする」(22.2%)と「日常生活で車いすを必要としない」(7.8%)とで14.4ポイントの差があった。【図表 141】

【図表 141】新型コロナウイルス感染症による影響・変化(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



就業状況別にみると、「仕事をしている」「仕事をしていない」は、おおむね大きなポイント差はなかったが、「福祉的就労をしている」では、他の区分と比較してポイント差のある項目があり、特に「スポーツ施設等において、休止や利用制限が設けられたことで、スポーツ・運動の機会が減った」「スポーツ・運動教室等において、休止や利用制限が設けられたことで、スポーツ・運動の機会が減った」で、他の区分よりも割合が高く、いずれも31.0%となった。【図表 142】

【図表 142】新型コロナウイルス感染症による影響・変化(就業状況別)[複数回答]<スポーツ・運動実施者>



平日・日中の居場所別にみると、「通所施設（生活介護、デイケアなど）」と「自分の家」において、「感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った」の割合が高く、いずれも4割を超えた。【図表 143】

【図表 143】新型コロナウイルス感染症による影響・変化（平日・日中の居場所別）[複数回答]  
 <スポーツ・運動実施者>

(単位:%)

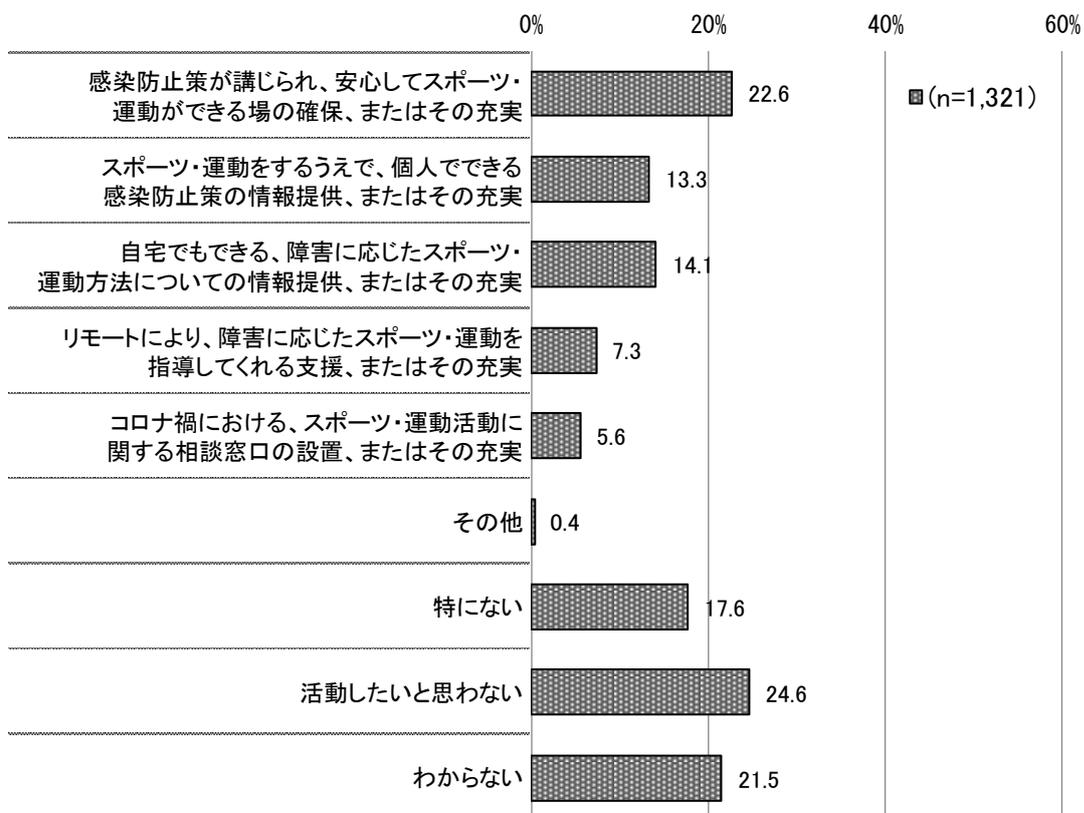
	n	感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った	スポーツ・運動の機会が減った	感染の懸念から、一緒にスポーツ・運動していた仲間との集まりを控え、スポーツ・運動の機会が減った	利用制限が設けられたことで、スポーツ施設等において、休止や利用制限が設けられたこと、	休止や利用制限が設けられたこと、	スポーツ・運動の機会が減った	スポーツ・運動教室等において、	場所での活動状況が変わること、	平日の日中過ごしている、自宅以外の	自宅で	道路や遊歩道で	広場や公園で	その他	特に変化はない	わからない
自分の家	395	40.3	15.9	13.9	7.8	7.3	13.2	4.6	4.6	0.8	28.1	9.1				
職場 (一般企業など)	206	34.5	17.5	17.0	11.7	5.3	11.7	11.2	5.3	0.5	34.0	5.8				
職場 (福祉的就労の施設)	37	29.7	27.0	27.0	21.6	8.1	5.4	10.8	2.7	0.0	24.3	13.5				
学校	11	27.3	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2	9.1	0.0	0.0	36.4	27.3				
通所施設 (生活介護、デイケアなど)	32	43.8	15.6	28.1	25.0	18.8	6.3	6.3	6.3	0.0	15.6	3.1				
入所施設	8	12.5	25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	25.0	25.0	0.0	12.5	12.5				
その他	9	33.3	11.1	22.2	11.1	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	22.2				

## (5) 新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援

新型コロナウイルス感染症の影響下でスポーツや運動を行う際に必要だと考える支援は、「活動したいと思わない」(24.6%)が最も高く、次いで「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」(22.6%)、「わからない」(21.5%)であった。

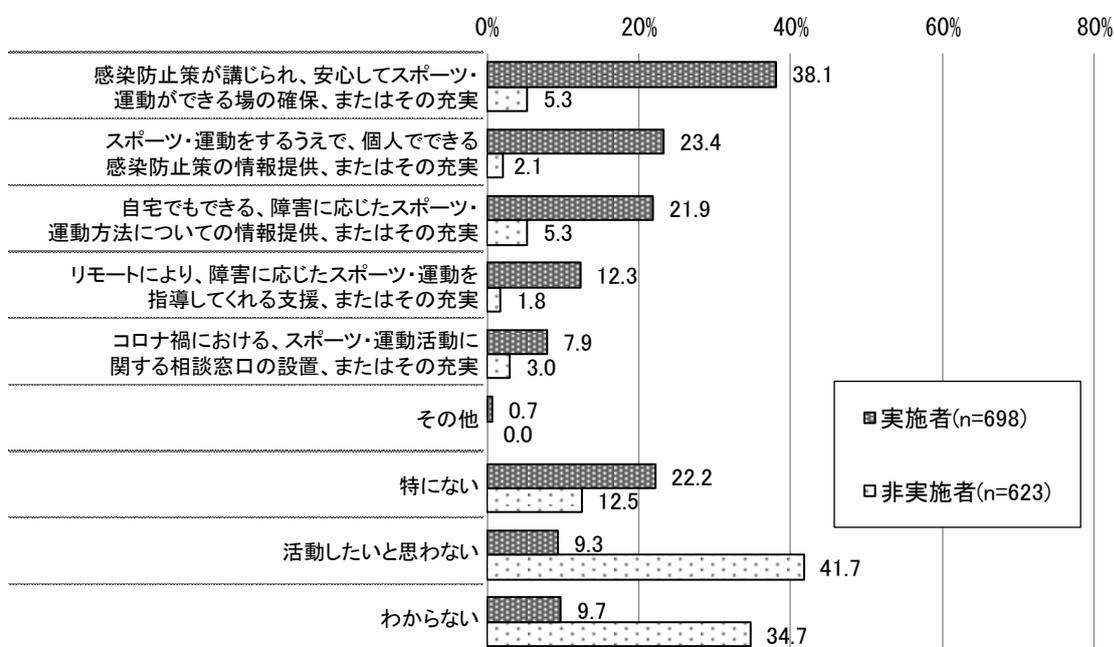
必要な支援があると回答した中では、「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」(22.6%)が最も高く、次いで「自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、またはその充実」(14.1%)、「スポーツ・運動をするうえで、個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実」(13.3%)、「リモートにより、障害に応じたスポーツ・運動を指導してくれる支援、またはその充実」(7.3%)、「コロナ禍における、スポーツ・運動活動に関する相談窓口の設置、またはその充実」(5.6%)であった。【図表 144】

【図表 144】新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援[複数回答]



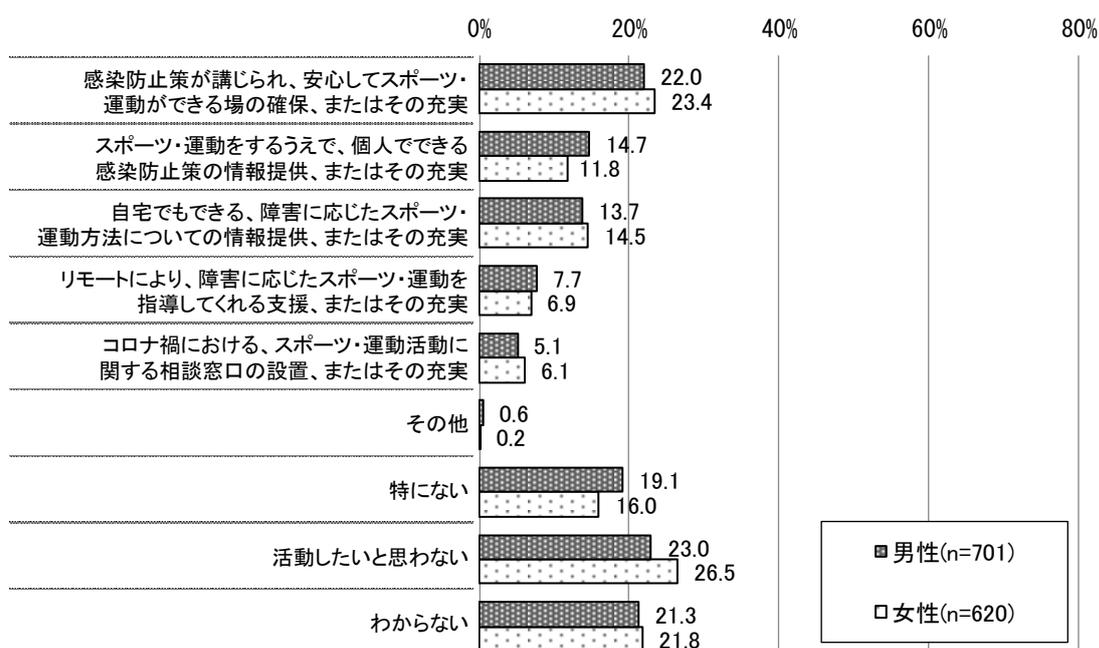
スポーツ・運動の実施の有無別にみると、実施者の必要と考える支援は、「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」(38.1%)、「スポーツ・運動をするうえで、個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実」(23.4%)、「自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、またはその充実」(21.9%)の順となった。【図表 145】

【図表 145】新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援(スポーツ・運動の実施の有無別) [複数回答]



性別でみると、男女とも「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」が2割を超えた。【図表 146】

【図表 146】新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援(性別) [複数回答]



障害種別にみると、「音声・言語・そしゃく機能障害」「肢体不自由」で、「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」の割合が高く、それぞれ 29.3%、27.3% となった。【図表 147】

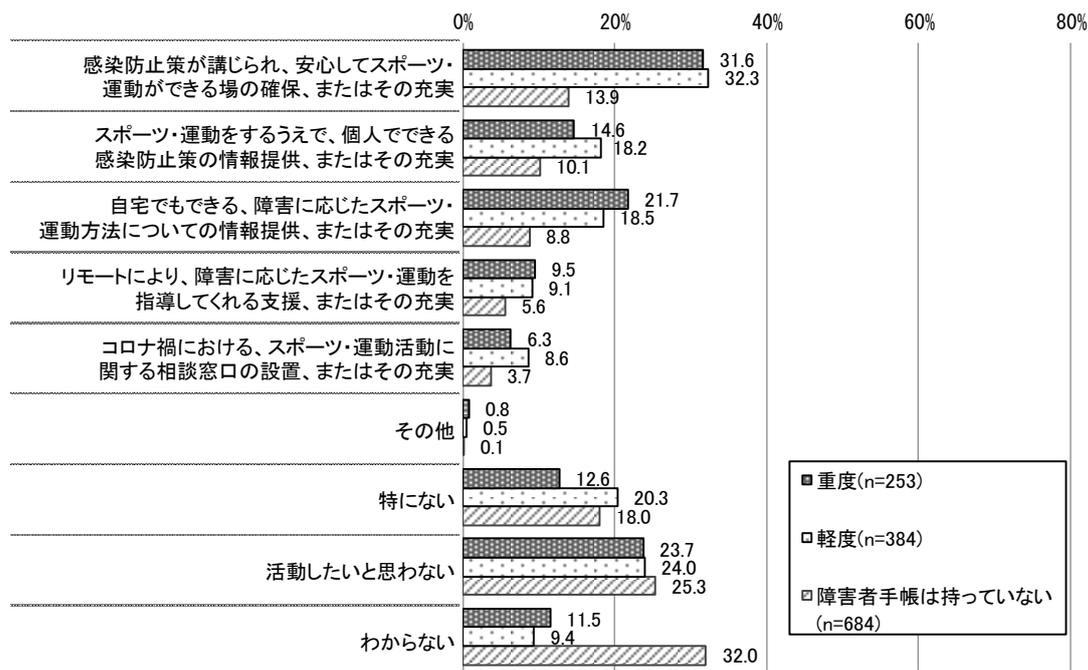
【図表 147】新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援(障害種別)[複数回答]

(単位:%)

	n	確保、またはその充実	感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実	個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実	スポーツ・運動をするうえで、個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実	自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、またはその充実	リモートにより、障害に応じたスポーツ・運動を指導してくれる支援、またはその充実	置、またはその充実	運動活動に関する相談窓口の設置、またはその充実	コロナ禍における、スポーツ・運動活動に関する相談窓口の設置、またはその充実	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない
視覚障害	159	18.2	10.1	12.6	10.1	6.9	0.0	10.7	27.0	30.2				
聴覚・平衡機能障害	139	22.3	14.4	15.1	11.5	6.5	0.0	12.2	28.8	16.5				
音声・言語・そしゃく機能障害	58	29.3	20.7	29.3	17.2	5.2	0.0	10.3	31.0	8.6				
肢体不自由	436	27.3	15.1	19.7	10.1	6.7	0.5	18.8	27.1	12.8				
内部障害	272	25.7	12.9	14.3	5.5	2.9	0.4	16.5	25.0	22.1				
知的障害	162	21.6	12.3	8.6	6.8	6.8	0.6	14.8	29.0	21.0				
精神障害	269	17.1	11.5	9.7	4.1	4.8	0.7	18.6	29.0	24.9				
その他	14	21.4	21.4	7.1	7.1	14.3	7.1	28.6	21.4	14.3				

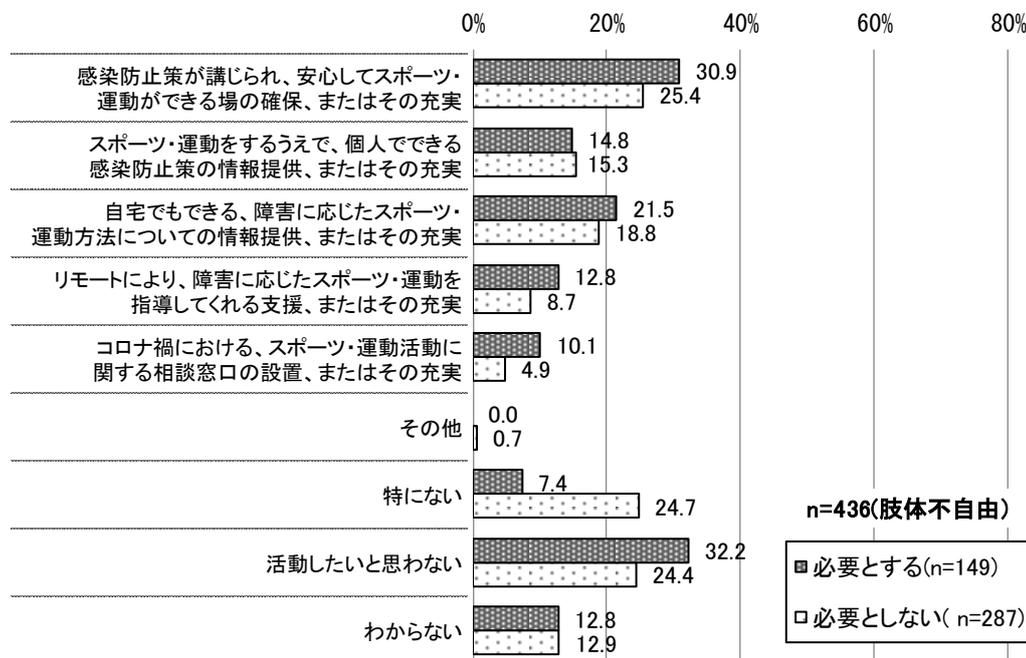
障害の程度別にみると、「重度」と「軽度」において「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」が 3 割を超えたのに対し、「障害者手帳の非保持者」では、約 1 割となった。【図表 148】

【図表 148】新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援(障害の程度別)[複数回答]



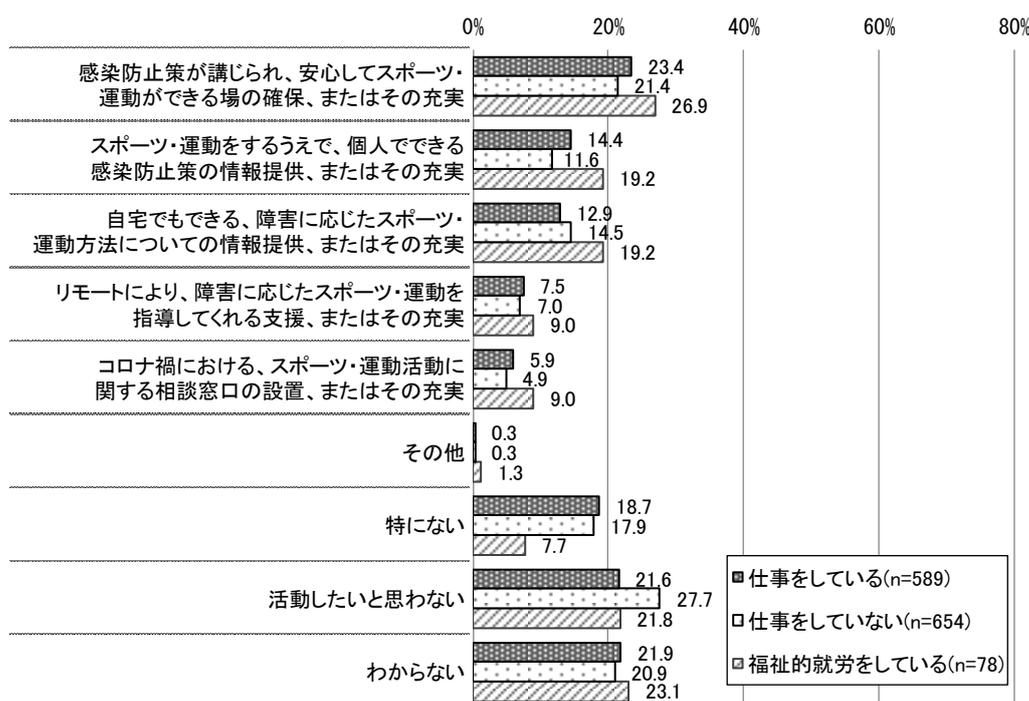
日常生活で車いす必要／不要別にみると、いずれの区分も、必要と考える支援は、「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」「自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、またはその充実」「スポーツ・運動をするうえで、個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実」の順となった。【図表 149】

【図表 149】新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援(日常生活で車いす必要／不要)[複数回答]



就業状況別にみると、「仕事をしている」と「仕事をしていない」では、新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援については、大きなポイントの差は見られなかったが、「福祉的就労をしている」では、「自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、またはその充実」が19.2%となり、「仕事をしている」の12.9%よりも高い割合となった。【図表 150】

【図表 150】新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援(就業状況別)[複数回答]



平日・日中の居場所別にみると、「通所施設（生活介護、デイケアなど）」「職場（福祉的就労の施設）」において「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」の割合が高く、3割程度となった。【図表 151】

【図表 151】新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援（平日・日中の居場所別）[複数回答]

(単位: %)

	n	確保、またはその充実	感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実	個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実	スポーツ・運動をするうえで、個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実	情報提供、またはその充実	自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、またはその充実	スポーツ・運動方法を指導してくれる支援、またはその充実	リモートにより、障害に応じたスポーツ・運動を指導してくれる支援、またはその充実	置、またはその充実	運動活動に関する相談窓口の設置、またはその充実	コロナ禍における、スポーツ・運動活動に関する相談窓口の設置、またはその充実	その他	特になし	活動したいと思わない	わからない
自分の家	788	22.1	13.1	15.5	7.7	5.5	0.4	16.1	26.3	21.4						
職場 (一般企業など)	357	22.7	13.4	10.9	5.6	5.6	0.6	22.7	24.6	19.0						
職場 (福祉的就労の施設)	51	29.4	23.5	15.7	11.8	9.8	0.0	11.8	15.7	17.6						
学校	18	16.7	22.2	11.1	11.1	5.6	0.0	33.3	11.1	33.3						
通所施設 (生活介護、デイケアなど)	52	32.7	13.5	19.2	11.5	3.8	0.0	11.5	23.1	9.6						
入所施設	41	12.2	2.4	9.8	4.9	4.9	0.0	4.9	14.6	58.5						
その他	14	28.6	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0	35.7	14.3	21.4						

対象期間の前後での、スポーツ・運動実施日数の増減別にみると、「実施日数減」においては「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」が5割を超えた。また、「変化なし」では、「コロナ禍における、スポーツ・運動活動に関する相談窓口の設置、またはその充実」は6.7%であるが、「実施日数増」では22.5%となった。【図表 152】

【図表 152】新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援（実施日数の増減別）[複数回答]

(単位: %)

	n	たはその充実	感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実	個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実	スポーツ・運動をするうえで、個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実	情報提供、またはその充実	自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、またはその充実	スポーツ・運動方法を指導してくれる支援、またはその充実	リモートにより、障害に応じたスポーツ・運動を指導してくれる支援、またはその充実	置、またはその充実	運動活動に関する相談窓口の設置、またはその充実	コロナ禍における、スポーツ・運動活動に関する相談窓口の設置、またはその充実	その他	特になし	活動したいと思わない	わからない
実施日数増	40	42.5	35.0	25.0	17.5	22.5	2.5	12.5	7.5	0.0						
実施日数減	122	58.2	29.5	32.8	19.7	9.8	1.6	10.7	7.4	6.6						
変化なし	387	37.2	25.8	20.2	12.4	6.7	0.3	27.9	8.5	4.1						
不明	149	22.8	8.7	16.8	4.7	5.4	0.7	19.5	13.4	29.5						

### 3 まとめ（調査結果の概要）

- 週に1日以上スポーツ・運動を実施した人は31.9%、スポーツ・運動を実施していない人は47.2%  
週に1日以上、何らかのスポーツ・運動を実施した人は31.9%で、昨年度から5.1ポイント低下した。一方、スポーツ・運動を実施していない人は昨年度とほぼ同水準の47.2%で、0.2ポイントの上昇であった。【図表 49】（P31 参照）
- 過去1年間に実施したスポーツ・運動の上位種目は、「ウォーキング、散歩」、「体操」、「室内運動器具を用いる運動」  
過去1年間にスポーツ・運動を実施した人が行った種目は、昨年度と同様、「ウォーキング、散歩」が72.8%と最も高く、次いで「体操」（29.8%）、「室内運動器具を用いる運動」（18.8%）であった。【図表 59】（P36 参照）
- スポーツ・運動を実施する場所は、「道路や遊歩道」、「自宅」、「広場や公園」  
スポーツ・運動を実施する場所は、「道路や遊歩道」が48.0%と最も高く、次いで「自宅」（42.7%）、「広場や公園」（28.8%）であった。昨年度と比べて、「自宅」は6.0ポイント上昇した。【図表 73】（P47 参照）
- スポーツ・運動を一緒に実施する人は、「一人」、「家族」、「福祉施設の職員・仲間」  
スポーツ・運動を一緒に実施する人は、昨年度と同様、「一人」が58.6%と最も高く、次いで「家族」（32.4%）、「福祉施設の職員・仲間」（10.3%）であった。昨年度と比べ、「一人」は4.4ポイント上昇し、「福祉施設の職員・仲間」は2.2ポイント低下した。【図表 80】（P54 参照）
- スポーツ・運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」、「運動不足解消のため」、「楽しみや気晴らしのため」  
スポーツ・運動を実施する理由は、「健康・体力づくりのため」が68.5%と最も高く、次いで「運動不足解消のため」（49.1%）、「楽しみや気晴らしのため」（37.4%）であった。「健康・体力づくりのため」は昨年度から2.8ポイント上昇した。【図表 87】（P61 参照）
- スポーツ・運動を実施しない理由は、「活動したいと思わない」、「活動したいが、身体的にできない」、「活動したいが、時間がない」  
スポーツ・運動を実施しない理由は、「活動したいと思わない」が73.8%と最も高く、次いで「活動したいが、身体的にできない」（16.4%）、「活動したいが、時間がない」（4.3%）と、昨年度と同様の順位となった。「活動したいと思わない」は昨年度から1.3ポイント上昇した【図表 94】（P68 参照）
- 全体の約半数の人がスポーツ・運動に関心がない  
現在のスポーツ・運動の取組に対して、「スポーツや運動に関心はない」との回答が52.8%で最も高く、次いで「スポーツや運動を行いたいと思うができない」（18.4%）、「スポーツや運動を行っており、満足している」（14.8%）、「スポーツや運動を行っているが、もっと行いたい」（14.1%）であった。  
昨年度と比べると、「スポーツや運動に関心はない」は3.6ポイント上昇し、「スポーツや運動を行っており、満足している」は2.5ポイント低下した。【図表 101】（P72 参照）

● スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援は「適切な指導者」など様々

スポーツ・運動を行う際に必要と考える支援は、「交通機関やまちのバリアフリー化」と「適切な指導者」がともに9.8%と最も高く、次いで「会場までの送迎」(9.0%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(8.7%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(7.0%)と様々であった。【図表 110】(P77 参照)

● 新型コロナウイルス感染症による影響は、「感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った」と答えた人がもっとも多い(新規設問)

新型コロナウイルス感染症により、スポーツ・運動活動にどのような影響・変化があったかを尋ねたところ、「感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った」が37.5%と最も高く、次いで、「特に変化はない」(28.9%)、「感染の懸念から、一緒にスポーツ・運動していた仲間との集まりを控え、スポーツ・運動の機会が減った」(16.9%)、「スポーツ施設等において、休止や利用制限が設けられたことで、スポーツ・運動の機会が減った」(16.5%)となった。「機会が増えた」との回答は、この後に続く5位で、「自宅でスポーツ・運動する機会が増えた」(12.0%)であった。【図表 137】(P102 参照)

● 新型コロナウイルス感染症影響下で必要と考える支援は、「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保」など(新規設問)

新型コロナウイルス感染症の影響下で、スポーツ・運動を行う際に必要な支援を尋ねたところ、「感染防止策が講じられ、安心してスポーツ・運動ができる場の確保、またはその充実」との回答が22.6%で最も高かった。次いで、「自宅でもできる、障害に応じたスポーツ・運動方法についての情報提供、またはその充実」(14.1%)、「スポーツ・運動をするうえで、個人でできる感染防止策の情報提供、またはその充実」(13.3%)、「リモートにより、障害に応じたスポーツ・運動を指導してくれる支援、またはその充実」(7.3%)、「コロナ禍における、スポーツ・運動活動に関する相談窓口の設置、またはその充実」(5.6%)となった。【図表 144】(P107 参照)



## 参考文献・付録

## 参考文献

東京都, 『都民生活に関する世論調査』, 令和3年1月, 108p

スポーツ庁, 『障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)』, 令和2年3月, 13p, 23p

## 【資料】 調査設問

### 《 予備調査 》

	分野	設問番号	設 問																
属性	回答者性別	1	あなたの性別をお答えください。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 男性 2 <input type="checkbox"/> 女性																
属性	回答者年齢	2	あなたの年齢をお答えください。 <input style="width: 40px;" type="text"/> 歳																
属性	回答者居住地域	3	あなたの居住している区市町村をお答えください。 区市町村(プルダウンで選択) <input style="width: 150px;" type="text"/>																
属性	障害の有無	4	あなた、あるいはあなたが同居するご家族で障害のある方はいますか。(当てはまるものすべて) ※障害者手帳の有無は問いません  1 <input type="checkbox"/> あなたご自身 2 <input type="checkbox"/> 配偶者 3 <input type="checkbox"/> 父親 4 <input type="checkbox"/> 母親 5 <input type="checkbox"/> 兄弟 6 <input type="checkbox"/> 姉妹 7 <input type="checkbox"/> お子様 8 <input type="checkbox"/> 上記の中で障害のある方はいない																
※以下の項目は、障害のある方それぞれについて、お答えください。 ※障害のある兄弟、姉妹、またはお子様が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の方についてのみお答えください。																			
属性	障害者の年齢	5	ご家族で障害のある方の年齢をお答えください。(それぞれ数値をご記入ください) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">ヨコに回答</th> <th style="width: 60%;">年 齢</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あなたご自身</td> <td><input style="width: 40px;" type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>配偶者</td> <td><input style="width: 40px;" type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>父親</td> <td><input style="width: 40px;" type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>母親</td> <td><input style="width: 40px;" type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>兄弟</td> <td><input style="width: 40px;" type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>姉妹</td> <td><input style="width: 40px;" type="text"/> 歳</td> </tr> <tr> <td>お子様</td> <td><input style="width: 40px;" type="text"/> 歳</td> </tr> </tbody> </table>	ヨコに回答	年 齢	あなたご自身	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳	配偶者	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳	父親	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳	母親	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳	兄弟	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳	姉妹	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳	お子様	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳
ヨコに回答	年 齢																		
あなたご自身	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳																		
配偶者	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳																		
父親	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳																		
母親	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳																		
兄弟	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳																		
姉妹	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳																		
お子様	<input style="width: 40px;" type="text"/> 歳																		
属性	障害者の性別	6	障害のあるお子様の性別をお答えください。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 男性 2 <input type="checkbox"/> 女性																

属性	障害種別	7	あなた、あるいはご家族で障害のある方の障害の種類をお答えください。(当てはまるものすべて)											
			ヨコに回答	1 視覚障害	2 聴覚・平衡機能障害	3 音声・言語・そしやく障害	4 肢体不自由(上肢)	5 肢体不自由(下肢)	6 肢体不自由(体幹)	7 肢体不自由(脳原性運動機能障害※)	8 内部障害	9 知的障害	10 精神障害	11 その他
			あなたご自身											
			配偶者											
			父親											
			母親											
			兄弟											
			姉妹											
お子様														
※脳性まひによる脳病変上肢機能障害、脳病変移動機能障害など														
属性	障害種別	7-1	問7で、選択肢4, 5, 6, 7のうち1つ以上該当した方にお聞きします 該当する方は日常生活で車いすを必要としていますか。(それぞれ当てはまるもの1つ)											
			ヨコに回答	必要とする	必要としない									
			あなたご自身											
			配偶者											
			父親											
			母親											
			兄弟											
			姉妹											
お子様														

《本調査》

分野	設問番号	設問
障害のある( )についてお伺いします。		
(属性)	障害者手帳の有無 1	障害のある( )は障害者手帳はお持ちですか。(当てはまるものすべて) 1 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 1級 2 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 2級 3 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 3級 4 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 4級 5 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 5級 6 <input type="checkbox"/> 身体障害者手帳 6級 7 <input type="checkbox"/> 療育手帳(愛の手帳)1度(最重度) 8 <input type="checkbox"/> 療育手帳(愛の手帳)2度(重度) 9 <input type="checkbox"/> 療育手帳(愛の手帳)3度(中度) 10 <input type="checkbox"/> 療育手帳(愛の手帳)4度(軽度) 11 <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳 1級 12 <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳 2級 13 <input type="checkbox"/> 精神障害者保健福祉手帳 3級 14 <input type="checkbox"/> 障害者手帳は持っていない
(属性)	受傷の時期 2	障害のある( )は何歳から障害がありますか。 複数の障害がある方は、最初に障害が発生した年齢をお答えください。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 出生時 2 <input type="checkbox"/> <input type="text"/> 歳のとき
アンケート	仕事の有無 3	障害のある( )は、この1年間に収入を伴う仕事をしていましたか。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 仕事をしている 2 <input type="checkbox"/> 仕事をしていない 3 <input type="checkbox"/> 福祉的就労をしている(就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援)
アンケート	平日過ごす場所 4	障害のある( )は、この1年間に平日の日に、主にどこで過ごしていましたか。(当てはまるもの1つ) 1 <input type="checkbox"/> 自分の家 2 <input type="checkbox"/> 職場(一般企業など) 3 <input type="checkbox"/> 職場(福祉的就労(就労移行支援、就労継続支援A型・B型、就労定着支援)の施設) 4 <input type="checkbox"/> 学校 5 <input type="checkbox"/> 通所施設(生活介護、デイケアなど) 6 <input type="checkbox"/> 入所施設 7 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/>
アンケート	情報入手先 5	障害のある( )は、日頃、どこからスポーツ・運動にかかる情報を得ていますか。(当てはまるものすべて) 1 <input type="checkbox"/> 家族や友人 2 <input type="checkbox"/> 学校や職場、施設の人 3 <input type="checkbox"/> ボランティア、ヘルパーなどの支援者 4 <input type="checkbox"/> テレビやラジオ 5 <input type="checkbox"/> 新聞 6 <input type="checkbox"/> 区市町村などの広報誌 7 <input type="checkbox"/> 障害者団体の会合や機関誌 8 <input type="checkbox"/> インターネット 9 <input type="checkbox"/> SNS(ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど) 10 <input type="checkbox"/> 行政の窓口 11 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/> 12 <input type="checkbox"/> わからない



アンケート	実施頻度 (コロナ前)	6-2-1	<p>問6-2-1(コロナ影響前のスポーツ・運動の頻度)</p> <p>障害のある( )の、新型コロナウイルス感染症による影響を受ける前の期間(令和元年9月頃～令和2年2月頃)におけるスポーツや運動を実施した日数を全部足し合わせると、どの程度の頻度で行いましたか。(当てはまるもの1つ)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 週3日以上(期間中76日以上)</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 週2日程度(期間中51日～75日)</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 週1日程度(期間中26日～50日)</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 月に1～3日程度(期間中6日～25日)</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 3か月に1.2日程度(期間中2日～5日)</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 6か月に1日程度</p> <p>7 <input type="checkbox"/> わからない</p>
アンケート	実施頻度 (コロナ後)	6-2-2	<p>問6-2-2(コロナ影響後のスポーツ・運動の頻度)</p> <p>障害のある( )の、新型コロナウイルス感染症による影響を受けた期間(令和2年3月頃～現在)におけるスポーツや運動を実施した日数を全部足し合わせると、どの程度の頻度で行っていますか。(当てはまるもの1つ)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 週3日以上(期間中76日以上)</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 週2日程度(期間中51日～75日)</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 週1日程度(期間中26日～50日)</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 月に1～3日程度(期間中6日～25日)</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 3か月に1.2日程度(期間中2日～5日)</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 6か月に1日程度</p> <p>7 <input type="checkbox"/> わからない</p>
アンケート	実施頻度 (1年間)	6-2-3	<p>問6-2-3(この1年間のスポーツ・運動の頻度)</p> <p>障害のある( )のスポーツや運動を実施した日数を全部足し合わせると、この1年間(令和元年9月頃～現在)にどの程度の頻度で行っていますか。(当てはまるもの1つ)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 週3日以上(年151日以上)</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 週2日程度(年101日～150日)</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 週1日程度(年51日～100日)</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 月に1～3日程度(年12日～50日)</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 3か月に1.2日程度(年4日～11日)</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 年に1～3日程度</p> <p>7 <input type="checkbox"/> わからない</p>
アンケート	実施した場所	6-3	<p>障害のある( )がスポーツや運動を行った場所はどこですか。(当てはまるものすべて)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 自宅</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 道路や遊歩道</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 広場や公園</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 民間のスポーツ施設</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 公共のスポーツ施設(障害者専用施設)</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 公共のスポーツ施設(障害者専用施設以外)</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 小中高校の体育施設</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 特別支援学校の体育施設</p> <p>9 <input type="checkbox"/> 職場のスポーツ施設</p> <p>10 <input type="checkbox"/> 福祉施設</p> <p>11 <input type="checkbox"/> 医療機関</p> <p>12 <input type="checkbox"/> 山・川・海</p> <p>13 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>14 <input type="checkbox"/> わからない</p>

アンケート	一緒に実施する人	6-4	<p>障害のある( )がスポーツや運動を一緒にするのは誰ですか。(当てはまるものすべて)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 一人</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 家族</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 福祉施設の職員・仲間</p> <p>4 <input type="checkbox"/> スポーツ教室の指導者・仲間</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 地域の公共スポーツ施設の職員・仲間</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 障害者専用スポーツ施設の職員・仲間</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 障害がある人のサークル・障害者スポーツサークル等の仲間</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 障害がある人やない人など様々な人がいるサークルの仲間</p> <p>9 <input type="checkbox"/> ボランティアの人たち</p> <p>10 <input type="checkbox"/> 学校の先生や学校の友達</p> <p>11 <input type="checkbox"/> その他の友人・知人</p> <p>12 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>13 <input type="checkbox"/> わからない</p>
アンケート	実施した理由	6-5	<p>障害のある( )が、スポーツや運動をしたのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべて)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 健康・体づくりのため</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 楽しみや気晴らしのため</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 運動不足解消のため</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 精神の修養や訓練のため</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 自己の記録や能力を向上させるため</p> <p>6 <input type="checkbox"/> リハビリテーションや医療・治療のため</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 家族のふれあいのため</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 友人・仲間との交流のため</p> <p>9 <input type="checkbox"/> 美容や肥満解消のため</p> <p>10 <input type="checkbox"/> 障害者スポーツ大会に参加するため</p> <p>11 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>12 <input type="checkbox"/> わからない</p>
アンケート	実施していない理由	6-6	<p>障害のある( )が、スポーツや運動を行っていないのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべて)</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 活動したいが、身体的にできない</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 活動したいが、身近なところにスポーツや運動がやれる場所がない</p> <p>3 <input type="checkbox"/> 活動したいが、自分に合ったスポーツや運動の情報がない</p> <p>4 <input type="checkbox"/> 活動したいが、一緒にやる人がいない</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 活動したいが、時間がない</p> <p>6 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>7 <input type="checkbox"/> 活動したいと思わない</p>
アンケート	コロナによる影響	6-7	<p>新型コロナウイルス感染症により、障害のある( )のスポーツ・運動活動に、どのような影響・変化がありましたか。(当てはまるものすべて)</p> <p><input type="text"/> 《機会の減》</p> <p>1 <input type="checkbox"/> 感染の懸念から外出を控えたため、スポーツ・運動の機会が減った</p> <p>2 <input type="checkbox"/> 感染の懸念から、一緒にスポーツ・運動していた仲間との集まりを控え、スポーツ・運動の機会が減った</p> <p>3 <input type="checkbox"/> スポーツ施設等において、休止や利用制限が設けられたことで、スポーツ・運動の機会が減った</p> <p>4 <input type="checkbox"/> スポーツ・運動教室等において、休止や利用制限が設けられたことで、スポーツ・運動の機会が減った</p> <p>5 <input type="checkbox"/> 平日の日中過ごしている、自宅以外の場所(職場、学校、福祉施設等)での活動状況が変わることで、スポーツ・運動の機会が減った</p> <p><input type="text"/> 《機会の増》</p> <p>6 <input type="checkbox"/> 自宅でスポーツ・運動する機会が増えた</p> <p>7 <input type="checkbox"/> 道路や遊歩道でスポーツ・運動する機会が増えた</p> <p>8 <input type="checkbox"/> 広場や公園でスポーツ・運動する機会が増えた</p> <p>9 <input type="checkbox"/> その他 <input type="text"/></p> <p>10 <input type="checkbox"/> 特に変化はない</p> <p>11 <input type="checkbox"/> わからない</p>



障害者のスポーツに関する意識調査報告書

令和3年2月発行

登録番号(2)87

発行／東京都オリンピック・パラリンピック準備局

パラリンピック部障害者スポーツ課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03-5320-4241(直通)

FAX 03-5388-1229

調査委託／株式会社日旅ビジネスクリエイト